

荒川区人口ビジョン

平成28年3月

荒川区

目 次

I	人口ビジョン策定の趣旨等	2
1	人口ビジョンの目的及び位置付け	2
2	人口ビジョンの対象期間	2
II	人口動向分析	3
1	人口の推移	3
(1)	総人口の推移	3
(2)	年齢3区分別人口の推移	4
(3)	人口ピラミッド	8
(4)	世帯	10
(5)	地区別人口の推移	11
2	人口動態	13
(1)	人口動態の推移	13
(2)	自然動態の推移	14
(3)	社会動態の推移	16
3	人口動向分析から見える現状と課題	18
(1)	高齢化の進行	18
(2)	出生率の低さ	18
(3)	人口の流動性の高さ	19
III	目指すべき将来の方向性	20
1	目指すべき2つの方向性	20
(1)	出生率の向上	20
(2)	定住化の促進	25
2	人口の将来展望	27
(1)	将来人口推計手法の概要	27
(2)	将来人口推計	29
(3)	人口の将来展望	36
	参考資料	37
1	荒川区独自の将来人口推計算出方法の詳細	37
2	東京都の将来人口推計方法	53
3	国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計方法	55
4	その他の人口動向分析資料	59

I 人口ビジョン策定の趣旨等

1 人口ビジョンの目的及び位置付け

現在、日本では、少子高齢化と人口減少が進行しています。これは、社会保障費等の増大による財政の悪化、労働力の減少、消費市場の縮小による地域経済の衰退、コミュニティの衰退といった問題を招いています。

このような状況の中、国は、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を公布し、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保、地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進すること（以下「まち・ひと・しごと創生」という。）に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを掲げました。

そして、平成 26 年 12 月 27 日には、日本の人口の現状と将来を展望する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の政府の施策の方向性を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、その中で、人口減少への対応に国をあげて取り組むことを示しました。そして、各地方公共団体においても、国が示したビジョン及び総合戦略を勘案しつつ、人口動向分析や将来人口推計を示すとともに、人口減少に対応するために目指すべき将来の方向性を示した「地方人口ビジョン」及びその方向性を実現するための具体的な戦略を定めた「地方版総合戦略」を策定することが求められています。

「荒川区人口ビジョン」は、これらの動きを受け、人口減少社会を迎える中、荒川区が将来に渡って持続可能で活力ある地域社会を築いていくことを目的として、荒川区における人口の現状分析を示すとともに、人口の将来展望と今後目指すべき方向性を提示するものです。

2 人口ビジョンの対象期間

荒川区人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間と同様に、2060 年（平成 72 年）までとします。

Ⅱ 人口動向分析

ここでは、荒川区における現在までの人口動向の分析から今後講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、人口の推移や人口動態等に関する分析結果を示します。

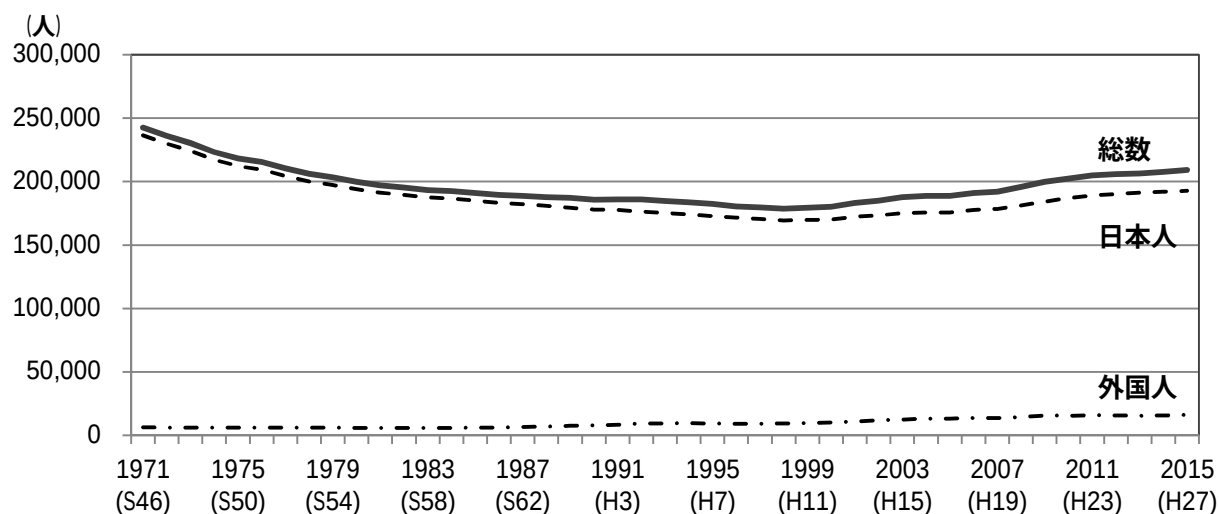
1 人口の推移

(1) 総人口の推移

荒川区の総人口の推移を見ると（図表 1）、1998 年（平成 10 年）を底に人口減少から増加に転じ、ここ数年は毎年 1,000 人以上の増加が続いており、2015 年（平成 27 年）1 月 1 日現在の総人口は 209,087 人となっています。

また、外国人人口については、1971 年（昭和 46 年）に 6,235 人であった人口が、2015 年（平成 27 年）には 16,188 人にまで増加し、約 2.6 倍になっており、これは総人口の 7.7%に当たります。

図表 1 総人口の推移



年	総数	日本人	外国人	年	総数	日本人	外国人	年	総数	日本人	外国人
1971	242,553	236,318	6,235	1986	189,413	183,222	6,191	2001	183,244	172,265	10,979
1972	235,860	229,775	6,085	1987	188,663	182,175	6,488	2002	185,057	173,246	11,811
1973	230,334	224,253	6,081	1988	187,728	180,909	6,819	2003	187,694	175,189	12,505
1974	223,297	217,269	6,028	1989	187,219	179,514	7,705	2004	188,673	175,647	13,026
1975	218,318	212,260	6,058	1990	185,753	177,895	7,858	2005	188,781	175,726	13,055
1976	215,482	209,414	6,068	1991	185,973	177,601	8,372	2006	191,096	177,547	13,549
1977	210,402	204,416	5,986	1992	185,888	176,484	9,404	2007	192,124	178,399	13,725
1978	206,026	200,043	5,983	1993	184,661	175,295	9,366	2008	195,727	181,205	14,522
1979	203,344	197,359	5,985	1994	183,602	174,116	9,486	2009	199,916	184,207	15,709
1980	199,965	194,075	5,890	1995	182,352	172,923	9,429	2010	202,414	186,906	15,508
1981	197,125	191,222	5,903	1996	180,505	171,469	9,036	2011	204,837	188,968	15,869
1982	195,304	189,475	5,829	1997	179,617	170,587	9,030	2012	205,831	190,164	15,667
1983	193,231	187,457	5,774	1998	178,640	169,394	9,246	2013	206,457	191,144	15,313
1984	192,612	186,720	5,892	1999	179,412	169,808	9,604	2014	207,635	192,076	15,559
1985	191,009	184,949	6,060	2000	180,238	170,108	10,130	2015	209,087	192,899	16,188

単位 人

※（資料）住民基本台帳、外国人登録人口（各年 1 月 1 日時点）

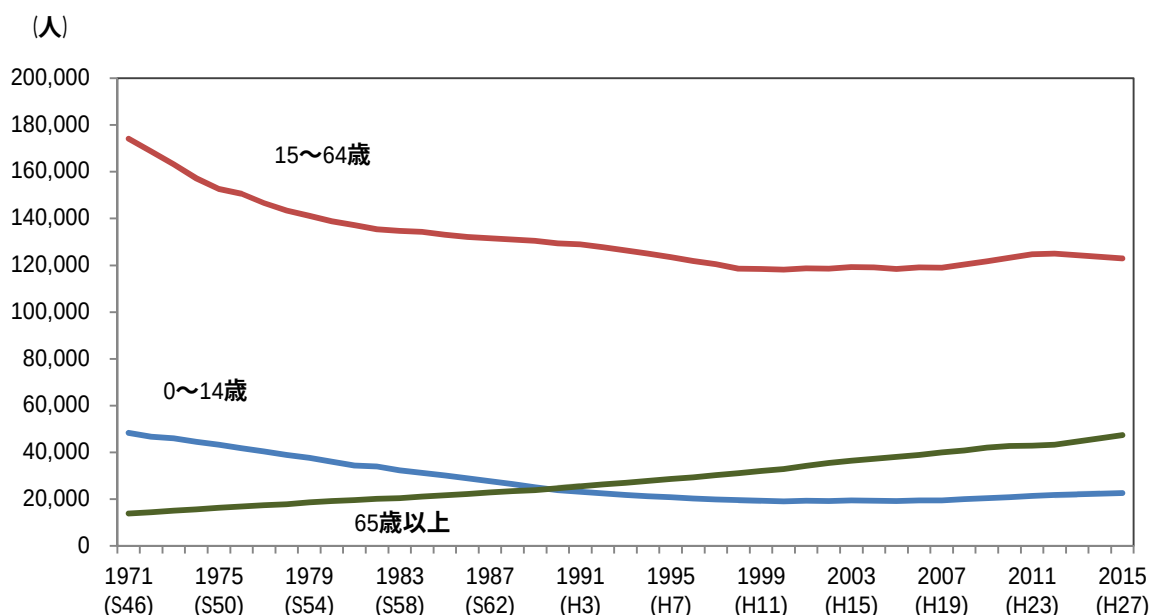
(2) 年齢3区分別人口の推移

日本人の年齢3区分別人口の推移を見ると（図表2）、0～14歳人口（年少人口）は、1971年（昭和46年）以降減少傾向となっていました。2000年（平成12年）の19,060人を底に、若干の増加傾向にあります。

15～64歳人口（生産年齢人口）は、1971年（昭和46年）以降、概ね減少傾向にありましたが、2008年（平成20年）以降は概ね120,000人程度で推移しています。

65歳以上人口（老年人口）は一貫して増加傾向となっており、ここ数年は、年間1,300人程度の増加となっています。

図表2 年齢3区分別人口の推移（日本人）



年	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	年	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
1971	236,318	48,306	174,085	13,927	1994	174,116	21,211	125,065	27,840
1972	229,775	46,722	168,598	14,455	1995	172,923	20,805	123,489	28,629
1973	224,253	46,000	163,157	15,096	1996	171,469	20,354	121,811	29,304
1974	217,269	44,502	157,103	15,664	1997	170,587	19,908	120,438	30,241
1975	212,260	43,336	152,633	16,291	1998	169,394	19,625	118,634	31,135
1976	209,414	41,842	150,648	16,924	1999	169,808	19,352	118,380	32,076
1977	204,416	40,360	146,651	17,405	2000	170,108	19,060	118,123	32,925
1978	200,043	38,979	143,273	17,791	2001	172,265	19,300	118,641	34,324
1979	197,359	37,620	141,108	18,631	2002	173,246	19,252	118,525	35,469
1980	194,075	36,060	138,867	19,148	2003	175,189	19,487	119,188	36,514
1981	191,222	34,419	137,185	19,618	2004	175,647	19,283	119,092	37,272
1982	189,475	33,944	135,366	20,165	2005	175,726	19,238	118,458	38,030
1983	187,457	32,320	134,657	20,480	2006	177,547	19,484	119,128	38,935
1984	186,720	31,213	134,320	21,187	2007	178,399	19,450	119,001	39,948
1985	184,949	30,113	133,102	21,734	2008	181,205	19,974	120,391	40,840
1986	183,222	28,897	132,072	22,253	2009	184,207	20,433	121,775	41,999
1987	182,175	27,691	131,600	22,884	2010	186,906	20,874	123,283	42,749
1988	180,909	26,409	131,090	23,410	2011	188,968	21,456	124,664	42,848
1989	179,514	25,075	130,525	23,914	2012	190,164	21,870	124,977	43,317
1990	177,895	23,878	129,387	24,630	2013	191,144	22,077	124,352	44,715
1991	177,601	23,143	129,001	25,457	2014	192,076	22,353	123,678	46,045
1992	176,484	22,491	127,717	26,276	2015	192,899	22,632	122,905	47,362
1993	175,295	21,847	126,432	27,016					

単位 人

※（資料）住民基本台帳（各年1月1日時点）

※ 日本人のみのデータ

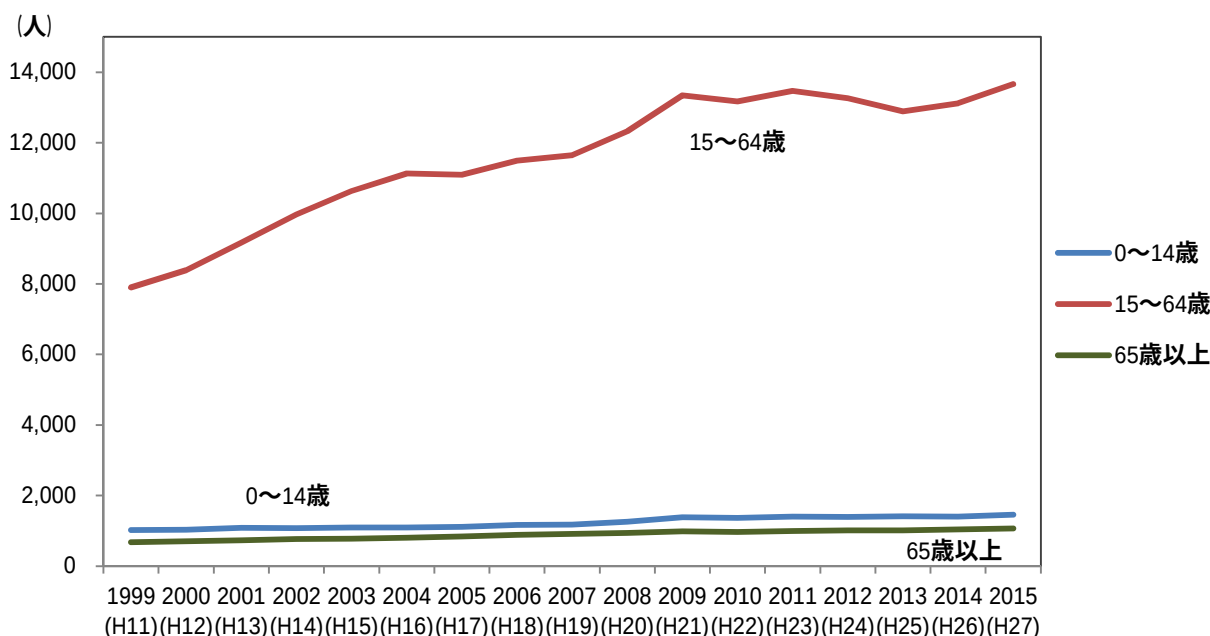
外国人の年齢 3 区分別人口の推移を見てみると（図表 3）、0～14 歳人口（年少人口）は、1999 年（平成 11 年）時点で 1,020 人であったのが、2015 年（平成 27 年）には 1,461 人と 441 人の増加となっています。

15～64 歳人口（生産年齢人口）については、1999 年（平成 11 年）時点で 7,904 人であったのが 2015 年（平成 27 年）には 13,662 人と、5,758 人の増加、約 1.7 倍となっています。

65 歳以上人口（老年人口）については、1999 年（平成 11 年）時点で 680 人であったのが 2015 年（平成 27 年）には 1,065 人と、385 人の増加となっています。

このように、15～64 歳人口（生産年齢人口）が他の 2 区分と比べ大きく増加していることがわかります。

図表 3 年齢 3 区分別人口の推移（外国人）



年	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	年	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
1999	9,604	1,020	7,904	680	2008	14,522	1,259	12,326	937
2000	10,130	1,032	8,393	705	2009	15,709	1,383	13,343	983
2001	10,979	1,084	9,166	729	2010	15,508	1,364	13,175	969
2002	11,811	1,079	9,966	766	2011	15,869	1,399	13,471	999
2003	12,505	1,097	10,633	775	2012	15,667	1,395	13,259	1,013
2004	13,026	1,092	11,130	804	2013	15,313	1,411	12,887	1,015
2005	13,055	1,116	11,096	843	2014	15,559	1,399	13,120	1,040
2006	13,549	1,171	11,494	884	2015	16,188	1,461	13,662	1,065
2007	13,725	1,172	11,644	909					

単位 人

※（資料）外国人登録、住民基本台帳（各年 1 月 1 日時点）

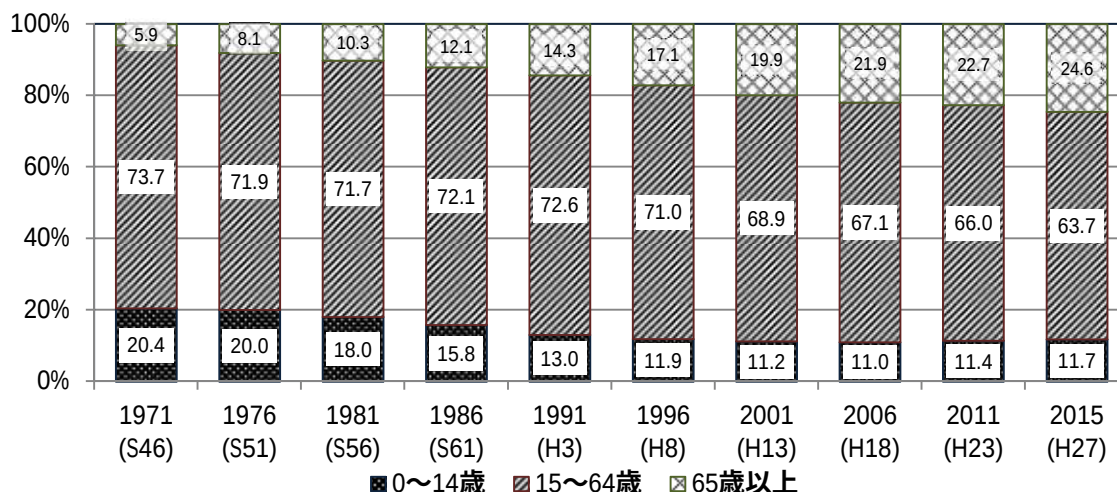
※ 外国人のみのデータ

日本人人口における年齢3区分別人口割合の5年ごとの推移を見ると（図表4）、年少人口割合は、1971年（昭和46年）の20.4%以降、2005年（平成17年）の10.9%を底として若干の上昇傾向にあり、2015年（平成27年）は11.7%となっています。

生産年齢人口割合は、1971年（昭和46年）の73.7%以降、概ね低下傾向にあり、2015年（平成27年）には63.7%となっています。

老年人口割合は、1971年（昭和46年）の5.9%以降、一貫して上昇し、2015年（平成27年）には24.6%となっています。

図表4 年齢3区分別人口割合の推移（日本人）



※（資料）住民基本台帳 （各年1月1日時点）

※ 日本のみのデータ

荒川区の老年人口割合・年少人口割合（平成27年1月1日現在）を全国及び23区と比較すると、まず、老年人口割合については、荒川区が24.6%、全国が26.2%、23区が21.5%となっており、荒川区は全国より割合が低いものの、23区全体と比較すると高くなっています。

年少人口割合については、荒川区が11.7%、全国が12.8%、23区が11.3%となっており、23区全体と比較すると若干割合は高くなっていますが、全国と比較すると低くなっています。

2015年（平成27年）の日本人人口192,899人と同程度の人口規模である1981年（昭和56年）の197,125人と比較しても、1981年（昭和56年）には老年人口が10.3%、年少人口が18.0%だったのが、2015年（平成27年）には老年人口が24.6%、年少人口が11.7%となっています。このことから、ここ数年は若年人口割合が若干の上昇傾向にあるものの、ここ30～40年の間に少子高齢化が進行してきたことがわかります。

以上示してきたように、荒川区では、老年人口及び老年人口割合は1971年（昭和46年）以降一貫して上昇しており、時系列で見ると高齢化が進行しています。また、1971年（昭和46年）以降、しばらく年少人口及び年少人口割合は低下しており、少子化が進行していましたが、年少人口は2000年（平成12年）、年少人口割合は2006年（平成18年）を底として若干の上昇傾向にあります。

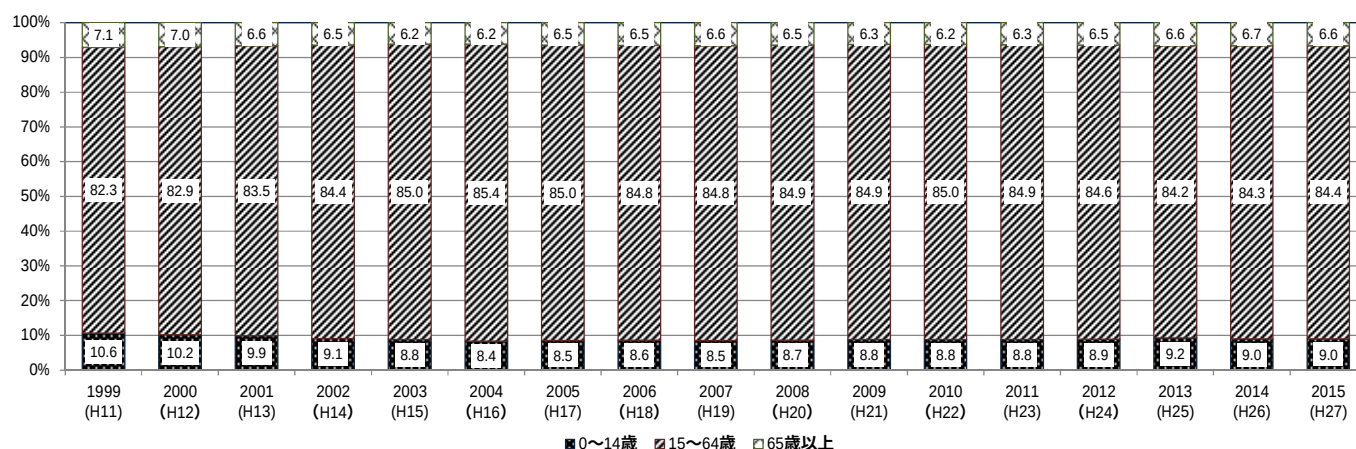
外国人人口における年齢 3 区分別人口割合の推移を見ると（図表 5）、年少人口割合については 1999 年（平成 11 年）以降、概ね 8%から 10%程度で推移しています。

生産年齢人口割合については、1999 年（平成 11 年）以降、82%から 85%程度で推移しています。

老年人口割合については、1999 年（平成 11 年）以降、6%から 7%程度で推移しています。

このことから、外国人人口における年齢 3 区分別人口割合の特徴として、生産年齢人口割合が 8 割以上を占めており特に高いこと、各年齢区分の割合の推移は概ね横ばいであり、大きな変動がないことがわかります。

図表 5 年齢 3 区分別人口割合の推移（外国人）



※（資料）外国人登録、住民基本台帳 （各年 1 月 1 日時点）

※ 外国人のみのデータ

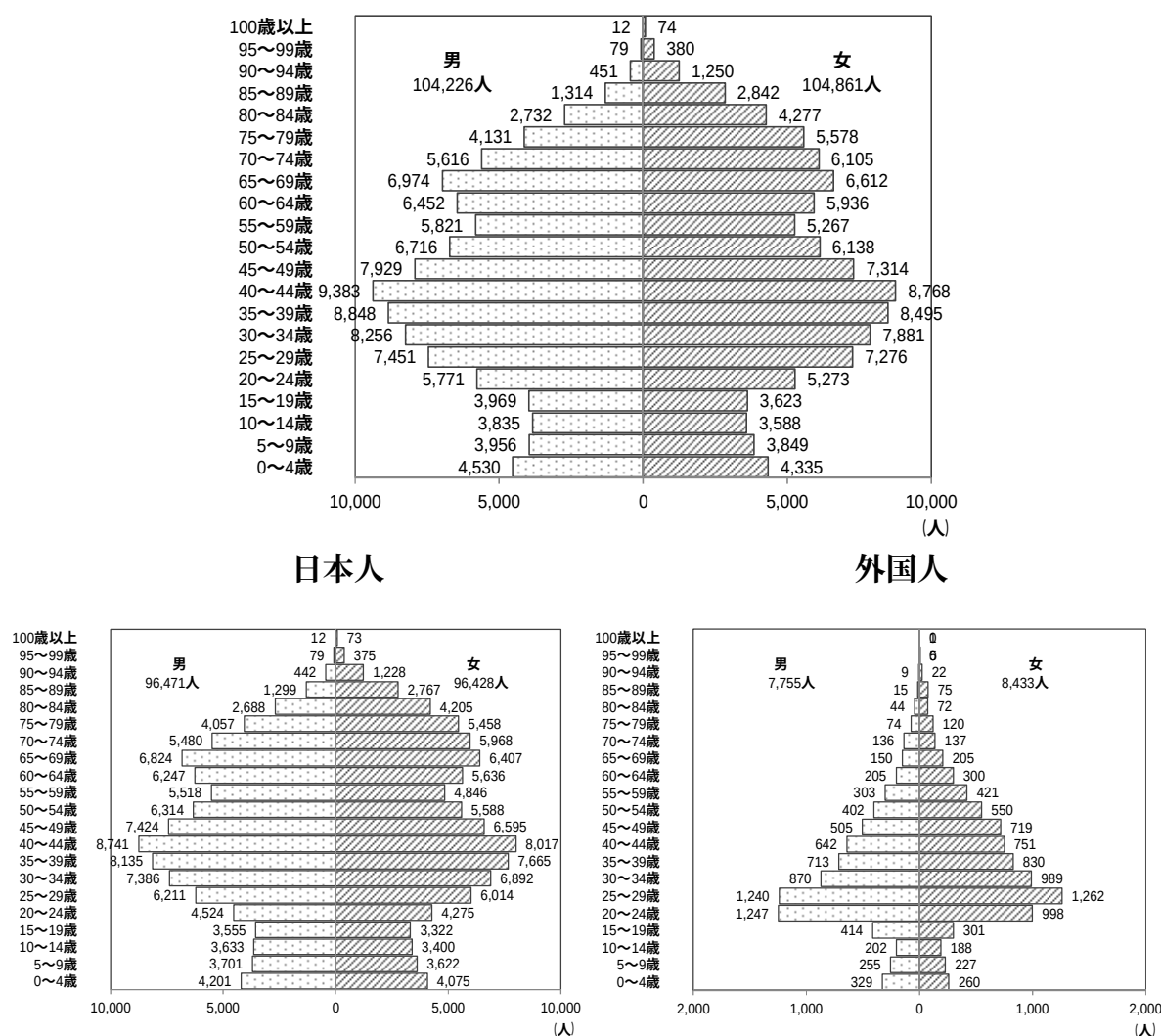
(3) 人口ピラミッド

2015 年（平成 27 年）1 月 1 日現在の荒川区の人口ピラミッドを見ると（図表 6）、人口のピークが 2 つある、いわゆる「ひょうたん型」をしており、40～44 歳（計 18,151 人、男性：9,383 人、女性：8,768 人）と 65～69 歳（13,586 人、男性：6,974 人、女性：6,612 人）にピークがあります。

最も人口が多い年代は 40～44 歳（計 18,151 人、男性：9,383 人、女性：8,768 人）、2 番目に多い年代は 35～39 歳（計 17,343 人、男性：8,848 人、女性：8,495 人）、3 番目に多い世代は 30～34 歳（16,137 人、男性：8,256 人、女性：7,881 人）となっています。

外国人の人口ピラミッドを見てみると、男性は 20～24 歳がピーク（1,247 人）、女性は 25～29 歳がピーク（1,262 人）となっており、荒川区における外国人は生産年齢人口（15～64 歳人口）の中でも特に 20 代の人口が多くなっています。なお、外国人人口の 20 代男女数は 4,747 人となっており、これは総人口の 20 代男女のうちの 18.4%を占めています。

図表 6 人口ピラミッド



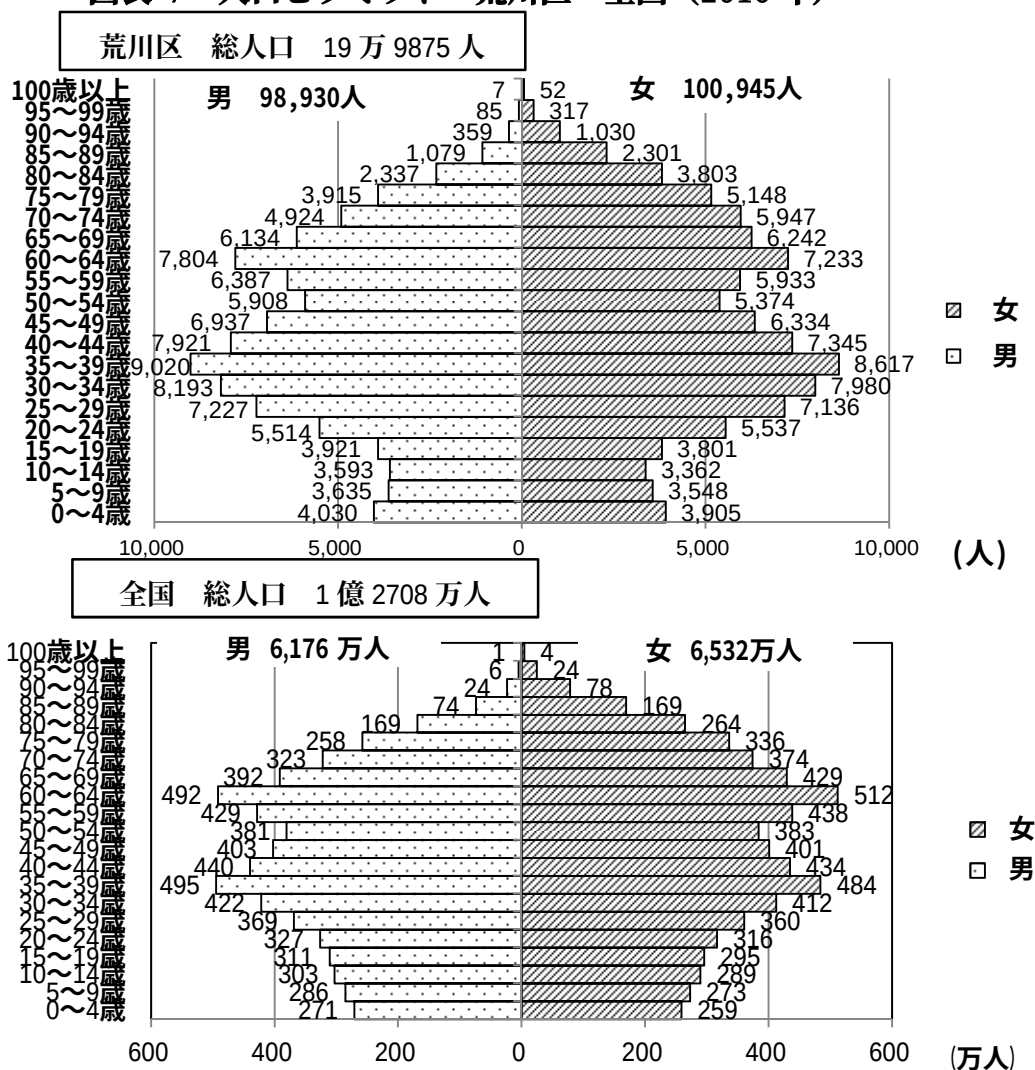
※（資料）住民基本台帳 （2015 年（平成 27 年）1 月 1 日時点）

※ 日本人及び外国人の両者を含むデータ

荒川区と全国の人口ピラミッドを比較すると（図表 7）、人口のピークが2つある（35～39 歳及び 60～64 歳）「ひょうたん型」という点で類似点が見られます。

荒川区における 30～40 歳代の人口を合計すると 62,347 人であり、これは荒川区の人口総数の 31.2%に当たります¹。日本全体の 30～40 歳代の人口は日本の総人口の 27.5%に当たることから²、荒川区では全国と比較して 30～40 歳代の人口が多いという特徴が見られます。また、荒川区における生産年齢人口（15～64 歳人口）の中に占める 30～40 歳代の割合は 46.5%となっており³、日本全体は 43.1%となっていることから⁴、荒川区は全国と比較して、生産年齢人口の中でもいわゆる子育て世代が多いという特徴が見られます。

図表 7 人口ピラミッド 荒川区・全国（2010 年）



※（資料）国勢調査 2010 年（平成 22 年）時点のデータを加工して作成

※ 日本人及び外国人の両者を含むデータ

¹ 荒川区の人口総数は 199,875 人、30～40 歳代は 62,347 人（国勢調査 2010 年※年齢が不詳の数は除外）

² 日本の人口総数は 127,080,929 人、全国の 30～40 歳代は 34,902,827 人（国勢調査 2010 年※年齢が不詳の数は除外）

³ 荒川区の生産年齢人口（15～64 歳人口）は 134,122 人、30～40 歳代人口は 62,347 人（国勢調査 2010 年※年齢が不詳の数は除外）

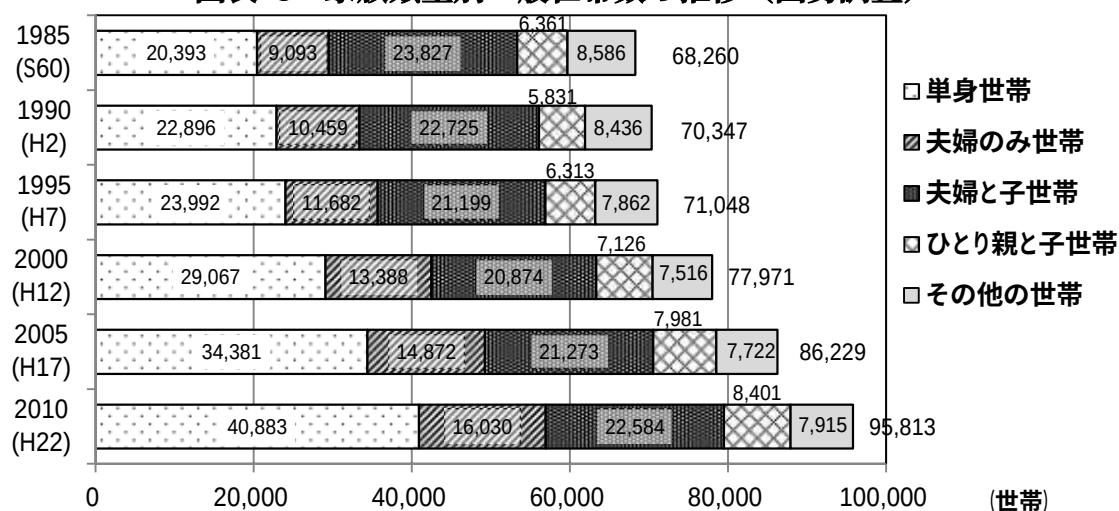
⁴ 日本全国生産年齢人口（15～64 歳人口）は 81,031,800 人、30～40 歳代人口は 34,902,827 人（国勢調査 2010 年※年齢が不詳の数は除外）

(4) 世帯

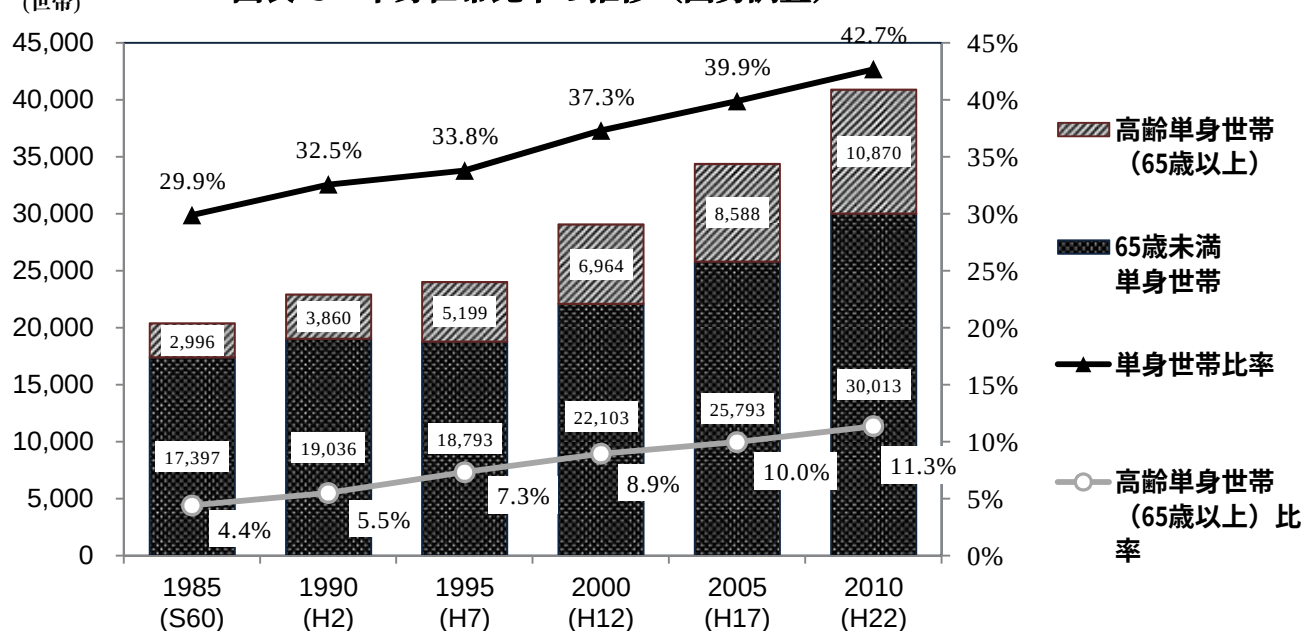
国勢調査による1985年（昭和60年）から2010年（平成22年）の間の荒川区の家族類型別一般世帯数の推移（図表8）及び、単身世帯比率の推移（図表9）を見てみると、単身世帯は1985年（昭和60年）には20,393世帯で比率が29.9%であったのが、2010年（平成22年）には40,883世帯で比率が42.7%となっており、単身世帯数及び単身世帯比率は一貫して増加傾向にあります。

65歳以上の高齢単身世帯は、1985年（昭和60年）には2,996世帯で比率が4.4%であったのが、2010年（平成22年）には10,870世帯で比率が11.3%となっており、高齢者単身世帯数及び高齢単身世帯比率は一貫して増加しています。

図表8 家族類型別一般世帯数の推移（国勢調査）



図表9 単身世帯比率の推移（国勢調査）



※ 単身世帯比率=単身世帯数/一般世帯数

高齢単身世帯比率=高齢単身世帯数/一般世帯数

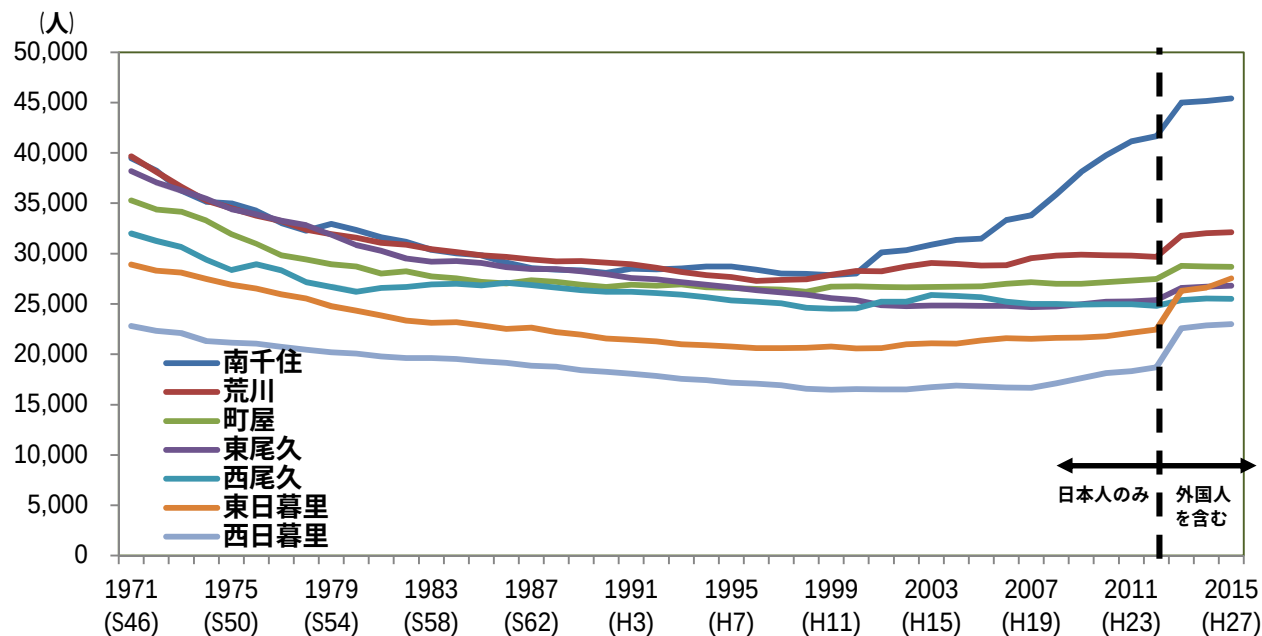
※（資料）国勢調査2010年（平成22年）時点のデータを加工して作成

※ 日本人及び外国人の両者を含むデータ

(5) 地区別人口の推移

地区別の人口の推移を見ると（図表 10）、1971 年（昭和 46 年）以降、全ての地区で人口は減少傾向にありましたが、1998 年（平成 10 年）頃から全ての地区で概ね増加傾向となっています。中でも、南千住の汐入地域で行われた大規模開発の影響もあり（図表 11）、南千住地区で大幅な人口増加が見られます。

図表 10 地区別人口の推移



年	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
南千住	39482	38244	36267	35131	34977	34240	33057	32289	32943	32358	31607	31155	30369	30033	29824
荒川	39668	38132	36628	35257	34493	33789	33224	32389	31944	31568	31060	30875	30444	30163	29820
町屋	35261	34386	34172	33259	31932	30979	29834	29409	28934	28709	28020	28249	27733	27555	27192
東尾久	38189	37097	36302	35431	34417	33893	33253	32827	31880	30842	30293	29524	29208	29259	29079
西尾久	31984	31276	30656	29402	28370	28936	28351	27153	26673	26214	26603	26686	26941	26991	26835
東日暮里	28919	28294	28122	27476	26921	26514	25969	25531	24793	24322	23864	23346	23127	23182	22880
西日暮里	22815	22346	22106	21313	21150	21063	20728	20445	20192	20062	19775	19640	19635	19537	19319
計	236,318	229,775	224,253	217,269	212,260	209,414	204,416	200,043	197,359	194,075	191,222	189,475	187,457	186,720	184,949

年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
南千住	29093	28548	28412	28337	28082	28487	28431	28545	28706	28714	28398	28025	27990	27850	28,021
荒川	29666	29407	29235	29269	29097	28937	28579	28190	27857	27671	27288	27371	27434	27881	28,285
町屋	27029	27349	27182	26900	26696	26893	26824	26934	26647	26582	26491	26440	26210	26718	26,760
東尾久	28665	28470	28460	28259	27966	27563	27442	27169	26899	26665	26374	26135	25912	25573	25,377
西尾久	27087	26881	26617	26360	26218	26196	26076	25914	25664	25351	25209	25075	24628	24515	24,546
東日暮里	22533	22641	22219	21963	21571	21449	21275	20989	20895	20757	20627	20604	20653	20782	20,575
西日暮里	19149	18879	18784	18426	18265	18076	17857	17554	17448	17183	17082	16937	16567	16489	16,544
計	183,222	182,175	180,909	179,514	177,895	177,601	176,484	175,295	174,116	172,923	171,469	170,587	169,394	169,808	170,108

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
南千住	30,114	30,351	30,894	31,345	31,488	33,319	33,806	35,859	38,113	39,768	41,147	41,655	45,012	45,169	45,417
荒川	28,235	28,711	29,059	28,977	28,806	28,852	29,562	29,812	29,910	29,825	29,801	29,671	31,787	32,013	32,132
町屋	26,677	26,649	26,685	26,708	26,763	27,013	27,167	27,012	26,990	27,175	27,311	27,465	28,785	28,712	28,680
東尾久	24,874	24,785	24,827	24,850	24,800	24,812	24,687	24,759	24,961	25,233	25,264	25,393	26,585	26,731	26,807
西尾久	25,229	25,222	25,903	25,805	25,683	25,234	24,986	25,016	24,951	24,958	24,957	24,815	25,398	25,527	25,511
東日暮里	20,615	21,010	21,090	21,062	21,377	21,613	21,534	21,616	21,670	21,800	22,148	22,464	26,306	26,607	27,550
西日暮里	16,521	16,518	16,731	16,900	16,809	16,704	16,657	17,131	17,612	18,147	18,340	18,701	22,584	22,876	22,990
計	172,265	173,246	175,189	175,647	175,726	177,547	178,399	181,205	184,207	186,906	188,968	190,164	206,457	207,635	209,087

単位 人

※（資料）住民基本台帳（各年 1 月 1 日時点、外国人を含む）

※ 2012 年(平成 24 年)7 月施行の住民基本台帳法の一部改正により、2013 年(平成 25 年)以降は住民基本台帳法の対象に外国人住民が含まれる。

図表 11 大規模開発（200 戸以上）の地区別総戸数（1998 年～2014 年）

地区	総戸数
南千住	6,560
荒川	1,169
町屋	782
東尾久	0
西尾久	649
東日暮里	626
西日暮里	991

2 人口動態

(1) 人口動態の推移

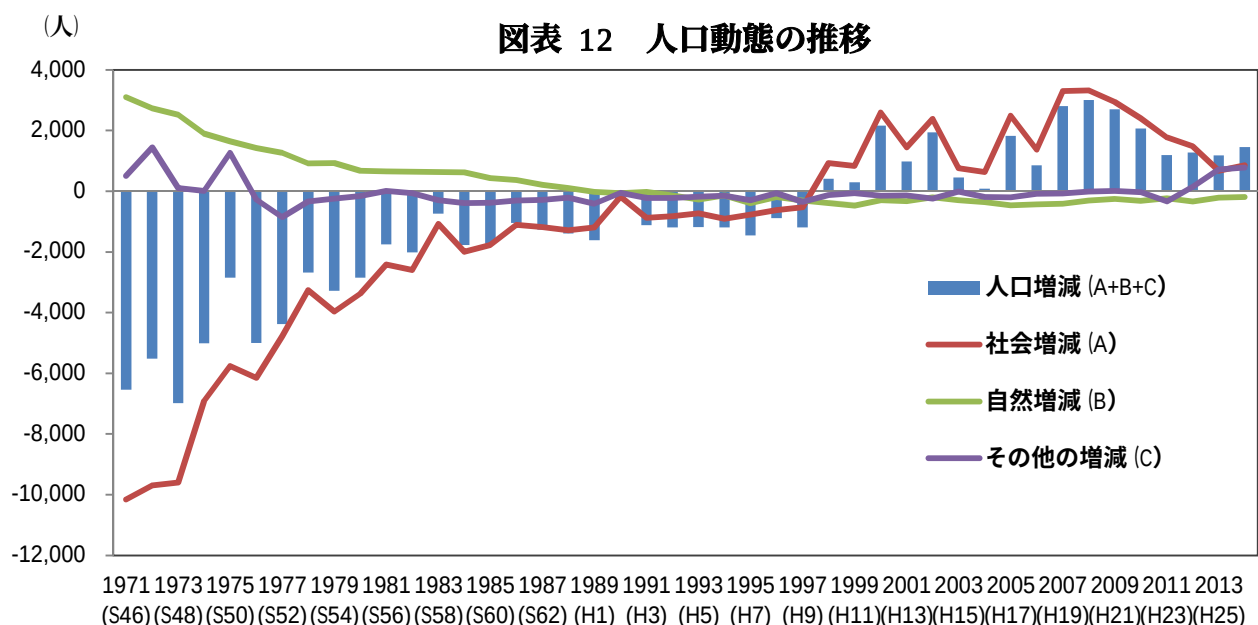
ここでは、荒川区の人口動態（自然動態及び社会動態）の推移について分析を行います。自然動態とは、一定期間（ここでは1年間）における出生・死亡に伴う人口の動きをいいます。社会動態とは、一定期間（ここでは1年間）における転入・転出に伴う人口の動きをいいます。

荒川区の人口動態の推移を見ると（図表 12）、自然動態は 1989 年（平成元年）にプラスからマイナスに転じ、一方の社会動態は 1998 年（平成 10 年）にマイナスからプラスに転じています。

自然動態と社会動態にその他の増減を加えた人口動態全体では、1998 年（平成 10 年）にマイナスからプラスに転じています。

自然動態はマイナスで推移していますが、1998 年（平成 10 年）以降の総人口は増加しており、近年の荒川区の人口増は、転入者の増加によりもたらされていることがわかります。

なお、図表 13 に示したとおり、荒川区では、1998 年（平成 10 年）から 2000 年（平成 12 年）にかけてと 2007 年（平成 19 年）から 2009 年（平成 21 年）にかけて、大規模開発が行われており、これは図表 12 に示した人口動態が増加している時期と概ね一致していることから、特に大規模開発が荒川区への転入者を増加させ、人口動態全体を増加に押し上げていることが窺えます。

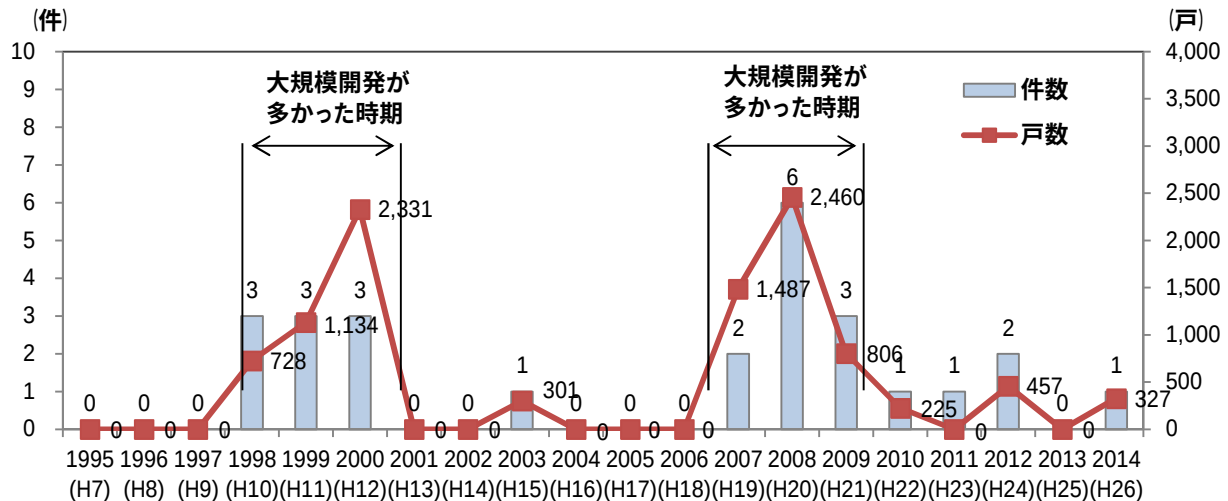


※ その他の増減(c)は帰化、国籍離脱、実態調査等職権による記載、消除並びに補正による増減等

※ (資料) 住民基本台帳 (各年 1 月 1 日時点、外国人を含む)

※ 2012 年(平成 24 年)7 月施行の住民基本台帳法の一部改正により、2013 年(平成 25 年)以降は住民基本台帳法の対象に外国人住民が含まれる。

図表 13 大規模開発（200 戸以上）の推移（1995 年～2014 年（平成 7 年～平成 26 年））



※ 荒川区市街地整備指導要綱及び荒川区住宅等の建築に係る住環境の整備に関する条例による受付台帳より抽出

※ 昭和 60 年から平成 9 年の間について大規模開発(200 戸以上)は行われていない

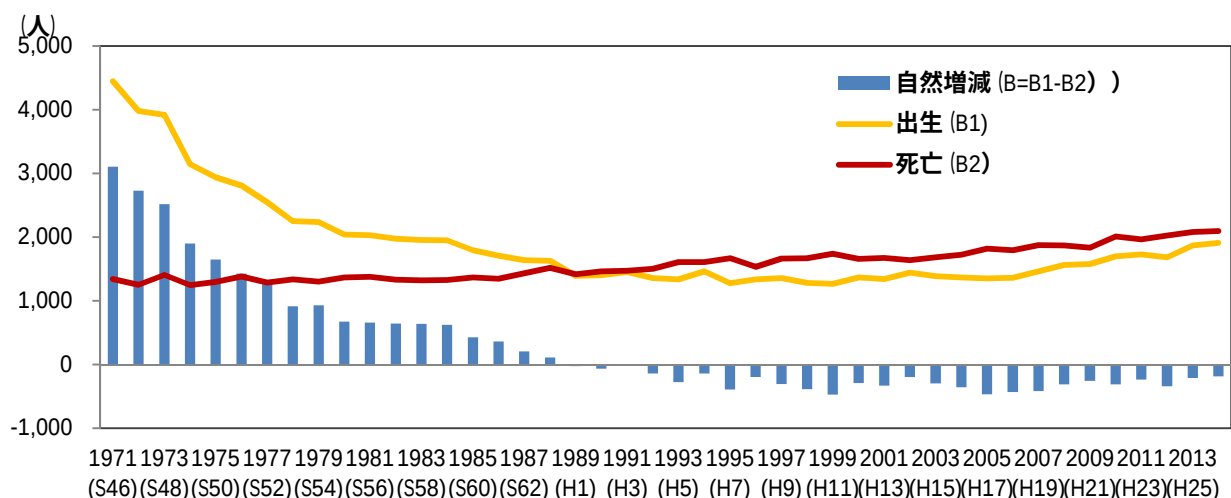
(2) 自然動態の推移

自然動態を見ると、出生数は 1971 年（昭和 46 年）には 4,500 人程度となっていました。その後 1995 年（平成 7 年）に 1,300 人程度まで減少し、それ以降はやや増加傾向となっています。

一方の死亡数は、1971 年（昭和 46 年）以降、現在に至るまで増加傾向となっており、2010 年（平成 22 年）には 2,000 人を超え、2014 年（平成 26 年）現在 2,094 人となっています。

1989 年（平成元年）以降、死亡数が出生数を上回っているため、自然動態はマイナスの状況が続いています。

図表 14 自然動態の推移



※（資料）住民基本台帳（各年 1 月 1 日時点、外国人含む）

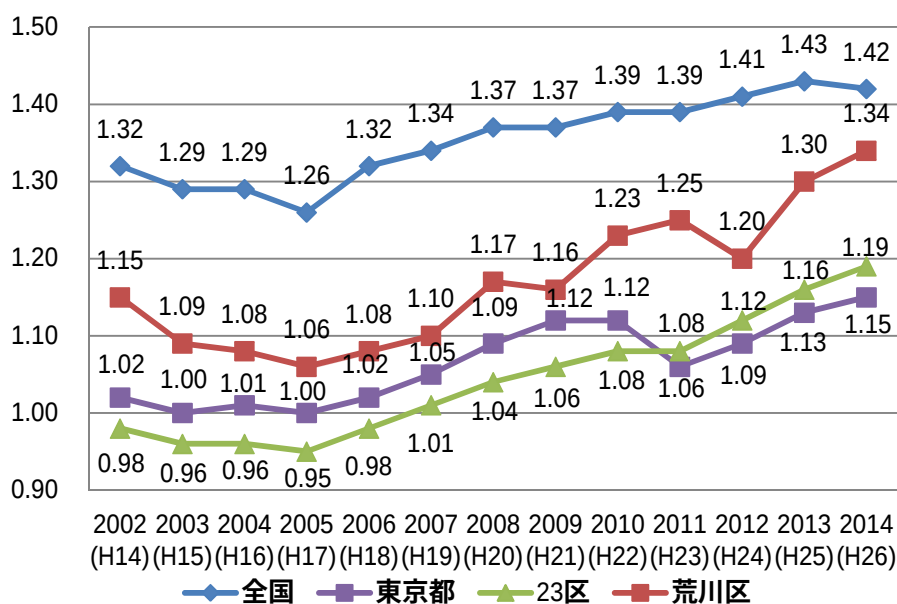
※ 2012 年(平成 24 年)7 月施行の住民基本台帳法の一部改正により、2013 年(平成 25 年)以降は住民基本台帳法の対象に外国人住民が含まれる。

人口動態統計による 2002 年（平成 14 年）から 2014 年（平成 26 年）までの合計特殊出生率の推移を見ると（図表 15）、荒川区の数値は 2005 年（平成 17 年）の 1.06 を底として上昇傾向にあります。

2014 年（平成 26 年）においては、荒川区 1.34、全国 1.42、東京都 1.15、23 区 1.19 となっています。荒川区は、23 区中 6 番目に合計特殊出生率が高い区となっています（図表 16）。

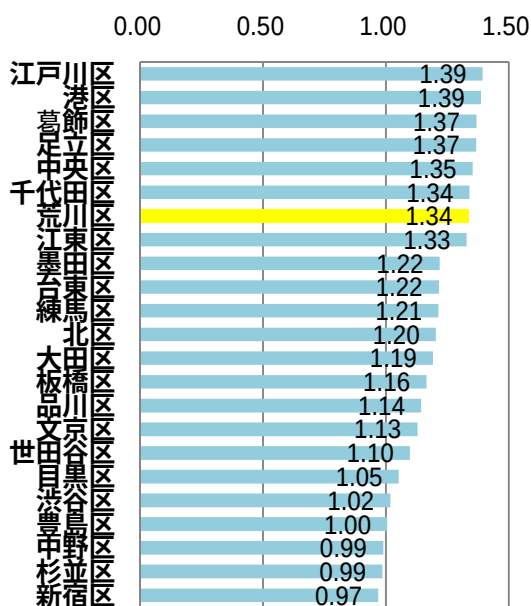
このように、荒川区の合計特殊出生率は上昇傾向にあり、東京都及び 23 区の数値を上回っているものの、全国と比較すると依然として低い数値となっています。

図表 15 合計特殊出生率の推移（2002 年～2014 年（平成 14 年～平成 26 年））



※（資料）東京都人口動態統計年報

図表 16 23 区の合計特殊出生率（2014 年（平成 26 年））



※（資料）東京都人口動態統計年報

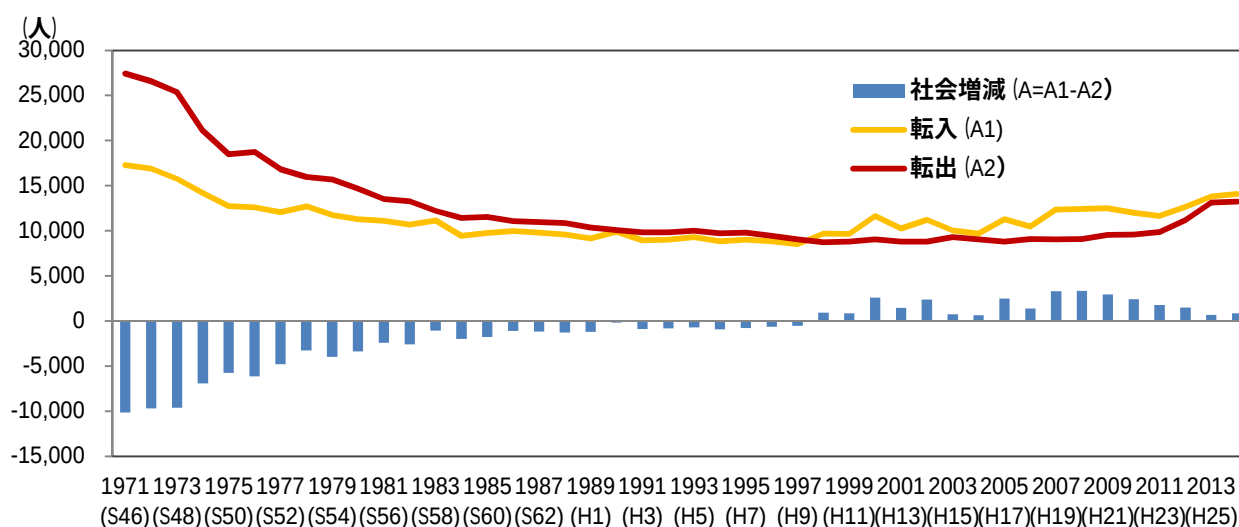
(3) 社会動態の推移

社会動態の推移を見ると（図表 17）、転入者数は 1994 年（平成 6 年）まで減少傾向となっていたものが増加に転じ、2014 年（平成 26 年）は 14,092 人となっています。

一方の転出者数は、1998 年（平成 10 年）を底に横ばいで推移していましたが、ここ数年間は増加傾向にあり、2014 年（平成 26 年）には 13,237 人となっています。

転入から転出を差し引いた社会動態は 1998 年（平成 10 年）に増加に転じていますが、ここ数年は転入・転出ともに増加傾向にあり、毎年 13,000～14,000 人程度の転出入が発生しており、人口の流動性が高い状況となっています。

図表 17 社会動態の推移

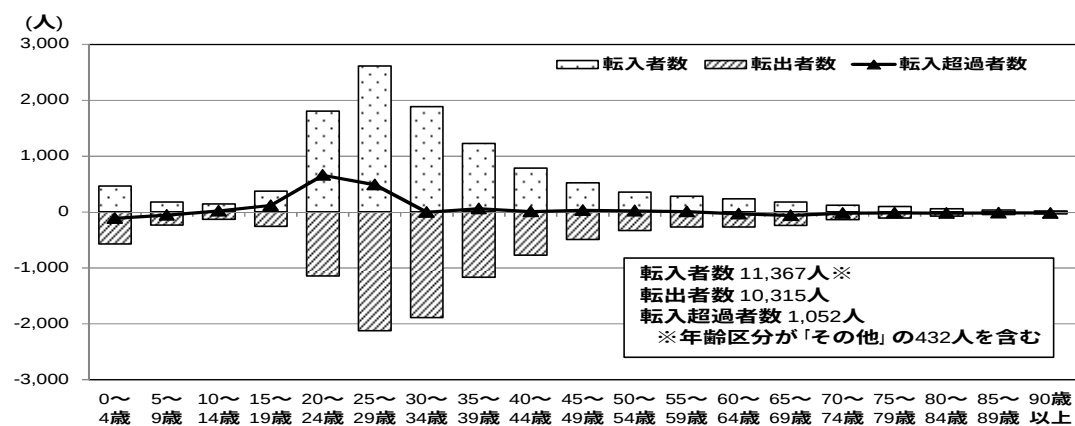


※（資料）住民基本台帳 （各年 1 月 1 日時点、外国人含む）

※ 2012 年（平成 24 年）7 月施行の住民基本台帳法の一部改正により、2013 年（平成 25 年）以降は住民基本台帳法の対象に外国人住民が含まれる。

年齢別に転入数及び転出数を見てみると（図表 18）、転入者・転出者ともに 25～29 歳の数が最も多く、続いて 30～34 歳、20～24 歳が多くなっており、特に若年世代の人口の移動が多いことがわかります。このように若年世代の転出入が多い要因として、都心エリアには大学等の教育機関が多く、地方から 20～24 歳代が短期間だけ転入している可能性があることや、若年世代は結婚・出産による新たな居住地の選択等によって転出入が多くなる可能性があること等が推測されます。

図表 18 年齢別転入、転出者数（2014 年（平成 26 年））



※（資料）平成 26 年住民基本台帳人口移動報告

※ 日本人のみのデータ

3 人口動向分析から見える現状と課題

以上の人口動向分析の結果から、荒川区の現状と課題をまとめると、次のようになります。

(1) 高齢化の進行

荒川区の総人口は増加傾向にあるものの、1971 年（昭和 46 年）から 2015 年（平成 27 年）にかけて老年人口及び老年人口割合は一貫して増加しており、高齢化が進行しています。また、老年人口割合は、全国よりはその割合が低いものの、23 区の中では高くなっています（2015 年 1 月 1 日時点で荒川区 24.6%、全国 26.2%、23 区 21.5%）（図表 1、図表 4）。

なお、65 歳以上の高齢単身世帯は、1985 年（昭和 60 年）には 2,996 世帯で比率が 4.4%であったのが、2010 年（平成 22 年）には 10,870 世帯で比率が 11.3%となっており、高齢単身世帯数及び高齢単身世帯比率は一貫して増加しています（図表 9）。

また、荒川区における 30～40 歳代の人口を合計すると 62,347 人であり、これは荒川区の人口総数の 31.2%に当たります。日本全体の 30～40 歳代の人口は日本の総人口の 27.5%に当たることから、荒川区では全国と比較して 30～40 歳代の人口が多いという特徴が見られます。また、荒川区における生産年齢人口（15～64 歳人口）の中に占める 30～40 歳代の割合は 46.5%となっており、日本全体は 43.1%となっていることから、荒川区は全国と比較して、生産年齢人口の中でもいわゆる子育て世代が多いという特徴が見られます。ただ、現状では生産年齢人口が多くなっているものの、今後転出入があまり発生しなかったと仮定すると、この生産年齢人口は数十年後には老年人口に移行することから、将来的に高齢化が進行する可能性があります。

なお、国立社会保障・人口問題研究所による推計では、2040 年における老年人口割合は、荒川区 28.4%、東京都 33.5%、国 36.0%と推計されており、荒川区の老年人口割合の上昇は、東京都や国と比較すると緩やかになると推測されます。しかし、高齢化自体は進行していく傾向にあることから、対応が課題であると言えます。

(2) 出生率の低さ

年少人口及び年少人口割合は、1971 年（昭和 46 年）以降しばらく減少しており、少子化が進行していましたが、年少人口は 2000 年（平成 12 年）の 19,060 人を、年少人口割合は 2005 年（平成 17 年）の 10.9%を底として、若干の増加傾向にあります（2015 年時点で年少人口 22,632 人、年少人口割合 11.7%）。このように、年少人口及び年少人口割合は近年、若干の増加傾向となっているものの、全国と比較すると低い状況となっています（2015 年 1 月 1 日時点で荒川区 11.7 %、全国 12.8%）（図表 4）。

また、荒川区では、1989 年（平成元年）以降、死亡数が出生数を上回っており、自然動態はマイナスの状態が続いています。しかし、1998 年（平成 10 年）以降の総人口は増加していることから、近年の荒川区の人口増は、転入者の増加によりもたらされていることがわかります（図表 12、図表 14、図表 17）。

このように、年少人口割合が全国と比べて低く、死亡数が出生数を上回る状況となっている一因として、荒川区における出生率の低さがあると考えられます。合計特殊出生率を見てみると、2002 年（平成 14 年）から 2014 年（平成 26 年）にかけて、荒川区の数値は 2005 年（平成 17 年）の 1.06 を底として上昇傾向にあります。ただ、2014 年（平成 26 年）においては、荒川区 1.34、全国 1.42、東京都 1.15、23 区 1.19 と、東京都及び 23 区の数値を上回っているものの、全国と比較すると低くなっています（図表 15、図表 16）。

以上のことから、荒川区における人口を将来に渡って維持し、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、出生率を向上させることにより転入者の多さに頼ることなく人口を増加させていくことが必要と言えます。

（３）人口の流動性の高さ

荒川区では、近年、転出よりも転入が多く、社会動態は増加傾向となっていますが、ここ数年は毎年 13,000～14,000 人程度の転出入が発生しており、人口の流動性が高くなっています（図表 17）。

中でも、転入者、転出者ともに 25～29 歳の数が最も多く、続いて 30～34 歳、20～24 歳が多くなっており、特に若年世代の人口の移動が多くなっています（図表 18）。このように若年世代の転出入が多い要因として、大学等の教育機関への通学のために地方から 20～24 歳代が短期間だけ転入している可能性があることや、若年世代は結婚・出産による新たな居住地の選択等によって転出入が多くなる可能性があること等が推測されます。

このような人口の流動性の高さは、都心エリアにおいては避けがたいことであると考えられます。持続可能で活力ある地域社会を築いていくという観点からは、流動性の高さから人口の入れ替わりが一定程度発生することを前提とした上で、子育て世代を増やし、出生率の向上等に結び付けていくことが必要と考えられます。

以上のことから、荒川区では、人口の転出入が多い、流動性の高さが特徴的であり、定住化、特に若年世代の定住化をいかに促進していくかが課題であると言えます。

III 目指すべき将来の方向性

1 目指すべき2つの方向性

IIで示した荒川区の人口動向分析から見える現状と課題を踏まえ、人口減少に対応し、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、大きな方向性として、出生率を向上させること、定住化を促進することが必要であり、これらを同時に進めていくことが重要となります。

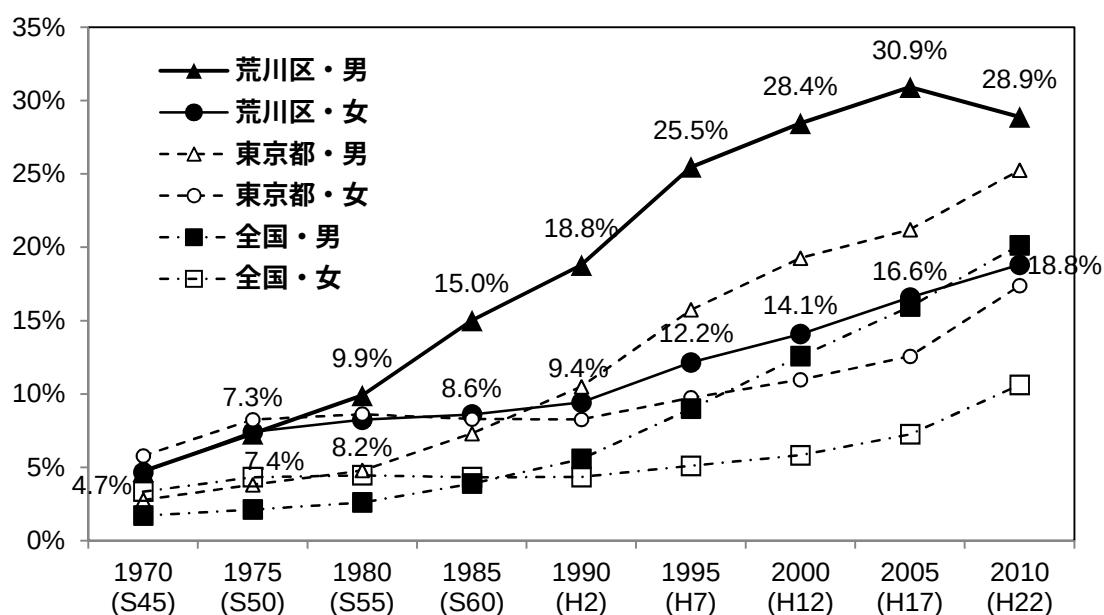
以下、荒川区が今後目指すべき方向性として、「出生率の向上」、「定住化の促進」の2つを示します。

(1) 出生率の向上

前述したとおり、荒川区では出生率が低いことが課題となっており、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、出生率の向上を図っていく必要があります。

出生率の向上に向けた対応の方向性を探るため、生涯未婚率のデータを見てみると(図表 19)、1970年(昭和45年)には男女ともに4.7%だったのが、2010年(平成22年)には男性が28.9%、女性が18.8%と大きく上昇しています。2010年における全国の生涯未婚率は男性が20.1%、女性が10.6%、東京都の生涯未婚率については、男性が25.3%、女性が17.4%であることから、荒川区は全国及び東京都と比較しても生涯未婚率が高い状況となっています。

図表 19 生涯未婚率の推移(国勢調査)



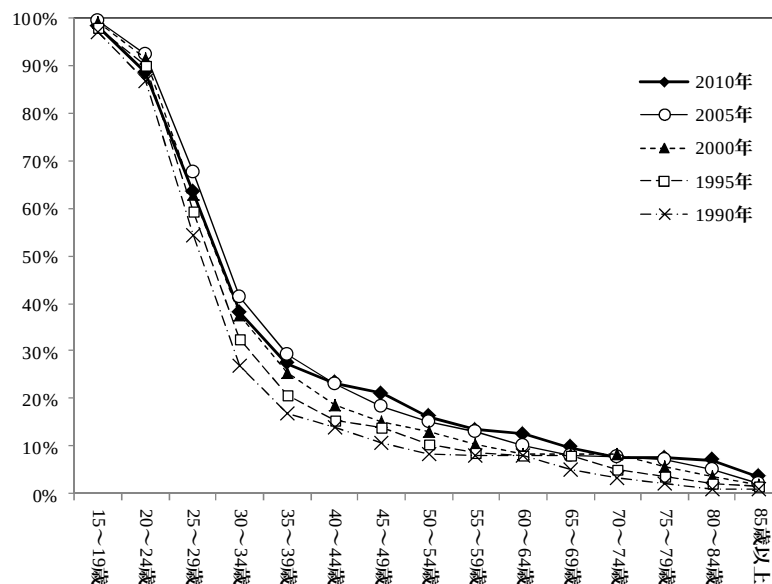
※ (資料) 国勢調査のデータを加工して作成

※ 日本人及び外国人の両者を含むデータ

また、荒川区の女性の年齢別未婚率を見てみると（図表 20）、1990 年(平成 2 年)には 20～24 歳が 86.8%、25～29 歳が 54.2%、30～34 歳が 26.8%、35～39 歳が 17.0%であったのが、2010 年（平成 22 年）には 20 歳～24 歳が 88.5%、25～29 歳が 63.5%、30～34 歳が 38.0%、35～39 歳が 27.5%となっており、晩婚化が進んでいることがわかります。

このように晩婚化が進み、未婚率が上昇している中で出生率の向上を図っていくためには、若年世代が結婚、出産、子育てに希望を持つことができるようにすることが重要であり、子育て環境や教育環境の整備をこれまで以上に推進していく必要があります。

図表 20 女性の年齢別未婚率（国勢調査）



※（資料）国勢調査のデータを加工して作成

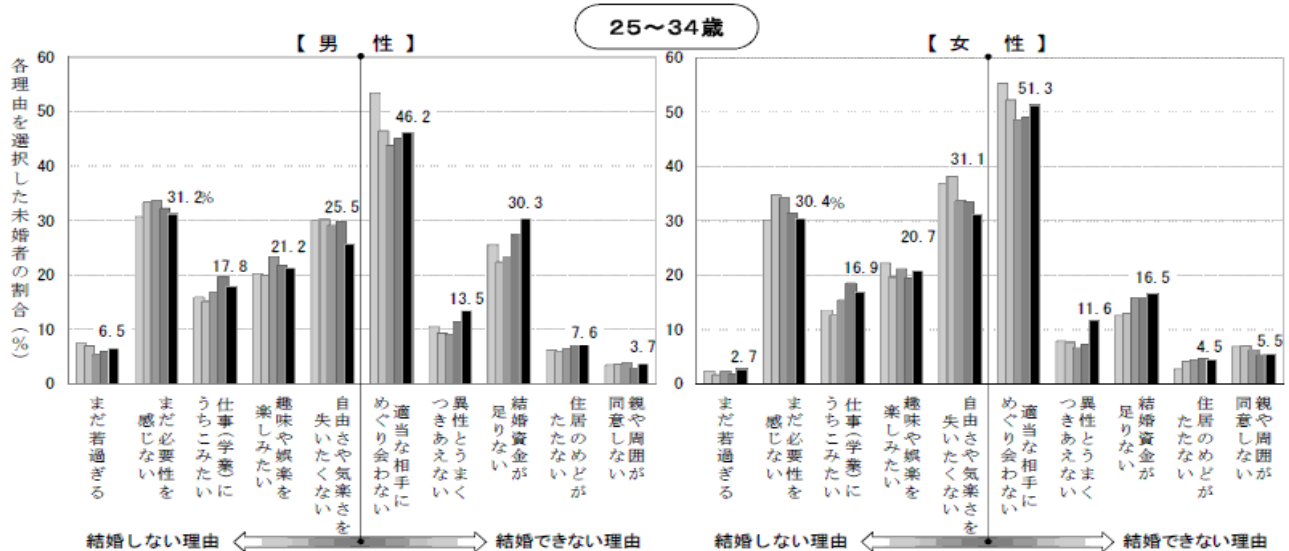
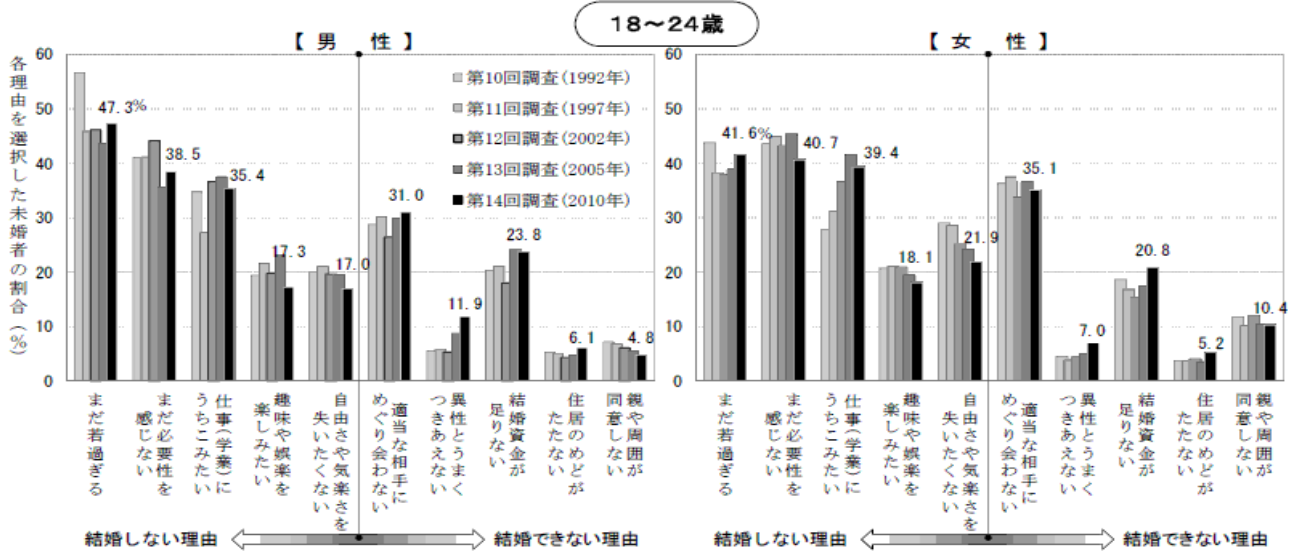
※ 日本人及び外国人の両者を含むデータ

国立社会保障・人口問題研究所による第 14 回出生動向基本調査（2010 年（平成 22 年））によると、若年世代（18～34 歳）の未婚者が独身にとどまっている背景として、「まだ若すぎる」「まだ必要性を感じない」「仕事（学業）にうちこみたい」などの理由により、そもそも結婚への意欲を持っていない若者が存在している一方で、結婚への意欲はあるものの、「適当な相手にめぐり会わない」「結婚資金がたりない」「住居のめどがたたない」などの理由により未婚に留まっている若者も存在しているという現状があります（図表 21）。

また、「結婚意思のある未婚者に一年以内に結婚するとしたら何か障害となることがあるか」という質問について、男女とも「結婚資金」を挙げた人が最も多く、男性 43.5%、女性 41.5%となっています（図表 22）。

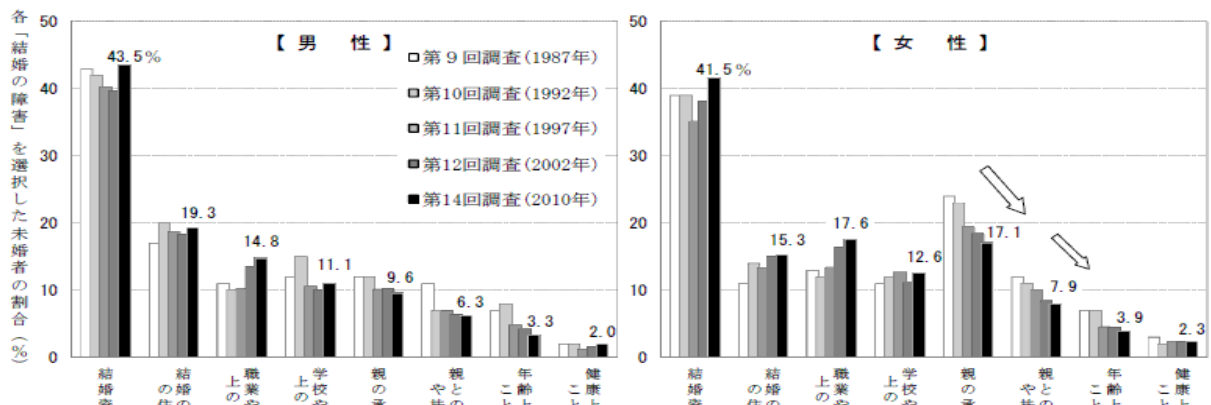
このように、条件に合った出会いがないことや、経済面での不安が、結婚を希望する若年世代にとっての障害となっており、それが晩婚化の進む要因になっている可能性があります。

図表 21 調査・年齢別にみた、独身にとどまっている理由



注：未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由(三つまで選択)として挙げているかを示す。グラフ上の数値は第14回調査の結果。設問「あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最もあてはまると思われる理由を最高三つまで選んで、右の回答欄に番号を記入してください(すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12を記入してください)。」

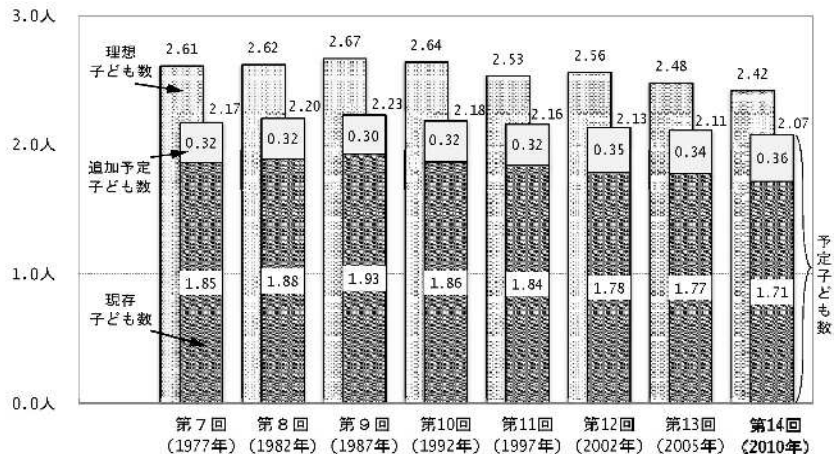
図表 22 調査別にみた、結婚の障害の内容



注：18～34歳未婚者のうち何%の人が各項目を結婚の主要な障害(二つまで選択)と考えているかを示す。グラフ上の数値は第14回調査の結果。結婚意思のある18～34歳未婚者の中で結婚に何らかの障害があると回答した割合は、第9回(男性67.1%、女性69.2%)、第10回(同67.9%、71.3%)、第11回(65.0%、67.8%)、第12回(64.5%、70.1%)、第14回(68.1%、71.5%)。

同調査では、理想的な子どもの人数と今後予定している子どもの人数を質問していますが（図表 23）、直近の 2010 年（平成 22 年）では、理想子ども数が 2.42 人、予定子ども数が 2.07 人と、その差は 0.35 人となっています。理想子ども数と予定子ども数との差が最も大きいのは、第 10 回調査（1992 年、平成 4 年）であり、理想子ども数が 2.64 人、予定子ども数が 2.18 人、差が 0.46 人となっています。

図表 23 平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移



注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。総数には結婚継続期間不詳を含む。

設問 理想子ども数：「あなたの方夫婦にとって 理想的な子どもの数は何人ですか。」(追加) 予定子ども数：「あなたの方夫婦の今後のお子さんの予定についてお答えください。(1) お子さんの数と、(2) 希望の時期について、あてはまる番号に○をつけてください。」

「妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由」を見てみると（図表 24）、全ての年齢層において、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という経済的理由が最も多くなっています。とりわけ、30 歳未満の若い世代で経済的理由を回答している割合が高くなっています。

また、30 歳代以上では、年齢・身体的理由を回答している人の割合も多くなっています。

この他にも、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」といった子育てについての負担感や、「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」、「夫の家事・育児への協力が得られないから」といった子育て環境に関する理由も挙げられています。

以上のことから、出生率の向上を図り、人口の増加につなげていくためには、経済的支援や男性の主体的な育児参加意識向上をはじめとする子育て環境及び教育環境の整備、結婚を後押しする環境整備等を総合的に行うことにより、若年世代が、結婚、出産、子育てに希望を持つことができるようにしていくことが重要と考えられます。

図表 24 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由：第 14 回調査（2010 年）

		理想の子ども数を持たない理由													(複数回答)	
		経済的理由			年齢・身体的理由			育児的		大に感ずる理由			その他			
妻の年齢	(集計客体数)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	生活の正しさを助めるから (育児)	家が狭いから	高齢で体力のはいやだから	欲が満たされなから	健康上の理由から	精神的に以上、育児が重なるから	力が得られないから	夫婦の意見が異なるから	退職までに成人してほから	一人っ子が大の字年	大が望まないから	子どもがのびのび育つ社会環境ではないから	別にしたいから	自分や夫婦の生活が大
30歳未満 (90)	(90)	88.3%	21.1	18.9	8.8	3.8	5.6	10.0	12.2	5.6	4.4	7.8	11.1			
30～34歳 (233)	(233)	76.0	17.2	18.9	13.8	12.9	15.5	21.0	13.3	4.8	9.9	9.9	7.3			
35～39歳 (519)	(519)	69.0	19.5	16.0	27.2	16.4	15.0	21.0	11.6	6.9	8.9	8.1	7.5			
40～49歳 (993)	(993)	50.3	14.9	9.9	47.3	23.8	22.5	15.1	9.9	10.2	6.2	6.1	3.7			
総 数 (1,835)	(1,835)	60.4	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6			
第13回調査 (38人)	(1,825)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1			

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの大婦、予定子ども数が理想子ども数を下回る大婦の割合は32.7%。

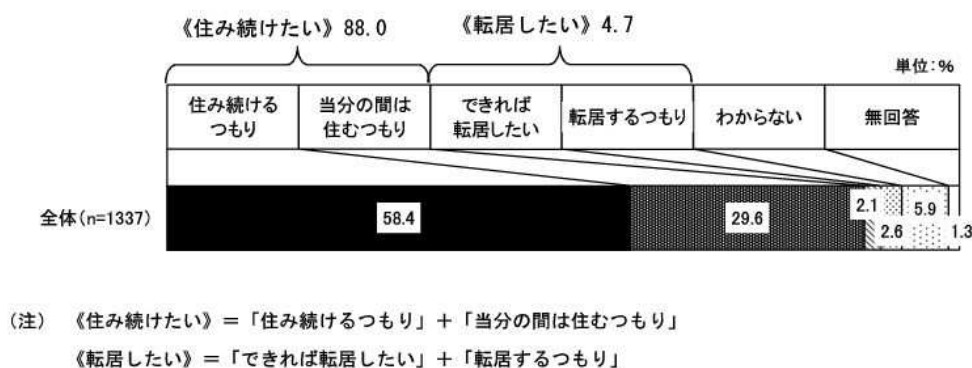
※ 図表 21～24：（資料） 国立社会保障・人口問題研究所「第 14 回出生動向基本調査」

(2) 定住化の促進

前述したとおり、荒川区では人口の流動性が高く、特に若年世代の転出入が多いことが特徴となっています。人口を将来に渡って維持し、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、この人口の流動性の高さを踏まえた上で、定住化を促進していく必要があります。

定住化の促進を図るための方向性を探るため、荒川区政世論調査における定住意向に関するデータを見てみると、これからも荒川区に住み続けたいかという質問に対する回答は、「住み続けるつもり」(58.4%)と「当分の間は住むつもり」(29.6%)を合わせた《住み続けたい》(88.0%)の割合が9割近くとなっています。これに対し、「できれば転居したい」(2.1%)と「転居するつもり」(2.6%)を合わせた《転居したい》(4.7%)の割合は1割未満となっています(図表 25)。

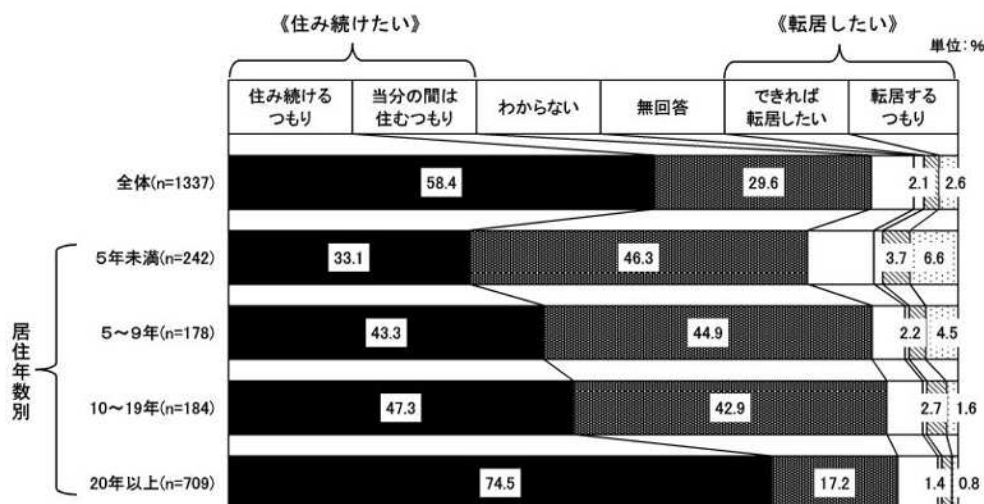
図表 25 定住意向(平成 26 年度荒川区政世論調査)



居住年数別で見ると(図表 26)、居住年数が長くなると《住み続けたい》の割合が高くなる傾向が見られ、「5年未満」(79.4%)では8割弱であったのに対し、居住年数が5年を超えると《住み続けたい》は9割前後となっており、大きな差が見られます。

一方、《転居したい》の割合は、「5年未満」が10.3%で1割を上回り、他の居住年数と比べて比較的高くなっています。

図表 26 定住意向・居住年齢別(平成 26 年度荒川区政世論調査)



性・年代別でみると（図表 27）、「住み続けるつもり」では、男女とも高い年齢層ほど割合が高く、女性 70 歳以上（84.2%）、男性 70 歳以上（82.0%）では 8 割を上回っています。また、《住み続けたい》では、女性 50 歳代（94.2%）、男性 50 歳代（93.5%）で 9 割半ば近くと、高い定住意向が見られます。

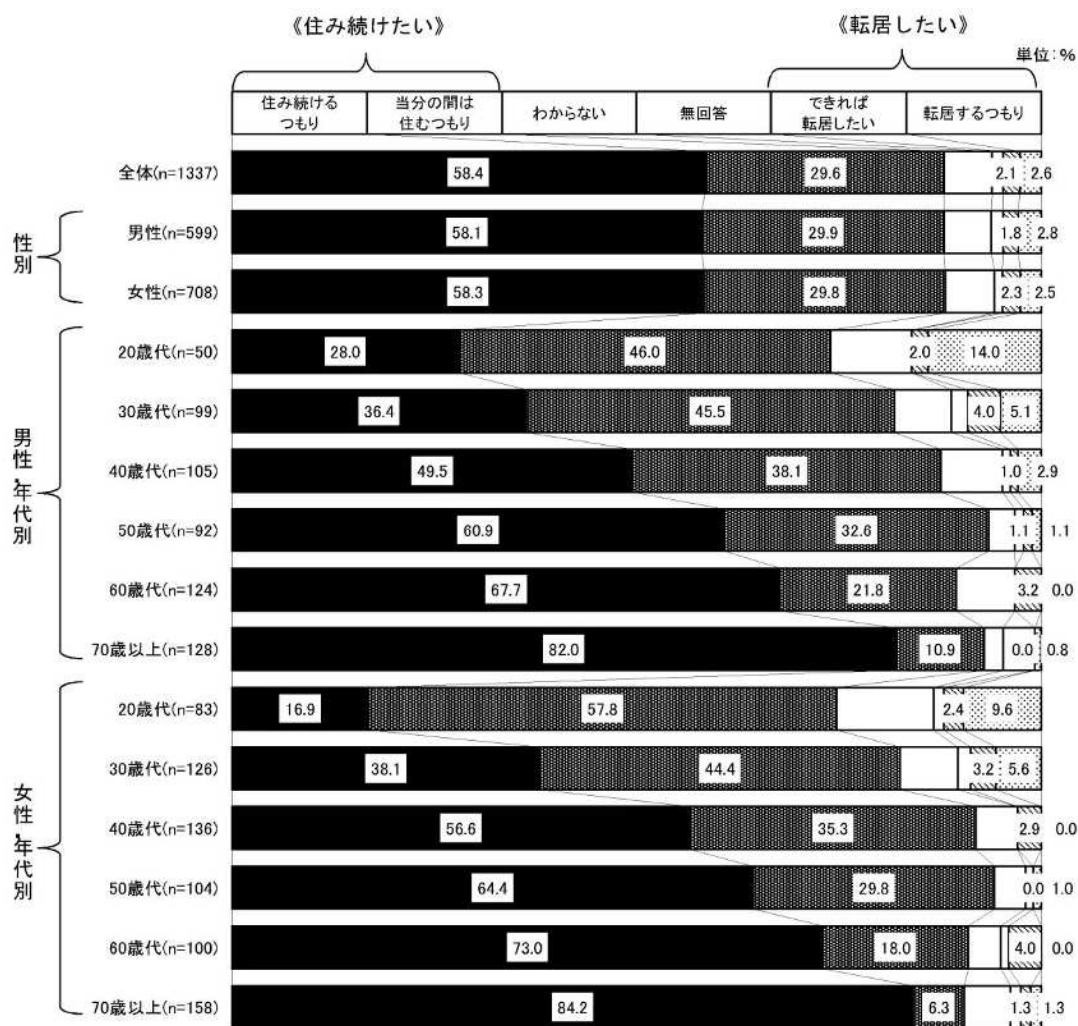
これに対し《転居したい》では、男性 20 歳代（16.0%）、女性 20 歳代（12.0%）が 1 割を上回り、男女とも 20 歳代で高い割合となっています。

以上のことから、若い世代ほど定住意向が低い傾向が見えてきます。人口動向分析において若年世代の転出入が多いことを示しましたが、区政世論調査結果から、その背景として若年世代の定住意向の低さがあることが窺えます。

なお、若年世代ほど定住意向が低い傾向は、ここ 5 年間の区政世論調査結果においてほぼ同様となっています。

以上のことから、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、特に 30～40 歳代の子育て世代の定住化を促進していくことが有効と考えられます。子育て世代が荒川区に定住し、子どもを生み育て、その子どもが荒川区に住み続けてくれるような、次の世代が定住するような環境整備を進めていくことが重要であると言えます。

図表 27 定住意向 性別／性・年代別（平成 26 年度荒川区政世論調査）



2 人口の将来展望

以上、人口動向の分析を踏まえた目指すべき将来の方向性として、「出生率の向上」、「定住化の促進」の2つを示してきましたが、ここでは、荒川区の将来の人口規模を展望するため、荒川区独自の将来人口推計結果を示します。

(1) 将来人口推計手法の概要

※将来人口推計手法の詳細については、巻末に参考資料として添付しています。

①推計期間

- ・2015年（平成27年）1月1日から2060年（平成72年）1月1日まで

②基準人口

- ・2015年（平成27年）1月1日現在の住民基本台帳人口

③推計方法

- ・7地区別に、男女別、1歳別について、コーホート要因法により、自然動態と社会動態に分けて推計
- ・推計アウトプットは、荒川区全体、7地区別とし、各年における男女別、1歳別人口（それを整理した5歳別人口を含む）として算出（将来人口は日本人と外国人の計）
- ・生残率、出生率、社会移動率を設定して推計
- ・それぞれ異なる出生率及び社会移動率を設定したパターン1、パターン2、パターン3、パターン4の4種類を推計

④生残率の仮定値

- ・生残率については、2010年（平成22年）における荒川区生命表（男女別5歳別）を基準とし、東京都生命表（男女別1歳別）を参考に男女別1歳別の生残率を設定

⑤出生率の仮定値

- ・パターン1については、荒川区女性5歳別出生率（15歳から49歳）の2000年（平成12年）から2013年（平成25年）までの平均（合計特殊出生率1.15）で設定
- ・パターン2については、荒川区女性5歳別出生率（15歳から49歳）の2013年（平成25年）を基準として、2025年（平成37年）までに全国平均の合計特殊出生率1.43（2013年（平成25年））を達成し、その後1.43を維持すると設定
- ・パターン3については、荒川区女性5歳別出生率（15歳から49歳）の2013年（平成25年）を基準として、2030年（平成42年）に東京都総合戦略が「希望出生率」⁵として掲げている合計特殊出生率1.76を達成し、その後維持すると設定
- ・パターン4については、荒川区女性5歳別出生率（15歳から49歳）の2013年（平成25年）を基準として、2032年（平成44年）に国の長期ビジョンが「希望出生率」⁵として掲げている合計特殊出生率1.80を達成し、その後維持すると設定
- ・出生児の男女比は、直近5か年の平均により、男50.8%、女49.2%に設定

⁵ 希望出生率＝（有配偶者割合×夫婦の予定子ども数＋独身者割合×独身者のうち結婚を希望するものの割合×独身者の希望子ども数）×離別等の影響

⑥社会移動率の仮定値

- ・2010年（平成22年）以降の5年間の社会動態を基準としつつ、補正を行い、仮定値を設定
- ・パターン1については、大規模開発が落ち着いた直近5年間の平均（年1,435人増加）と直近5年間の社会動態の下限值（年673人増加）を足し合わせた平均（年1,054人増加）が概ね維持されるよう仮定値を設定
- ・パターン2、パターン3、パターン4については、大規模開発が落ち着いた直近5年間の平均（年1,435人増加）が概ね維持されるよう仮定値を設定
- ・全てのパターンにおいて、全国の人口減少率に伴い、社会移動率が減少するものと仮定し、5年ごとに全国の人口減少率に比例して社会移動率を減少するよう設定

図表 28 将来人口推計の仮定値等の概要

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
基準人口	2015年（平成27年）1月1日			
生残率	2010年（平成22年）荒川区生命表を基準（男女別1歳別に拡大推計）			
出生率	2000年（平成12年）から2013年（平成25年）の女性5歳別出生率を平均（合計特殊出生率1.15）	2013年（平成25年）の女性5歳別出生率を平均（合計特殊出生率1.30）基準とし、2025年（平成37年）までに合計特殊出生率1.43（平成25年全国）を達成し、そのまま維持	2013年（平成25年）の女性5歳別出生率を平均（合計特殊出生率1.30）基準とし、2030年（平成42年）までに合計特殊出生率1.76（東京都総合戦略目標）を達成し、そのまま維持	2013年（平成25年）の女性5歳別出生率を平均（合計特殊出生率1.30）基準とし、2032年（平成44年）までに合計特殊出生率1.80（国の長期ビジョン目標）を達成し、そのまま維持
社会移動率	概ね1,054人／年の増加が見込まれる移動率（男女別1歳別）を基準とし、全国の人口減少に伴って逡減	概ね1,435人／年の増加が見込まれる移動率（男女別1歳別）を基準とし、全国の人口減少に伴って逡減	概ね1,435人／年の増加が見込まれる移動率（男女別1歳別）を基準とし、全国の人口減少に伴って逡減	概ね1,435人／年の増加が見込まれる移動率（男女別1歳別）を基準とし、全国の人口減少に伴って逡減

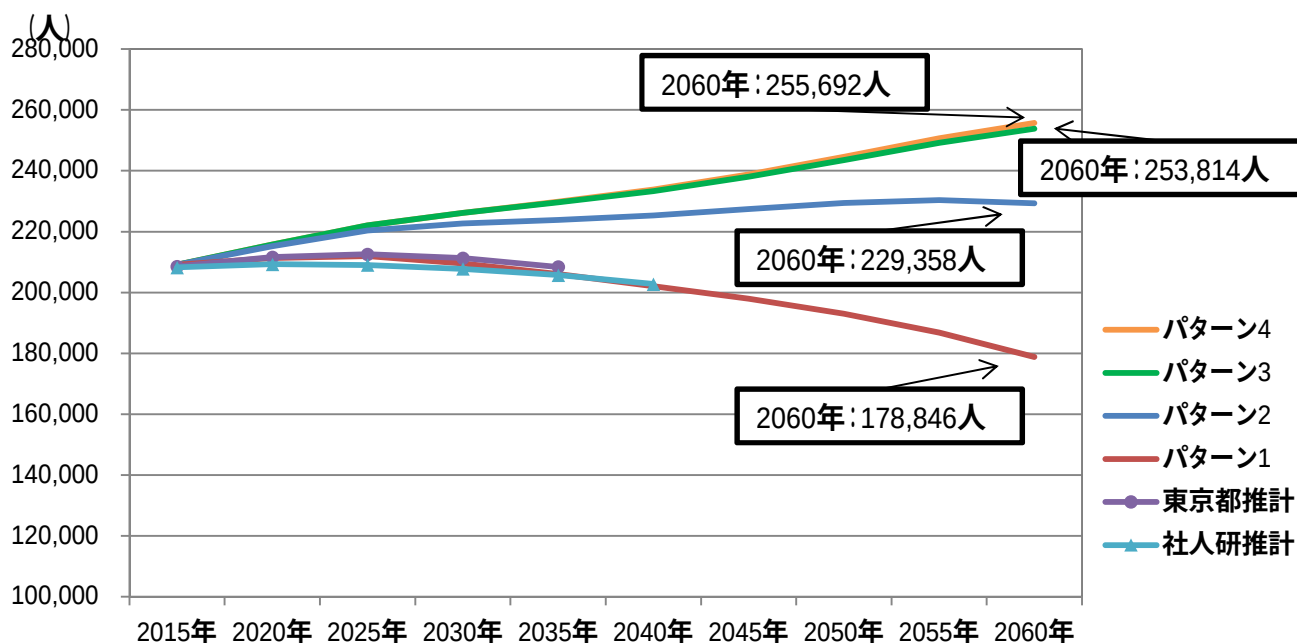
(2) 将来人口推計

図表 29 は、前述した将来人口推計手法に基づいて算出した 2060 年までの推計結果を示したものです。

2060 年時点での人口は、パターン 1 では 178,846 人、パターン 2 では 229,358 人、パターン 3 では 253,814 人、パターン 4 では 255,692 人となる結果が得られました。

以下、各パターンの推計結果の詳細を示します。

図表 29 荒川区の将来人口推計（総人口：2060 年まで）



①パターン1 推計結果

パターン 1 は、現状から出生率や人口の定住率に特段の変化がなく、現状のままで時間が経過した場合を想定した推計です。

出生率の仮定値は、荒川区の 2000 年（平成 12 年）から 2013 年（平成 25 年）までの女性 5 歳別出生率（15 歳から 49 歳）の平均値で設定しました（合計特殊出生率 1.15）。

また、社会移動率の仮定値を、大規模開発が落ち着いた直近 5 年間の平均（年 1,435 増加人）と直近 5 年間の社会動態の下限値の平均（年 673 人増加）を足し合わせた平均（年 1,054 人増加）が概ね維持されるよう設定しました。

推計結果では、国立社会保障・人口問題研究所や東京都の推計結果とほぼ同様となり、2025～2030 年をピークとして人口減少が進み、2060 年（平成 72 年）には 178,846 人にまで減少すると推計されます。

人口ピラミッドを見てみると（図表 30）、2015 年（平成 27 年）と比較すると（図表 6）、男女ともに 45～49 歳と 70～74 歳にピークが上昇し、高齢化が進行することが見込まれます。

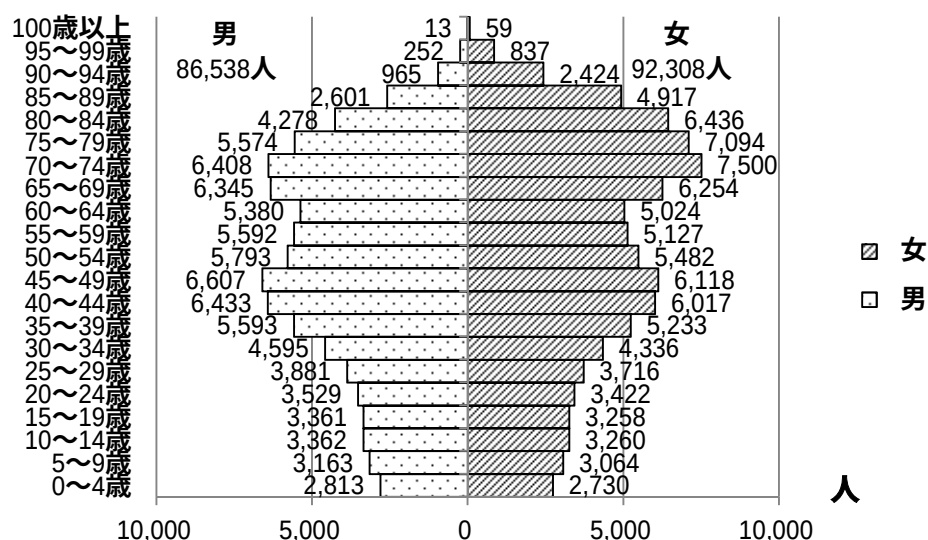
また、総人口に占める年少人口の割合は、2015 年（平成 27 年）の 11.5%から、2060 年（平成 72 年）には 10.3 %へ低下し、少子化がさらに進行する見込みとなっています。

総人口に占める生産年齢人口の割合も、2015 年（平成 27 年）の 65.3%から、2060 年

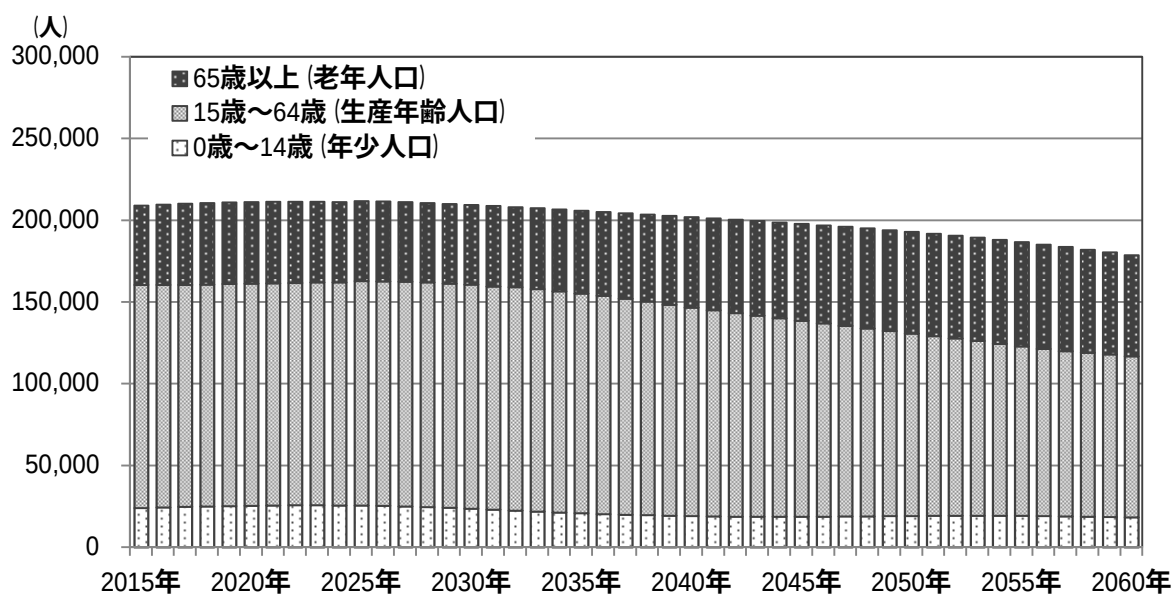
(平成 72 年) には 55.1%へ低下する見込みとなっています。

一方で、総人口に占める老年人口の割合は、2015 年(平成 27 年)の 23.2%から、2060 年(平成 72 年)には 34.6%へ上昇し、高齢化がさらに進行する見込みとなっています。

図表 30 パターン 1(人口ピラミッド、2060 年)



図表 31 パターン 1 (年齢 3 区分別、2060 年まで)



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0歳～14歳 (年少人口)	24,093	25,526	25,721	23,616	20,918	19,162	18,822	19,270	19,324	18,392
	11.5%	12.1%	12.1%	11.3%	10.2%	9.5%	9.5%	10.0%	10.3%	10.3%
15歳～64歳 (生産年齢人口)	136,567	135,839	137,186	137,069	134,411	127,589	119,748	111,548	103,643	98,497
	65.3%	64.3%	64.7%	65.4%	65.2%	63.1%	60.5%	57.8%	55.5%	55.1%
65歳以上 (老年人口)	48,427	50,003	49,038	48,899	50,728	55,371	59,380	62,217	63,824	61,957
	23.2%	23.7%	23.1%	23.3%	24.6%	27.4%	30.0%	32.2%	34.2%	34.6%
計	209,087	211,368	211,945	209,584	206,057	202,122	197,950	193,035	186,791	178,846

②パターン2 推計結果

パターン2は、荒川区が出生率の向上や定住化促進施策等を実施したことにより、合計特殊出生率が全国平均レベルまで向上し、転入がパターン1よりも増加した場合を想定した推計です。

出生率の仮定値を、荒川区の2013年（平成25年）の数値を基準として、2025年（平成37年）までに全国平均の合計特殊出生率1.43（2013年・平成25年）を達成し、その後1.43を維持するよう設定しました。

また、社会移動率の仮定値を、大規模開発が落ち着いた直近5年間の平均（1,435人）が概ね維持されるよう仮定値を設定しました。

推計結果では、2060年（平成72年）時点での荒川区の総人口は229,358人になると推計されます。

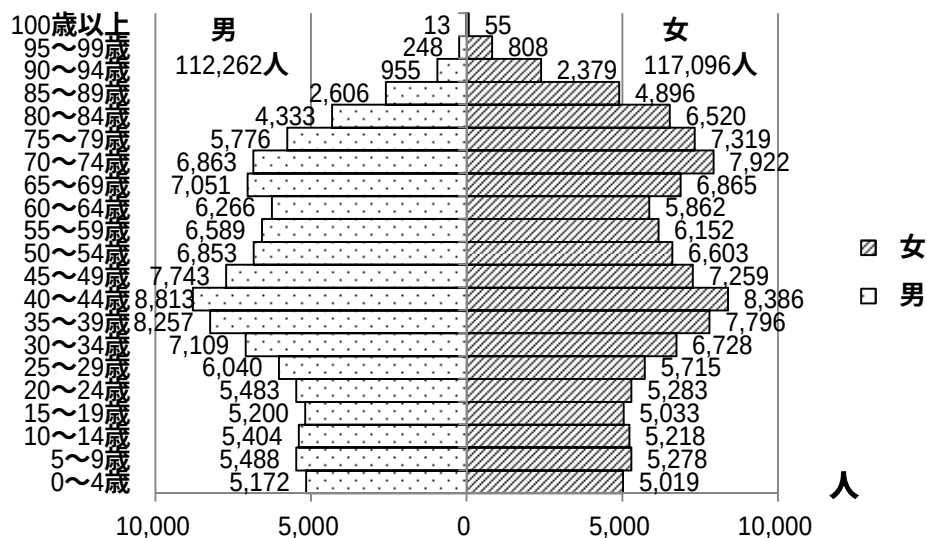
人口ピラミッド図を見てみると（図表32）、2015年（平成27年）と比較すると（図表6）、40～44歳が最も多くなっている点は同様ですが、2015年（平成27年）には65～69歳がもう1つのピークになっていたのが、2060年（平成72年）には70～74歳にピークが上昇します。

また、総人口に占める年少人口の割合は、2015年（平成27年）の11.5%から、2060年（平成72年）には13.8%へ上昇する見込みです。

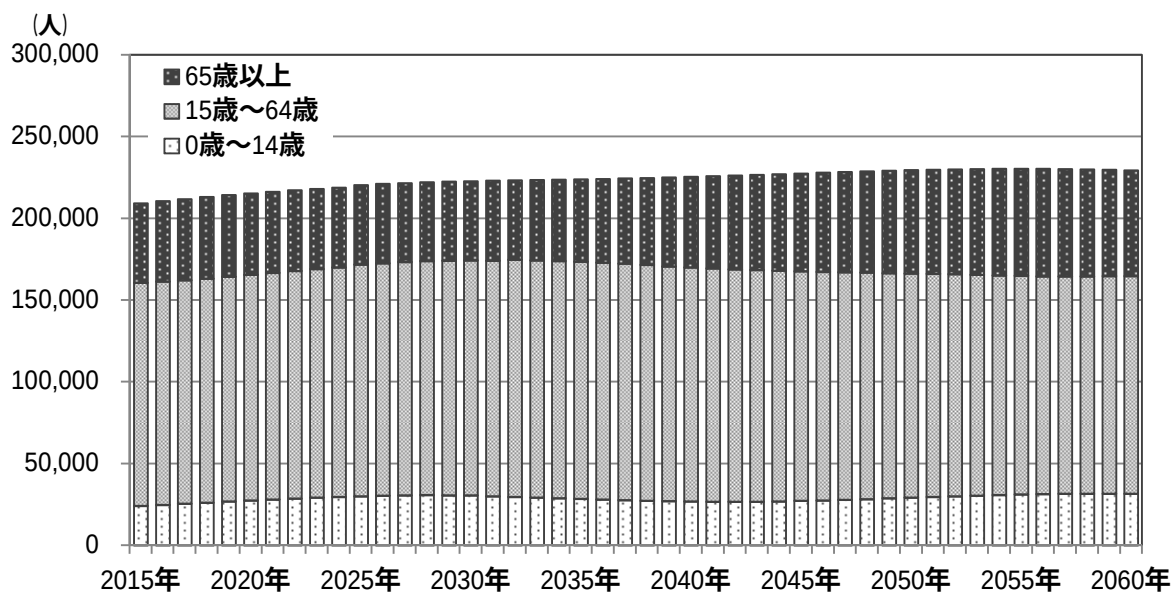
総人口に占める生産年齢人口の割合は、2015年（平成27年）の65.3%から、2060年（平成72年）には58.1%へ低下する見込みです。

総人口に占める老年人口の割合は、2015年（平成27年）の23.2%から、2060年（平成72年）には28.2%へ上昇し、高齢化が進行する見込みですが、パターン1の推計と比較するとその上昇は緩やかとなります。

図表 32 パターン2（人口ピラミッド、2060年）



図表 33 パターン 2（年齢 3 区分別、2060 年まで）



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0歳～14歳 (年少人口)	24,093	27,398	30,069	30,481	28,338	26,808	27,163	29,168	31,074	31,579
	11.5%	12.7%	13.6%	13.7%	12.7%	11.9%	11.9%	12.7%	13.5%	13.8%
15歳～64歳 (生産年齢人口)	136,567	138,047	141,684	143,822	145,114	143,109	140,423	137,060	133,715	133,170
	65.3%	64.1%	64.3%	64.6%	64.8%	63.5%	61.7%	59.7%	58.1%	58.1%
65歳以上 (老年人口)	48,427	49,763	48,589	48,425	50,418	55,427	59,839	63,187	65,545	64,609
	23.2%	23.1%	22.1%	21.7%	22.5%	24.6%	26.3%	27.5%	28.5%	28.2%
計	209,087	215,208	220,342	222,728	223,870	225,344	227,425	229,415	230,334	229,358

③パターン3 推計結果

パターン 3 は、荒川区が出生率の向上や定住化促進施策等を実施したことにより、合計特殊出生率が、東京都が「希望出生率」として掲げる数値にまで向上し、転入がパターン 1 よりも増加した場合を想定した推計です。

出生率の仮定値を、荒川区の 2013 年（平成 25 年）の数値を基準として、2030 年（平成 42 年）までに東京都総合戦略において「希望出生率」として掲げられている合計特殊出生率 1.76 を達成し、その後 1.76 を維持するよう設定しました。

また、社会移動率の仮定値は、パターン 2 に準じて設定し、大規模開発が落ち着いた直近 5 年間の平均（1,435 人）が概ね維持されるよう仮定値を設定しました。

推計結果では、2060 年時点での荒川区の総人口は 253,814 人になると推計されます。

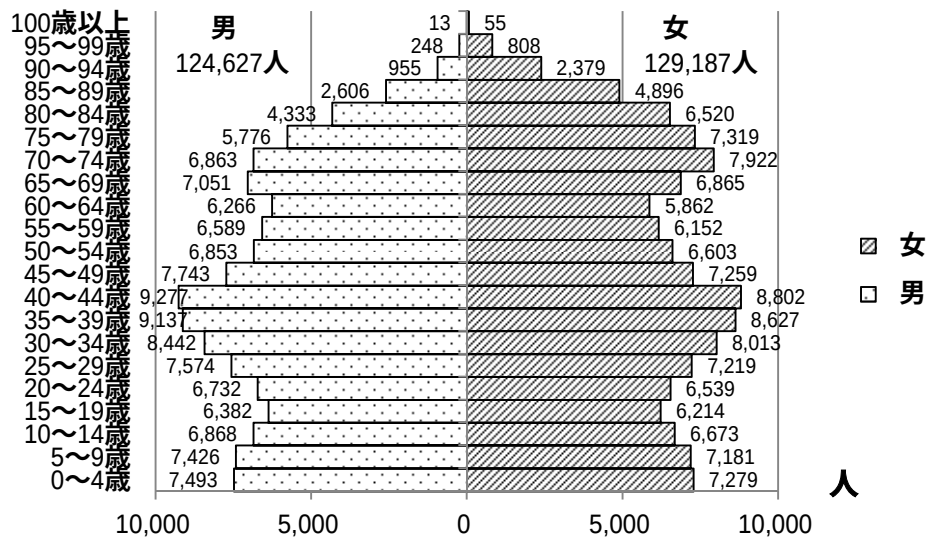
人口ピラミッド図を見てみると（図表 34）、2015 年（平成 27 年）と比較すると（図表 6）、40～44 歳が最も多くなっている点は同様ですが、2015 年（平成 27 年）には 65～69 歳がもう 1 つのピークになっていたのが、2060 年（平成 72 年）には 70～74 歳にピークが上昇します。

また、総人口に占める年少人口の割合は、2015 年（平成 27 年）の 11.5%から、2060 年（平成 72 年）には 16.9%へ上昇する見込みであり、パターン 2 よりも上昇の割合が大きくなります。

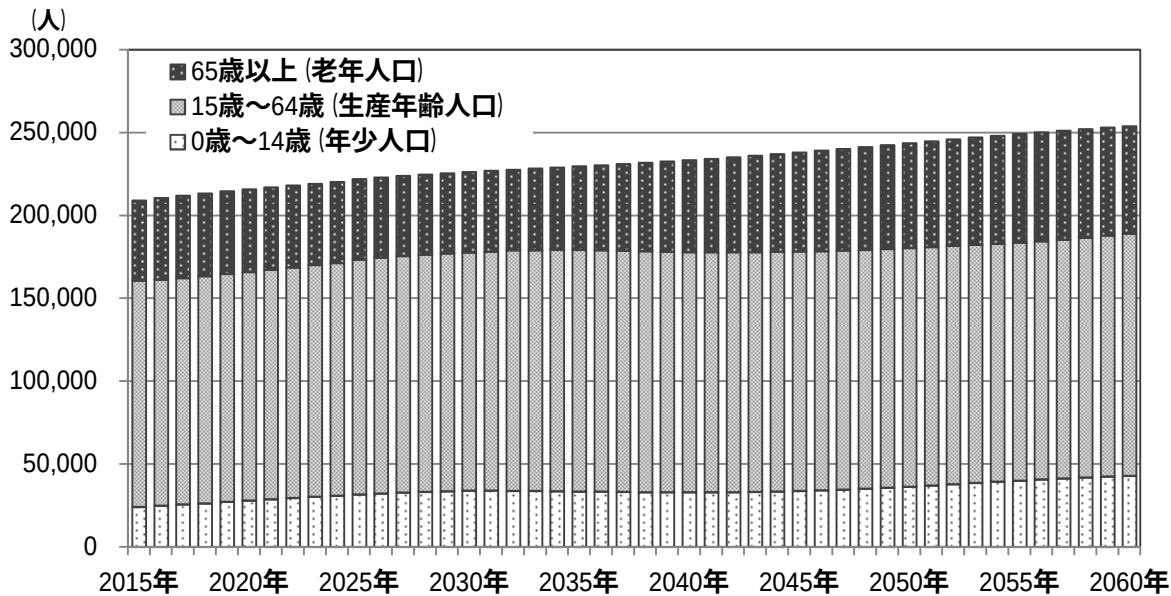
総人口に占める生産年齢人口の割合は、2015 年（平成 27 年）の 65.3%から、2060 年（平成 72 年）には 57.6%へ低下する見込みです。

総人口に占める老年人口の割合は、2015 年（平成 27 年）の 23.2%から、2060 年（平成 72 年）には 25.5 %へ上昇し、高齢化が若干進行する見込みですが、パターン 1・2 と比較するとその上昇は緩やかとなります。

図表 34 パターン 3（人口ピラミッド、2060 年）



図表 35 パターン 3（年齢 3 区分別、2060 年まで）



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0歳～14歳（年少人口）	24,093	27,960	31,737	33,962	33,501	32,953	33,748	36,392	40,053	42,920
	11.5%	13.0%	14.3%	15.0%	14.6%	14.1%	14.2%	14.9%	16.1%	16.9%
15歳～64歳（生産年齢人口）	136,567	138,047	141,684	143,822	145,707	144,979	144,480	143,977	143,615	146,285
	65.3%	64.0%	63.8%	63.6%	63.5%	62.1%	60.7%	59.1%	57.6%	57.6%
65歳以上（老年人口）	48,427	49,763	48,589	48,425	50,418	55,427	59,839	63,187	65,545	64,609
	23.2%	23.1%	21.9%	21.4%	22.0%	23.8%	25.1%	25.9%	26.3%	25.5%
計	209,087	215,770	222,010	226,209	229,626	233,359	238,067	243,556	249,213	253,814

④パターン4推計結果

パターン4は、荒川区が出生率の向上や定住化促進施策等を実施したことにより、合計特殊出生率が、国が「希望出生率」として掲げる数値にまで向上し、転入がパターン1よりも増加した場合を想定した推計です。

出生率の仮定値を、荒川区の2013年（平成25年）の数値を基準として、2032年（平成44年）までに国の長期ビジョンの目標である合計特殊出生率1.80を達成し、その後1.80を維持するよう設定しました。

また、社会移動率の仮定値は、パターン2・3に準じて設定し、大規模開発が落ち着いた直近5年間の平均（1,435人）が概ね維持されるよう仮定値を設定しました。

推計結果では、2060年（平成72年）時点での荒川区の総人口は255,692人になると推計されます。

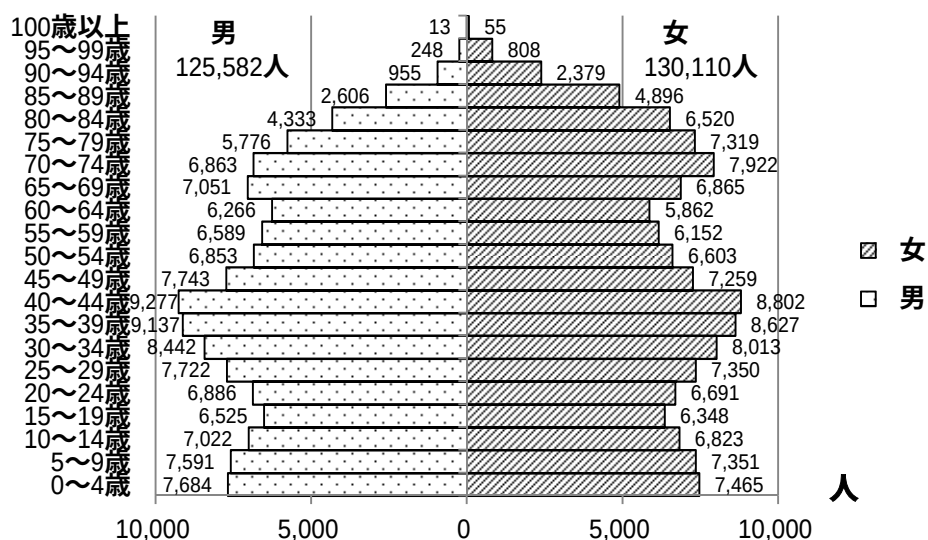
人口ピラミッド図を見てみると（図表36）、2015年（平成27年）と比較すると（図表6）、40～44歳が最も多くなっている点は同様ですが、2015年（平成27年）には65～69歳がもう1つのピークになっていたのが、2060年（平成72年）には70～74歳にピークが上昇します。

また、総人口に占める年少人口の割合は、2015年（平成27年）の11.5%から、2060年（平成72年）には17.2%へ上昇する見込みであり、パターン2・3よりも上昇の割合が大きくなります。

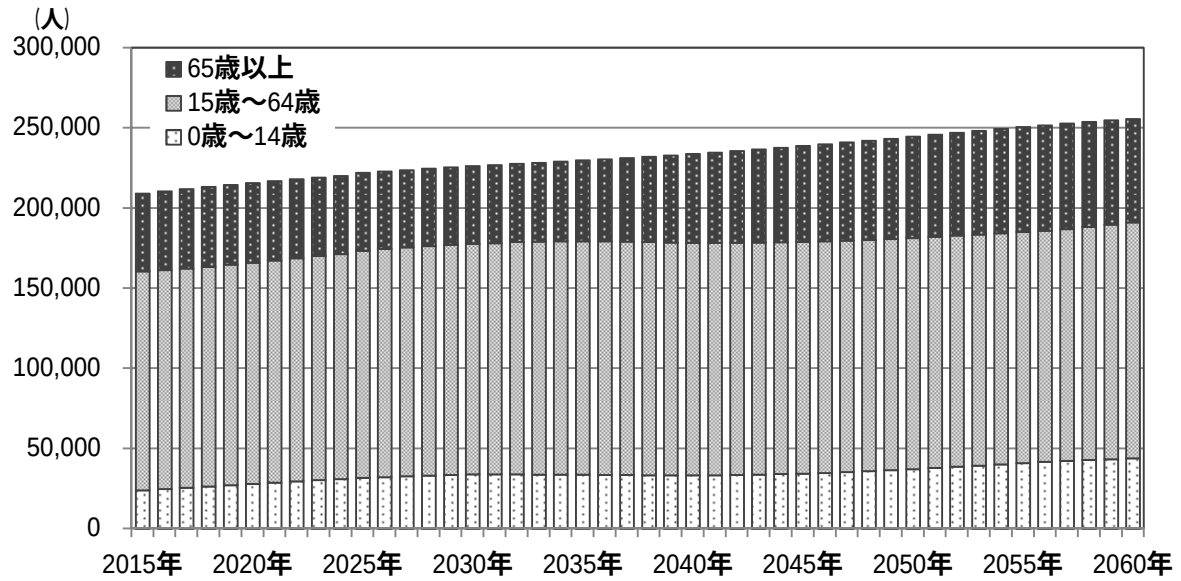
総人口に占める生産年齢人口の割合は、2015年（平成27年）の65.3%から、2060年（平成72年）には57.5%へ低下する見込みです。

総人口に占める老年人口の割合は、2015年（平成27年）の23.2%から、2060年（平成72年）には25.3%へ若干上昇し、高齢化が進行する見込みですが、パターン1・2・3と比較するとその上昇は緩やかとなります。

図表 36 パターン4（人口ピラミッド、2060年）



図表 37 パターン 4（年齢 3 区分別、2060 年まで）



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0歳～14歳 (年少人口)	24,093	27,960	31,737	33,962	33,697	33,396	34,465	37,212	40,961	43,936
	11.5%	13.0%	14.3%	15.0%	14.7%	14.3%	14.4%	15.2%	16.3%	17.2%
15歳～64歳 (生産年齢人口)	136,567	138,047	141,684	143,822	145,707	144,979	144,480	144,181	144,114	147,147
	65.3%	64.0%	63.8%	63.6%	63.4%	62.0%	60.5%	59.0%	57.5%	57.5%
65歳以上 (老年人口)	48,427	49,763	48,589	48,425	50,418	55,427	59,839	63,187	65,545	64,609
	23.2%	23.1%	21.9%	21.4%	21.9%	23.7%	25.1%	25.8%	26.2%	25.3%
計	209,087	215,770	222,010	226,209	229,822	233,802	238,784	244,580	250,620	255,692

(3) 人口の将来展望

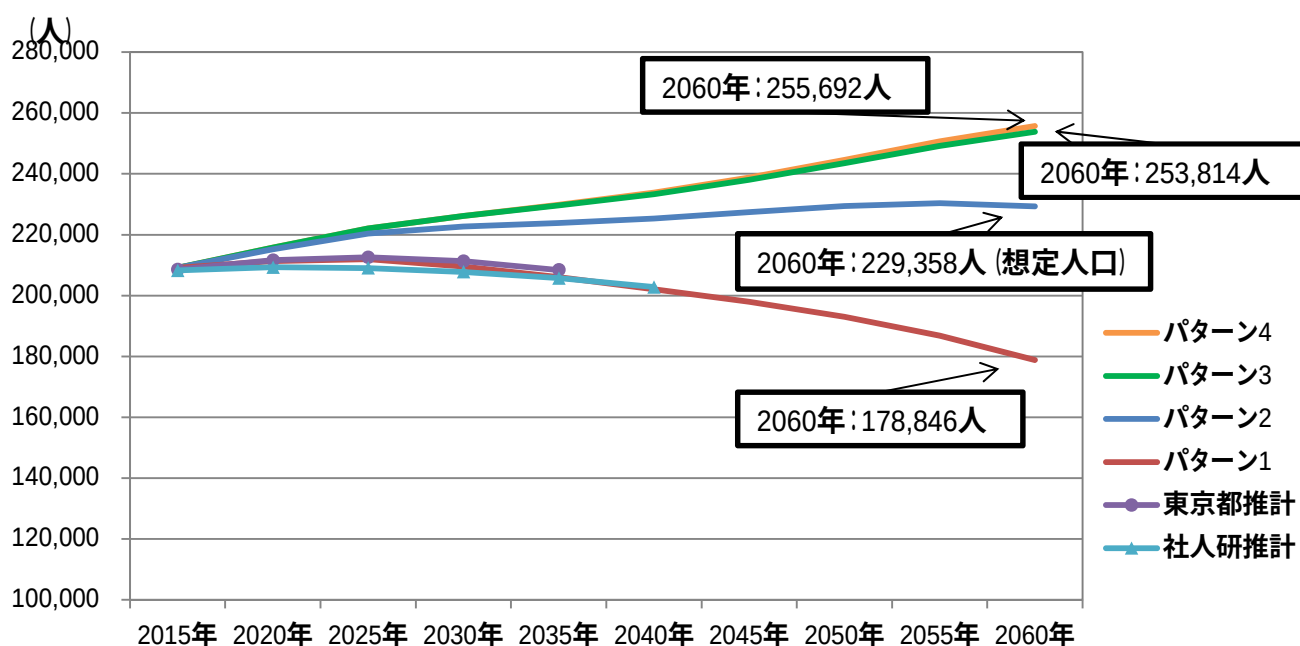
パターン1の推計で示したとおり、荒川区の人口は、何も対策を講じなければ2025～2030年頃をピークとして、2060年には18万人弱にまで減少する可能性があります。また、少子高齢化の加速は避けられない状況にあり、現状のままでは老年人口を支える生産年齢人口が減少し続け、地域経済やコミュニティの衰退が進む可能性があります。

このような状況の中、将来的な人口減少に対応し、持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、現時点から中長期的な視点で人口減少対策を進めていく必要があります。

パターン2、パターン3、パターン4は、出生率の向上及び定住人口の拡大を図ったことを想定したものとなっており、2060年時点で、229,358人（パターン2）、253,814人（パターン3）、255,692人（パターン4）になる推計となっています。

このうち、荒川区ではパターン2の2060年時点で229,358人の人口規模を想定人口とします。この想定人口の実現に向け、Ⅲ－1で示した「出生率の向上」、「定住化の促進」の目指すべき2つの方向性に従い、取組を進めていきます。

図表 38 荒川区の将来人口推計（総人口：2060年まで）



参考資料

1 荒川区独自の将来人口推計算出方法の詳細

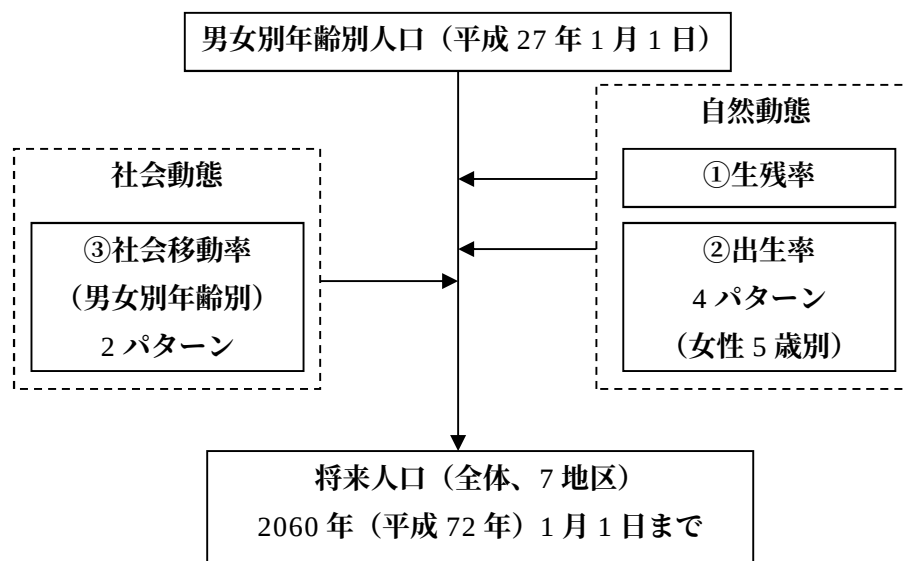
(1) 推計方法

推計は、2015 年（平成 27 年）1 月 1 日現在の住民基本台帳人口をベースとして、7 地区別に男女別 1 歳別についてコーホート要因法により、自然動態と社会動態に分けて将来推計を行った。

推計アウトプットは、荒川区全体、7 地区別とし、各年における男女別 1 歳別人口（それを整理した 5 歳別人口を含む）とした。

なお、将来人口は日本人と外国人の計である。

【将来人口推計の流れ】



1 歳以上人口については、生残率×社会移動率（転入超過率）、0 歳児は、女性人口（年齢別）×出生率×男女比により求められる。

計算式は次の通りである。

(t+1)年における人口

$$\begin{aligned} &= \sum_{n=0}^{100} \{t\text{年男女別}n\text{歳人口}\} \times \{n\text{歳} \rightarrow (n+1)\text{歳男女別生残率}\} \times \{n\text{歳} \rightarrow (n+1)\text{歳男女別転入超過率}\} \\ &\quad + \sum_{n=15}^{49} \{n\text{歳の女性人口}\} \times \{n\text{歳の女性の出生率}\} \times \{\text{出生児の男女性比}\} \end{aligned}$$

※統計の都合上 101 歳以上は 100 歳に含めた

【推計における仮定値と推計パターン】

推計にあたっては、生残率、出生率、社会移動率の設定を行った。

このうち、生残率は全てのパターンにおいて共通とし、出生率、社会移動率は変化させたパターンを設定した。

①生残率の仮定値（すべてのパターンにおいて共通）

生残率については、2010 年（平成 22 年）における荒川区生命表（5 歳別）と東京都生命表（1 歳別）から 1 歳別の生残率を設定した。

荒川区生命表においては、5 歳階級別の死亡数（人口 10 万人当たり）が示されている。東京都生命表においては、年齢（1 歳）別死亡数（人口 10 万人当たり）が示されている。東京都生命表により、5 歳階級の死亡数内訳に占める年齢（1 歳）別の比率を算出し、その比率を荒川区生命表において割り戻すことにより年齢（1 歳）別死亡数を推計した。

推計された荒川区の年齢（1 歳）別死亡数から、生残率を算出した。

【荒川区年齢別死亡数（2010 年荒川区生命表）】

年齢	男	女
0	150	237
1～4	148	47
5～9	28	29
10～14	43	21
15～19	164	95
20～24	224	116
25～29	268	81
30～34	345	217
35～39	505	223
40～44	940	455
45～49	1,524	632
50～54	2,053	768
55～59	3,720	1,364
60～64	5,299	1,919
65～69	8,016	3,538
70～74	10,965	5,041
75～79	13,184	7,834
80～84	18,601	13,773
85～89	17,678	19,978
90～94	10,240	22,590
95～	5,906	21,042

※ 人口 10 万人あたりの死亡数

【東京都年齢別死亡数（2010 年東京都生命表）】

年齢	男	女	年齢	男	女
0	206	186	51	320	183
1	31	25	52	354	202
2	23	18	53	395	217
3	17	13	54	441	230
4	13	10	55	492	243
5	10	8	56	544	257
6	9	7	57	598	273
7	8	7	58	652	292
8	9	6	59	708	315
9	10	6	60	767	339
10	11	7	61	828	364
11	12	8	62	893	389
12	13	9	63	963	416
13	14	10	64	1039	445
14	15	11	65	1118	477
15	16	12	66	1201	511
16	17	14	67	1285	550
17	20	15	68	1374	595
18	25	17	69	1468	646
19	31	19	70	1568	705
20	37	20	71	1675	772
21	43	22	72	1788	850
22	47	23	73	1908	941
23	50	24	74	2037	1048
24	51	24	75	2179	1170
25	51	25	76	2337	1306
26	51	25	77	2511	1454
27	51	26	78	2698	1615
28	52	27	79	2894	1793
29	54	30	80	3096	1996
30	55	32	81	3295	2229
31	57	35	82	3488	2497
32	60	37	83	3668	2800
33	63	39	84	3819	3127
34	67	41	85	3926	3460
35	72	43	86	3975	3785
36	78	46	87	3955	4078
37	84	50	88	3866	4317
38	91	55	89	3714	4499
39	98	62	90	3507	4632
40	107	70	91	3251	4713
41	118	77	92	2955	4742
42	130	83	93	2628	4700
43	145	87	94	2280	4551
44	162	90	95	1926	4271
45	180	93	96	1580	3865
46	201	99	97	1254	3370
47	222	108	98	961	2836
48	243	123	99	708	2311
49	266	142	100～	1323	6397
50	291	163			

※ 人口 10 万人あたりの死亡数

【東京都年齢別死亡数から 5 歳階級の内訳の比率を推計（男）】

5歳階級	1歳階級	死亡数 (男)	5歳階級別 の内訳	5歳階級	1歳階級	死亡数 (男)	5歳階級別 の内訳
0	0	206	100.0%	50～54	50	291	16.2%
1～ 4	1	31	36.9%	51	320	17.8%	
	2	23	27.4%	52	354	19.7%	
	3	17	20.2%	53	395	21.9%	
	4	13	15.5%	54	441	24.5%	
5～ 9	5	10	21.7%	55～59	55	492	16.4%
	6	9	19.6%	56	544	18.2%	
	7	8	17.4%	57	598	20.0%	
	8	9	19.6%	58	652	21.8%	
10～14	9	10	21.7%	59	708	23.6%	
	10	11	16.9%	60～64	60	767	17.1%
	11	12	18.5%	61	828	18.4%	
	12	13	20.0%	62	893	19.9%	
15～19	13	14	21.5%	63	963	21.4%	
	14	15	23.1%	64	1,039	23.1%	
	15	16	14.7%	65～69	65	1,118	17.3%
	16	17	15.6%	66	1,201	18.6%	
20～24	17	20	18.3%	67	1,285	19.9%	
	18	25	22.9%	68	1,374	21.3%	
	19	31	28.4%	69	1,468	22.8%	
	20	37	16.2%	70～74	70	1,568	17.5%
25～29	21	43	18.9%	71	1,675	18.7%	
	22	47	20.6%	72	1,788	19.9%	
	23	50	21.9%	73	1,908	21.3%	
	24	51	22.4%	74	2,037	22.7%	
30～34	25	51	19.7%	75～79	75	2,179	17.3%
	26	51	19.7%	76	2,337	18.5%	
	27	51	19.7%	77	2,511	19.9%	
	28	52	20.1%	78	2,698	21.4%	
35～39	29	54	20.8%	79	2,894	22.9%	
	30	55	18.2%	80～84	80	3,096	17.8%
	31	57	18.9%	81	3,295	19.0%	
	32	60	19.9%	82	3,488	20.1%	
40～44	33	63	20.9%	83	3,668	21.1%	
	34	67	22.2%	84	3,819	22.0%	
	35	72	17.0%	85～89	85	3,926	20.2%
	36	78	18.4%	86	3,975	20.5%	
45～49	37	84	19.9%	87	3,955	20.3%	
	38	91	21.5%	88	3,866	19.9%	
	39	98	23.2%	89	3,714	19.1%	
	40	107	16.2%	90～94	90	3,507	24.0%
50～54	41	118	17.8%	91	3,251	22.2%	
	42	130	19.6%	92	2,955	20.2%	
	43	145	21.9%	93	2,628	18.0%	
	44	162	24.5%	94	2,280	15.6%	
55～59	45	180	16.2%	95～	95	1,926	24.8%
	46	201	18.1%	96	1,580	20.4%	
	47	222	20.0%	97	1,254	16.2%	
	48	243	21.9%	98	961	12.4%	
60～64	49	266	23.9%	99	708	9.1%	
				100～	1,323	17.1%	

【東京都年齢別死亡数から 5 歳階級の内訳の比率を推計（女）】

5歳階級	1歳階級	死亡数 (女)	5歳階級別 の内訳	5歳階級	1歳階級	死亡数 (女)	5歳階級別 の内訳
0	0	186	100.0%	50～54	50	163	16.4%
1～ 4	1	25	37.9%	51	183	18.4%	
	2	18	27.3%	52	202	20.3%	
	3	13	19.7%	53	217	21.8%	
	4	10	15.2%	54	230	23.1%	
5～ 9	5	8	23.5%	55～59	55	243	17.6%
	6	7	20.6%	56	257	18.6%	
	7	7	20.6%	57	273	19.8%	
	8	6	17.6%	58	292	21.2%	
10～14	9	6	17.6%	59	315	22.8%	
	10	7	15.6%	60～64	60	339	17.4%
	11	8	17.8%	61	364	18.6%	
	12	9	20.0%	62	389	19.9%	
15～19	13	10	22.2%	63	416	21.3%	
	14	11	24.4%	64	445	22.8%	
	15	12	15.6%	65～69	65	477	17.2%
	16	14	18.2%	66	511	18.4%	
20～24	17	15	19.5%	67	550	19.8%	
	18	17	22.1%	68	595	21.4%	
	19	19	24.7%	69	646	23.2%	
	20	20	17.7%	70～74	70	705	16.3%
25～29	21	22	19.5%	71	772	17.9%	
	22	23	20.4%	72	850	19.7%	
	23	24	21.2%	73	941	21.8%	
	24	24	21.2%	74	1,048	24.3%	
30～34	25	25	18.8%	75～79	75	1,170	15.9%
	26	25	18.8%	76	1,306	17.8%	
	27	26	19.5%	77	1,454	19.8%	
	28	27	20.3%	78	1,615	22.0%	
35～39	29	30	22.6%	79	1,793	24.4%	
	30	32	17.4%	80～84	80	1,996	15.8%
	31	35	19.0%	81	2,229	17.6%	
	32	37	20.1%	82	2,497	19.7%	
40～44	33	39	21.2%	83	2,800	22.1%	
	34	41	22.3%	84	3,127	24.7%	
	35	43	16.8%	85～89	85	3,460	17.2%
	36	46	18.0%	86	3,785	18.8%	
45～49	37	50	19.5%	87	4,078	20.2%	
	38	55	21.5%	88	4,317	21.4%	
	39	62	24.2%	89	4,499	22.3%	
	40	70	17.2%	90～94	90	4,632	19.8%
50～54	41	77	18.9%	91	4,713	20.2%	
	42	83	20.4%	92	4,742	20.3%	
	43	87	21.4%	93	4,700	20.1%	
	44	90	22.1%	94	4,551	19.5%	
55～59	45	93	16.5%	95～	95	4,271	18.5%
	46	99	17.5%	96	3,865	16.8%	
	47	108	19.1%	97	3,370	14.6%	
	48	123	21.8%	98	2,836	12.3%	
60～64	49	142	25.1%	99	2,311	10.0%	
				100～	6,397	27.8%	

**【荒川区生命表を基準として、東京都生命表による年齢別死亡数から推計した
荒川区年齢別死亡数・生残率（男）】**

年齢	死亡率	生存数	死亡数	生残率	年齢	死亡率	生存数	死亡数	生残率
男					男				
0	0.001500	100,000.0	150.0	0.998500	50	0.003468	95,663.0	331.7	0.996532
1	0.000547	99,850.0	54.6	0.999453	51	0.003826	95,331.3	364.8	0.996174
2	0.000406	99,795.4	40.5	0.999594	52	0.004249	94,966.5	403.5	0.995751
3	0.000300	99,754.9	30.0	0.999700	53	0.004762	94,563.0	450.3	0.995238
4	0.000230	99,724.9	22.9	0.999770	54	0.005342	94,112.7	502.7	0.994658
5	0.000061	99,702.0	6.1	0.999939	55	0.006530	93,610.0	611.3	0.993470
6	0.000055	99,695.9	5.5	0.999945	56	0.007268	92,998.7	675.9	0.992732
7	0.000049	99,690.4	4.9	0.999951	57	0.008048	92,322.8	743.0	0.991952
8	0.000055	99,685.6	5.5	0.999945	58	0.008846	91,579.8	810.1	0.991154
9	0.000061	99,680.1	6.1	0.999939	59	0.009691	90,769.7	879.7	0.990309
10	0.000073	99,674.0	7.3	0.999927	60	0.010070	89,890.0	905.2	0.989930
11	0.000080	99,666.7	7.9	0.999920	61	0.010982	88,984.8	977.2	0.989018
12	0.000086	99,658.8	8.6	0.999914	62	0.011975	88,007.6	1,053.9	0.988025
13	0.000093	99,650.2	9.3	0.999907	63	0.013070	86,953.7	1,136.5	0.986930
14	0.000100	99,640.9	9.9	0.999900	64	0.014289	85,817.2	1,226.2	0.985711
15	0.000242	99,631.0	24.1	0.999758	65	0.016436	84,591.0	1,390.3	0.983564
16	0.000257	99,606.9	25.6	0.999743	66	0.017951	83,200.7	1,493.5	0.982049
17	0.000302	99,581.3	30.1	0.999698	67	0.019557	81,707.2	1,598.0	0.980443
18	0.000378	99,551.3	37.6	0.999622	68	0.021329	80,109.2	1,708.7	0.978671
19	0.000469	99,513.6	46.6	0.999531	69	0.023285	78,400.5	1,825.5	0.976715
20	0.000365	99,467.0	36.4	0.999635	70	0.025014	76,575.0	1,915.5	0.974986
21	0.000425	99,430.6	42.2	0.999575	71	0.027407	74,659.5	2,046.2	0.972593
22	0.000465	99,388.4	46.2	0.999535	72	0.030080	72,613.4	2,184.2	0.969920
23	0.000494	99,342.2	49.1	0.999506	73	0.033094	70,429.2	2,330.8	0.966906
24	0.000505	99,293.1	50.1	0.999495	74	0.036541	68,098.4	2,488.4	0.963459
25	0.000532	99,243.0	52.8	0.999468	75	0.034698	65,610.0	2,276.6	0.965302
26	0.000532	99,190.2	52.8	0.999468	76	0.038552	63,333.4	2,441.6	0.961448
27	0.000532	99,137.5	52.8	0.999468	77	0.043083	60,891.8	2,623.4	0.956917
28	0.000543	99,084.7	53.8	0.999457	78	0.048376	58,268.4	2,818.8	0.951624
29	0.000564	99,030.9	55.9	0.999436	79	0.054528	55,449.6	3,023.6	0.945472
30	0.000633	98,975.0	62.6	0.999367	80	0.063254	52,426.0	3,316.2	0.936746
31	0.000656	98,912.4	64.9	0.999344	81	0.071866	49,109.8	3,529.3	0.928134
32	0.000691	98,847.4	68.3	0.999309	82	0.081966	45,580.5	3,736.1	0.918034
33	0.000726	98,779.1	71.8	0.999274	83	0.093892	41,844.4	3,928.9	0.906108
34	0.000773	98,707.3	76.3	0.999227	84	0.107887	37,915.6	4,090.6	0.892113
35	0.000872	98,631.0	86.0	0.999128	85	0.105570	33,825.0	3,570.9	0.894430
36	0.000945	98,545.0	93.1	0.999055	86	0.119503	30,254.1	3,615.5	0.880497
37	0.001019	98,451.9	100.3	0.998981	87	0.135039	26,638.7	3,597.3	0.864961
38	0.001105	98,351.6	108.6	0.998895	88	0.152609	23,041.4	3,516.3	0.847391
39	0.001191	98,243.0	117.0	0.998809	89	0.173012	19,525.1	3,378.1	0.826988
40	0.001548	98,126.0	151.9	0.998452	90	0.152113	16,147.0	2,456.2	0.847887
41	0.001710	97,974.1	167.6	0.998290	91	0.166307	13,690.8	2,276.9	0.833693
42	0.001887	97,806.5	184.6	0.998113	92	0.181319	11,414.0	2,069.6	0.818681
43	0.002109	97,621.9	205.9	0.997891	93	0.196969	9,344.4	1,840.6	0.803031
44	0.002361	97,416.0	230.0	0.997639	94	0.212802	7,503.8	1,596.8	0.787198
45	0.002537	97,186.0	246.5	0.997463	95	0.248410	5,907.0	1,467.4	0.751590
46	0.002840	96,939.5	275.3	0.997160	96	0.271137	4,439.6	1,203.8	0.728863
47	0.003145	96,664.2	304.1	0.996855	97	0.295246	3,235.9	955.4	0.704754
48	0.003454	96,360.1	332.8	0.996546	98	0.321049	2,280.5	732.2	0.678951
49	0.003794	96,027.3	364.3	0.996206	99	0.348372	1,548.4	539.4	0.651628
					100-	0.999009	1,009.0	1,008.0	0.000991

**【荒川区生命表を基準として、東京都生命表による年齢別死亡数から推計した
荒川区年齢別死亡数・生残率（女）】**

年齢	死亡率	生存数	死亡数	生残率	年齢	死亡率	生存数	死亡数	生残率
女					女				
0	0.002370	100,000.0	237.0	0.997630	50	0.001286	97,848.0	125.8	0.998714
1	0.000175	99,763.0	17.4	0.999825	51	0.001445	97,722.2	141.3	0.998555
2	0.000126	99,745.6	12.5	0.999874	52	0.001598	97,580.9	155.9	0.998402
3	0.000091	99,733.0	9.1	0.999909	53	0.001719	97,425.0	167.5	0.998281
4	0.000070	99,724.0	7.0	0.999930	54	0.001825	97,257.5	177.5	0.998175
5	0.000068	99,717.0	6.8	0.999932	55	0.002474	97,080.0	240.2	0.997526
6	0.000060	99,710.2	6.0	0.999940	56	0.002623	96,839.8	254.0	0.997377
7	0.000060	99,704.2	6.0	0.999940	57	0.002794	96,585.8	269.8	0.997206
8	0.000051	99,698.2	5.1	0.999949	58	0.002997	96,316.0	288.6	0.997003
9	0.000051	99,693.1	5.1	0.999949	59	0.003242	96,027.3	311.3	0.996758
10	0.000033	99,688.0	3.3	0.999967	60	0.003480	95,716.0	333.1	0.996520
11	0.000037	99,684.7	3.7	0.999963	61	0.003750	95,382.9	357.7	0.996250
12	0.000042	99,681.0	4.2	0.999958	62	0.004022	95,025.2	382.2	0.995978
13	0.000047	99,676.8	4.7	0.999953	63	0.004319	94,643.0	408.8	0.995681
14	0.000052	99,672.1	5.1	0.999948	64	0.004640	94,234.3	437.3	0.995360
15	0.000149	99,667.0	14.8	0.999851	65	0.006474	93,797.0	607.3	0.993526
16	0.000173	99,652.2	17.3	0.999827	66	0.006981	93,189.7	650.6	0.993019
17	0.000186	99,634.9	18.5	0.999814	67	0.007567	92,539.2	700.2	0.992433
18	0.000211	99,616.4	21.0	0.999789	68	0.008248	91,838.9	757.5	0.991752
19	0.000235	99,595.4	23.4	0.999765	69	0.009030	91,081.4	822.4	0.990970
20	0.000206	99,572.0	20.5	0.999794	70	0.009123	90,259.0	823.4	0.990877
21	0.000227	99,551.5	22.6	0.999773	71	0.010082	89,435.6	901.7	0.989918
22	0.000237	99,528.9	23.6	0.999763	72	0.011214	88,533.9	992.8	0.988786
23	0.000248	99,505.3	24.6	0.999752	73	0.012555	87,541.1	1,099.1	0.987445
24	0.000248	99,480.6	24.6	0.999752	74	0.014160	86,442.0	1,224.0	0.985840
25	0.000153	99,456.0	15.2	0.999847	75	0.014658	85,218.0	1,249.1	0.985342
26	0.000153	99,440.8	15.2	0.999847	76	0.016605	83,968.9	1,394.3	0.983395
27	0.000159	99,425.5	15.8	0.999841	77	0.018799	82,574.6	1,552.3	0.981201
28	0.000165	99,409.7	16.4	0.999835	78	0.021280	81,022.4	1,724.2	0.978720
29	0.000184	99,393.3	18.3	0.999816	79	0.024139	79,298.2	1,914.2	0.975861
30	0.000380	99,375.0	37.7	0.999620	80	0.028085	77,384.0	2,173.4	0.971915
31	0.000416	99,337.3	41.3	0.999584	81	0.032270	75,210.6	2,427.1	0.967730
32	0.000439	99,296.0	43.6	0.999561	82	0.037356	72,783.6	2,718.9	0.962644
33	0.000463	99,252.3	46.0	0.999537	83	0.043514	70,064.7	3,048.8	0.956486
34	0.000487	99,206.4	48.4	0.999513	84	0.050807	67,015.9	3,404.9	0.949193
35	0.000378	99,158.0	37.5	0.999622	85	0.053958	63,611.0	3,432.3	0.946042
36	0.000404	99,120.5	40.1	0.999596	86	0.062393	60,178.7	3,754.7	0.937607
37	0.000440	99,080.5	43.6	0.999560	87	0.071697	56,423.9	4,045.4	0.928303
38	0.000484	99,036.9	47.9	0.999516	88	0.081760	52,378.5	4,282.5	0.918240
39	0.000546	98,989.0	54.0	0.999454	89	0.092794	48,096.0	4,463.0	0.907206
40	0.000789	98,935.0	78.1	0.999211	90	0.102756	43,633.0	4,483.5	0.897244
41	0.000869	98,856.9	85.9	0.999131	91	0.116526	39,149.5	4,561.9	0.883474
42	0.000937	98,771.0	92.6	0.999063	92	0.132707	34,587.5	4,590.0	0.867293
43	0.000983	98,678.4	97.0	0.999017	93	0.151658	29,997.5	4,549.4	0.848342
44	0.001018	98,581.4	100.4	0.998982	94	0.173103	25,448.1	4,405.1	0.826897
45	0.001058	98,481.0	104.2	0.998942	95	0.185284	21,043.0	3,898.9	0.814716
46	0.001127	98,376.8	110.9	0.998873	96	0.205803	17,144.1	3,528.3	0.794197
47	0.001231	98,265.9	121.0	0.998769	97	0.225946	13,615.8	3,076.4	0.774054
48	0.001404	98,144.9	137.8	0.998596	98	0.245645	10,539.3	2,588.9	0.754355
49	0.001623	98,007.1	159.1	0.998377	99	0.265355	7,950.4	2,109.7	0.734645
					100-	0.999829	5,840.7	5,839.7	0.000171

【生残率の仮定値】

	男	女		男	女		男	女		男	女		男	女
0歳	0.9985	0.9976	21歳	0.9996	0.9998	42歳	0.9981	0.9991	63歳	0.9869	0.9957	84歳	0.8921	0.9492
1歳	0.9995	0.9998	22歳	0.9995	0.9998	43歳	0.9979	0.9990	64歳	0.9857	0.9954	85歳	0.8944	0.9460
2歳	0.9996	0.9999	23歳	0.9995	0.9998	44歳	0.9976	0.9990	65歳	0.9836	0.9935	86歳	0.8805	0.9376
3歳	0.9997	0.9999	24歳	0.9995	0.9998	45歳	0.9975	0.9989	66歳	0.9820	0.9930	87歳	0.8650	0.9283
4歳	0.9998	0.9999	25歳	0.9995	0.9998	46歳	0.9972	0.9989	67歳	0.9804	0.9924	88歳	0.8474	0.9182
5歳	0.9999	0.9999	26歳	0.9995	0.9998	47歳	0.9969	0.9988	68歳	0.9787	0.9918	89歳	0.8270	0.9072
6歳	0.9999	0.9999	27歳	0.9995	0.9998	48歳	0.9965	0.9986	69歳	0.9767	0.9910	90歳	0.8479	0.8972
7歳	1.0000	0.9999	28歳	0.9995	0.9998	49歳	0.9962	0.9984	70歳	0.9750	0.9909	91歳	0.8337	0.8835
8歳	0.9999	0.9999	29歳	0.9994	0.9998	50歳	0.9965	0.9987	71歳	0.9726	0.9899	92歳	0.8187	0.8673
9歳	0.9999	0.9999	30歳	0.9994	0.9996	51歳	0.9962	0.9986	72歳	0.9699	0.9888	93歳	0.8030	0.8483
10歳	0.9999	1.0000	31歳	0.9993	0.9996	52歳	0.9958	0.9984	73歳	0.9669	0.9874	94歳	0.7872	0.8269
11歳	0.9999	1.0000	32歳	0.9993	0.9996	53歳	0.9952	0.9983	74歳	0.9635	0.9858	95歳	0.7516	0.8147
12歳	0.9999	1.0000	33歳	0.9993	0.9995	54歳	0.9947	0.9982	75歳	0.9653	0.9853	96歳	0.7289	0.7942
13歳	0.9999	1.0000	34歳	0.9992	0.9995	55歳	0.9935	0.9975	76歳	0.9614	0.9834	97歳	0.7048	0.7741
14歳	0.9999	0.9999	35歳	0.9991	0.9996	56歳	0.9927	0.9974	77歳	0.9569	0.9812	98歳	0.6790	0.7544
15歳	0.9998	0.9999	36歳	0.9991	0.9996	57歳	0.9920	0.9972	78歳	0.9516	0.9787	99歳	0.6516	0.7346
16歳	0.9997	0.9998	37歳	0.9990	0.9996	58歳	0.9912	0.9970	79歳	0.9455	0.9759	100歳 以上	0.0010	0.0002
17歳	0.9997	0.9998	38歳	0.9989	0.9995	59歳	0.9903	0.9968	80歳	0.9367	0.9719			
18歳	0.9996	0.9998	39歳	0.9988	0.9995	60歳	0.9899	0.9965	81歳	0.9281	0.9677			
19歳	0.9995	0.9998	40歳	0.9985	0.9992	61歳	0.9890	0.9963	82歳	0.9180	0.9626			
20歳	0.9996	0.9998	41歳	0.9983	0.9991	62歳	0.9880	0.9960	83歳	0.9061	0.9565			

②出生率の仮定値（パターン１・２・３・４それぞれで設定）

パターン１の出生率については、荒川区女性５歳別出生率の２０００年（平成１２年）から２０１３年（平成２５年）までの平均（合計特殊出生率１.１５）で設定をした。

パターン２の出生率については、荒川区女性５歳別出生率の２０１３年（平成２５年）（合計特殊出生率１.３０）を基準とし、２０２５年（平成３７年）までに合計特殊出生率１.４３となるよう逓増し、その後維持するものとして設定した。

パターン３の出生率については、荒川区女性５歳別出生率の２０１３年（平成２５年）（合計特殊出生率１.３０）を基準とし、２０３０年（平成４２年）までに合計特殊出生率１.７６となるよう逓増し、その後維持するものとして設定した。

パターン４の出生率については、荒川区女性５歳別出生率の２０１３年（平成２５年）（合計特殊出生率１.３０）を基準とし、２０３２年（平成４４年）までに合計特殊出生率１.８０となるよう逓増し、その後維持するものとして設定した。

全てのパターンにおいて、出生児の男女比は、直近５か年の出生児の男女比が安定して推移しているため（標準偏差では０.７７％）、直近５か年の平均により、男性５０.８％、女性４９.２％とした。また、荒川区では出生児数よりも次年の１月１日現在の０歳児数が多い特徴があり、２０１２年（平成２４年）と２０１３年（平成２５年）の平均より出生児数を３.３９％上乗せ補正した。

【近年の出生率の推移】

年齢	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25
15～19	6.7	3.1	5.6	5.4	3.7	4.4	4.4	3.2	4.2	3.9	3.3	2.7	2.4	2.4
20～24	25.1	29.5	24.7	23.9	23.4	20.0	23.7	22.5	24.7	24.4	21.4	21.7	21.0	21.5
25～29	73.3	70.9	79.2	63.4	61.5	61.9	57.7	60.9	59.0	62.2	64.1	65.5	58.7	57.0
30～34	80.2	70.6	79.2	80.4	75.7	72.6	79.3	81.6	88.4	83.3	94.2	92.0	90.5	102.3
35～39	32.2	38.8	36.3	37.5	41.8	47.0	40.5	44.8	47.4	48.5	51.4	57.0	55.6	62.5
40～44	5.8	4.3	4.6	6.9	9.2	4.8	9.8	6.7	8.9	9.5	10.3	11.5	11.4	13.9
45～49	0.0	0.0	0.0	0.2	0.9	0.4	0.4	0.4	0.6	0.0	0.3	0.2	0.0	0.5
(参考) 合計特殊出生率	1.12	1.09	1.15	1.09	1.08	1.06	1.08	1.10	1.17	1.16	1.23	1.25	1.20	1.30

【設定した年齢階級別出生率】

パターン 1

年齢	基準値	設定値
	2000～2013 (H12～H25) 平均	2059年まで 一律
15～19	4.0	4.0
20～24	23.4	23.4
25～29	63.9	63.9
30～34	83.6	83.6
35～39	45.8	45.8
40～44	8.4	8.4
45～49	0.3	0.3
(参考) 合計特殊出生率	1.15	1.15

パターン 2

年齢	基準値	設定値											
	2013 年 (H25)	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年 以降
15～19	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.7	2.7
20～24	21.5	21.5	21.7	21.9	22.1	22.3	22.5	22.7	23.0	23.2	23.4	23.6	23.6
25～29	57.0	57.0	57.5	58.1	58.7	59.2	59.8	60.4	60.9	61.5	62.1	62.7	62.7
30～34	102.3	102.3	103.4	104.4	105.4	106.4	107.5	108.5	109.5	110.5	111.6	112.6	112.6
35～39	62.5	62.5	63.1	63.7	64.3	65.0	65.6	66.2	66.8	67.5	68.1	68.7	68.7
40～44	13.9	13.9	14.0	14.2	14.3	14.4	14.6	14.7	14.8	15.0	15.1	15.3	15.3
45～49	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
(参考) 合計特殊出生率	1.30	1.30	1.31	1.33	1.34	1.35	1.36	1.38	1.39	1.40	1.42	1.43	1.43

パターン 3

年齢	基準値	設定値																
	2013 年 (H25)	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年	2030 年	2030 年 以降
15～19	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3
20～24	21.5	22.1	22.6	23.1	23.5	24.0	24.4	24.9	25.4	25.8	26.3	26.8	27.2	27.7	28.2	28.6	29.0	29.0
25～29	57.0	58.7	60.0	61.2	62.4	63.7	64.9	66.1	67.4	68.6	69.9	71.1	72.3	73.6	74.8	76.0	77.1	77.1
30～34	102.3	105.5	107.7	110.0	112.2	114.4	116.6	118.9	121.1	123.3	125.5	127.8	130.0	132.2	134.4	136.6	138.6	138.6
35～39	62.5	64.4	65.8	67.1	68.5	69.8	71.2	72.5	73.9	75.3	76.6	78.0	79.3	80.7	82.0	83.4	84.6	84.6
40～44	13.9	14.3	14.6	14.9	15.2	15.5	15.8	16.1	16.4	16.7	17.0	17.3	17.6	17.9	18.2	18.5	18.8	18.8
45～49	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
(参考) 合計特殊出生率	1.30	1.34	1.37	1.40	1.42	1.45	1.48	1.51	1.54	1.57	1.59	1.62	1.65	1.68	1.71	1.74	1.76	1.76

パターン 4

年齢	基準値	設定値																		
	2013 年 (H25)	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年	2030 年	2031 年	2032 年	2032 年 以降
15～19	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3
20～24	21.5	22.1	22.6	23.1	23.5	24.0	24.4	24.9	25.4	25.8	26.3	26.8	27.2	27.7	28.2	28.6	29.1	29.6	29.7	29.7
25～29	57.0	58.7	60.0	61.2	62.4	63.7	64.9	66.1	67.4	68.6	69.9	71.1	72.3	73.6	74.8	76.0	77.3	78.5	78.9	78.9
30～34	102.3	105.5	107.7	110.0	112.2	114.4	116.6	118.9	121.1	123.3	125.5	127.8	130.0	132.2	134.4	136.6	138.9	141.1	141.7	141.7
35～39	62.5	64.4	65.8	67.1	68.5	69.8	71.2	72.5	73.9	75.3	76.6	78.0	79.3	80.7	82.0	83.4	84.7	86.1	86.5	86.5
40～44	13.9	14.3	14.6	14.9	15.2	15.5	15.8	16.1	16.4	16.7	17.0	17.3	17.6	17.9	18.2	18.5	18.8	19.1	19.2	19.2
45～49	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7
(参考) 合計特殊出生率	1.30	1.34	1.37	1.40	1.42	1.45	1.48	1.51	1.54	1.57	1.59	1.62	1.65	1.68	1.71	1.74	1.76	1.79	1.80	1.80

【出生児の男女比】

男	50.8%
女	49.2%

※（資料）人口動態統計（2009 年（平成 21 年）から 2013 年（平成 25 年））

（参考）年齢階級別出生率と合計特殊出生率の関係

$$\text{合計特殊出生率} = \sum_{i=15}^{49} \frac{i\text{歳の日本人女性人口の出生数}}{i\text{歳の日本人女性人口}}$$

合計特殊出生率とは、15 歳から 49 歳までの年齢別特殊出生率を総和したもので、上記式であらわされる。

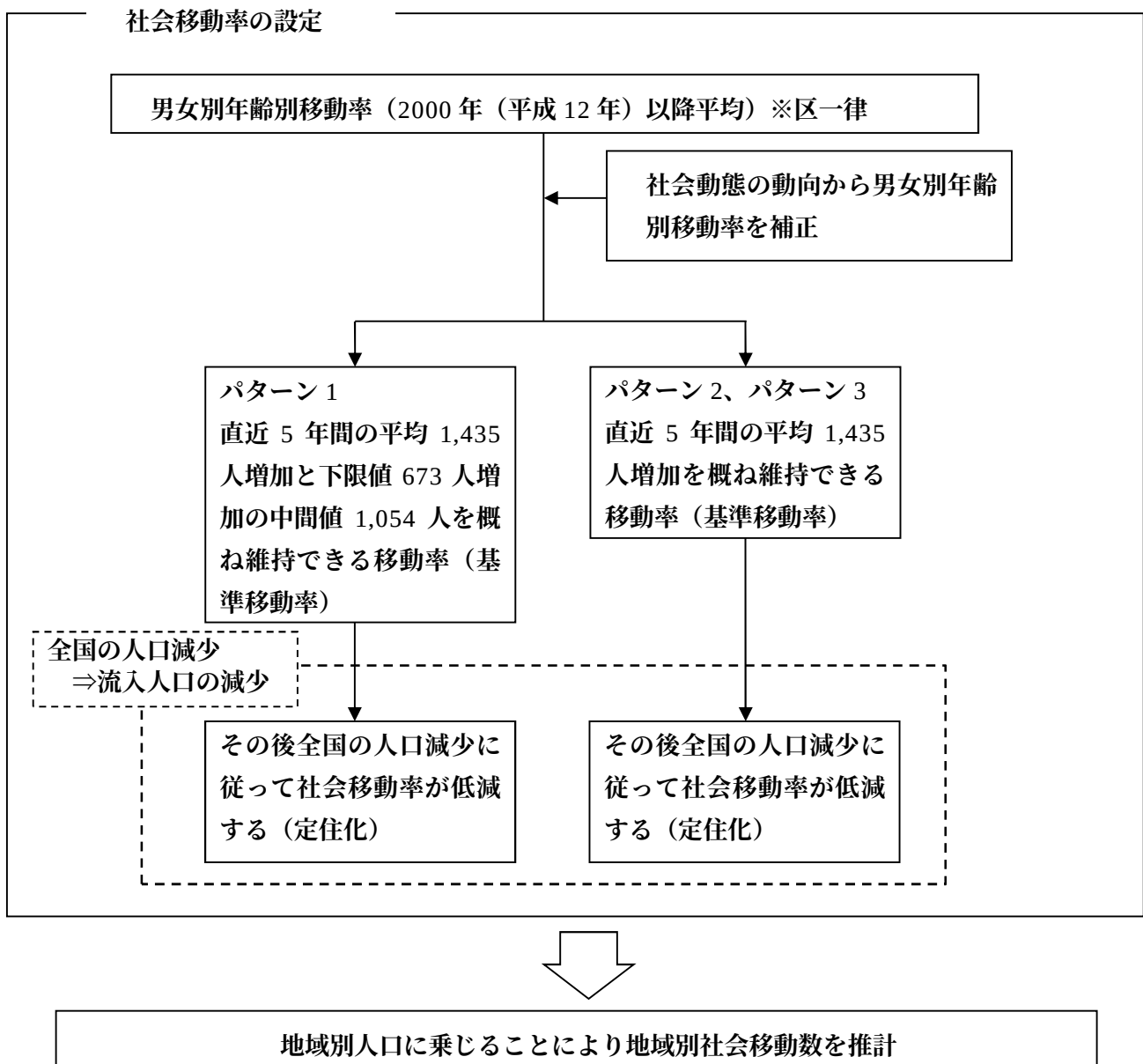
③社会移動率（パターン1のケースと、パターン2・3・4のケースそれぞれで設定）

将来推計において用いた社会移動率は、大規模開発が落ち着いた直近5年間（2010年・平成22年から2014年・平成26年）の社会動態を基準としつつ、パターン1のケースと、パターン2・3・4のケースで2通り設定した。

なお、住民基本台帳の制度変更により、2011年（平成23年）までは日本人の社会移動率、2013年（平成25年）以降は日本人と外国人の社会移動率である。制度変更をまたぐ2012年（平成24年）の社会移動率は除外した。

また、90歳以上については、人口の母数が少なく正確な人口移動を把握することが難しいことや、人口の社会移動が落ち着いている年齢であることを考慮し、社会移動はないものと仮定した。

【社会移動率の設定と社会移動数の推計】



推計の前提である社会移動率は次の計算式により算出した

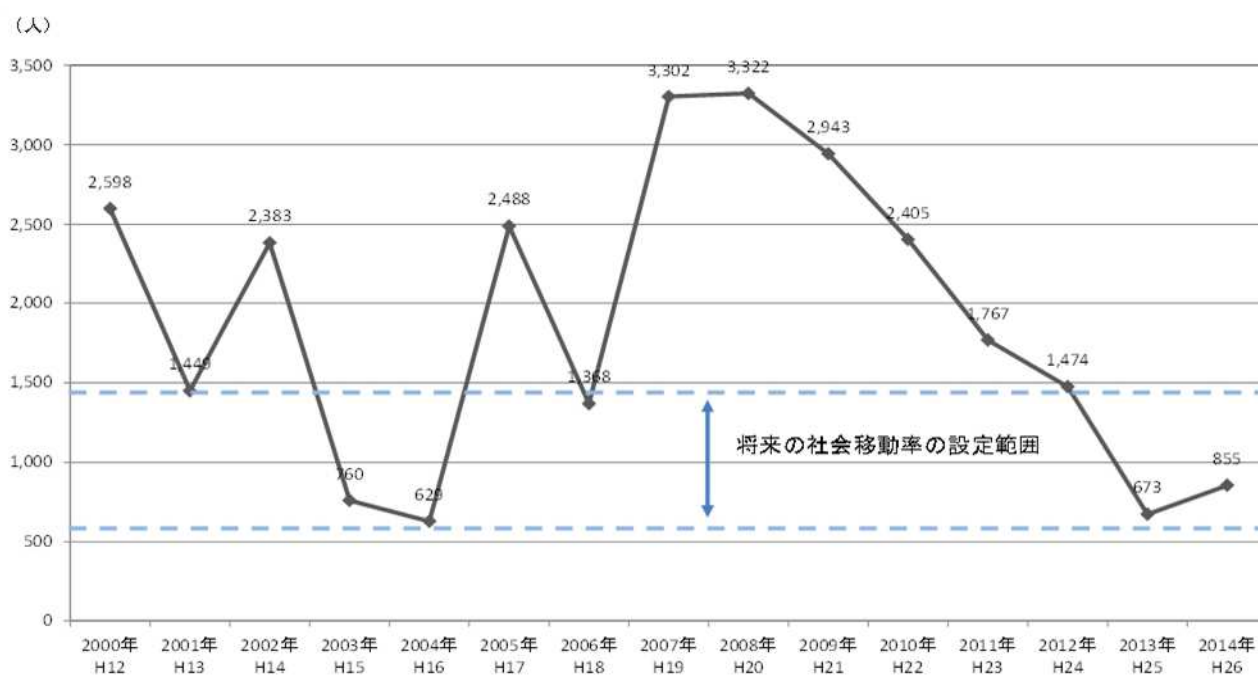
{n歳→(n+1)歳男女別社会移動率(転入超過率)}

$$= \frac{\{(t+1)\text{年男女別}(n+1)\text{歳人口}\}}{\{t\text{年男女別}n\text{歳人口}\} \times \{n\text{歳} \rightarrow (n+1)\text{歳男女別生存率}\}}$$

パターン 1 においては、ここ近年は大規模開発による社会増加がみられたことから、大規模開発が落ち着いた直近 5 年間(平成 22 年から平成 26 年)における社会増加数 1,435 人と下限値の 673 人の中間である 1,054 人が概ね維持されるよう仮定値を設定し、全国の人口減少に伴って社会移動率が逡減されるよう 5 年ごとに見直しを図った。

パターン 2・3・4 においては、直近 5 年間(平成 22 年から平成 26 年)における社会増加数 1,435 人が概ね維持されるよう社会移動率を基準とし、全国の人口減少に伴って社会移動率が逡減されるよう 5 年ごとに見直しを図った。

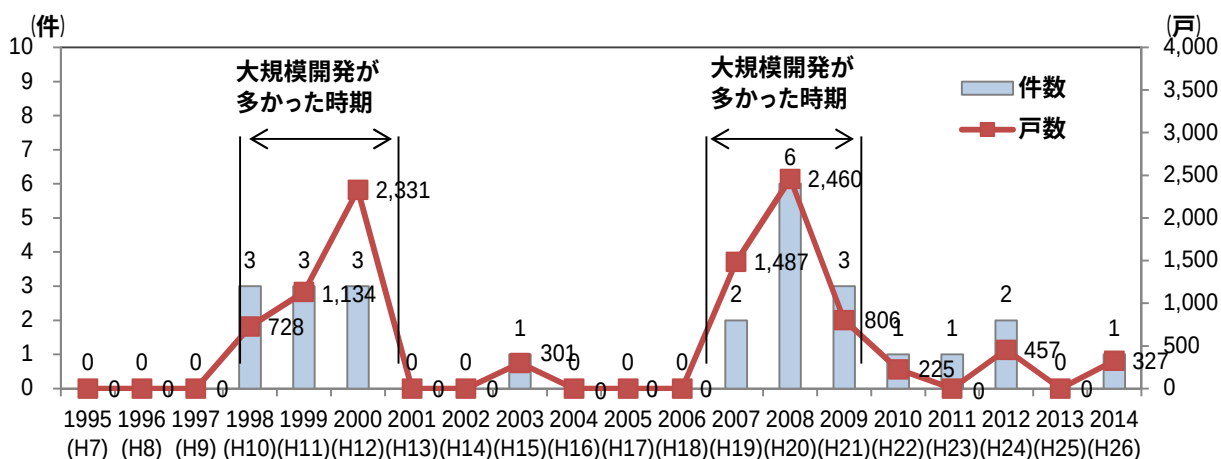
【近年の社会動態の推移】



※ (資料) 住民基本台帳 (各年 1 月 1 日時点)

※ 日本人及び外国人の両者を含む

【大規模開発（200戸以上）の推移（1995年～2014年（平成7年～平成26年））】



※ 荒川区市街地整備指導要綱及び荒川区住宅等の建築に係る住環境の整備に関する条例による受付台帳より抽出

※ 昭和 60 年から平成 9 年の間について大規模開発(200 戸以上)は行われていない

【全国の人口の将来推計】

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(千人)	128,057	126,597	124,100	120,659	116,618	112,124	107,276	102,210	97,076	91,933	86,737
2015年=100		100.0	98.0	95.3	92.1	88.6	84.7	80.7	76.7	72.6	68.5

※（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」

【社会移動の補正（％で補正）】

2019年 まで	2020年～ 2024年	2025年～ 2029年	2030年～ 2034年	2035年～ 2039年	2040年～ 2044年	2045年～ 2049年	2050年～ 2054年	2055年～ 2059年
補正なし	98.0	95.3	92.1	88.6	84.7	80.7	76.7	72.6

【基準とした社会移動率】

パターン1・男			
年齢	移動率	年齢	移動率
0歳	1.960%	45歳	0.435%
1歳	0.220%	46歳	0.436%
2歳	-0.030%	47歳	0.366%
3歳	0.481%	48歳	0.399%
4歳	0.006%	49歳	0.363%
5歳	-0.146%	50歳	0.237%
6歳	-0.222%	51歳	0.367%
7歳	-0.028%	52歳	0.266%
8歳	0.167%	53歳	0.323%
9歳	0.205%	54歳	0.338%
10歳	0.075%	55歳	0.167%
11歳	0.072%	56歳	0.213%
12歳	0.716%	57歳	0.092%
13歳	0.507%	58歳	0.291%
14歳	0.806%	59歳	0.049%
15歳	0.669%	60歳	0.004%
16歳	0.591%	61歳	-0.004%
17歳	1.740%	62歳	-0.209%
18歳	4.000%	63歳	-0.112%
19歳	2.380%	64歳	-0.060%
20歳	3.254%	65歳	-0.067%
21歳	3.150%	66歳	-0.029%
22歳	4.858%	67歳	-0.196%
23歳	3.325%	68歳	-0.035%
24歳	2.037%	69歳	-0.006%
25歳	1.872%	70歳	-0.157%
26歳	1.445%	71歳	-0.221%
27歳	1.440%	72歳	-0.093%
28歳	1.179%	73歳	-0.267%
29歳	1.370%	74歳	-0.069%
30歳	1.188%	75歳	-0.504%
31歳	1.084%	76歳	-0.620%
32歳	0.989%	77歳	-0.407%
33歳	0.552%	78歳	-0.523%
34歳	0.660%	79歳	-0.400%
35歳	0.807%	80歳	-0.356%
36歳	0.540%	81歳	-0.428%
37歳	0.566%	82歳	-0.044%
38歳	0.256%	83歳	-0.120%
39歳	0.493%	84歳	0.068%
40歳	0.642%	85歳	-0.768%
41歳	0.141%	86歳	-0.567%
42歳	0.294%	87歳	-0.399%
43歳	0.512%	88歳	-0.027%
44歳	0.365%	89歳	1.048%
		90歳以上	0.000%

パターン1・女			
年齢	移動率	年齢	移動率
0歳	2.382%	45歳	0.552%
1歳	-0.078%	46歳	0.317%
2歳	0.309%	47歳	0.534%
3歳	0.174%	48歳	0.400%
4歳	-0.392%	49歳	0.216%
5歳	0.199%	50歳	0.267%
6歳	-0.138%	51歳	0.306%
7歳	0.150%	52歳	0.272%
8歳	0.201%	53歳	0.189%
9歳	0.182%	54歳	0.323%
10歳	0.451%	55歳	0.035%
11歳	0.115%	56歳	0.077%
12歳	0.533%	57歳	-0.026%
13歳	0.397%	58歳	0.032%
14歳	0.629%	59歳	0.049%
15歳	0.768%	60歳	-0.059%
16歳	0.503%	61歳	0.048%
17歳	1.894%	62歳	-0.022%
18歳	4.775%	63歳	-0.053%
19歳	1.999%	64歳	-0.014%
20歳	3.117%	65歳	-0.055%
21歳	3.016%	66歳	-0.074%
22歳	4.520%	67歳	0.007%
23歳	2.370%	68歳	-0.069%
24歳	1.607%	69歳	-0.098%
25歳	1.201%	70歳	-0.028%
26歳	1.550%	71歳	-0.075%
27歳	1.132%	72歳	-0.206%
28歳	1.132%	73歳	-0.166%
29歳	1.250%	74歳	-0.148%
30歳	1.074%	75歳	-0.368%
31歳	0.984%	76歳	-0.316%
32歳	0.752%	77歳	-0.498%
33歳	0.476%	78歳	-0.521%
34歳	0.439%	79歳	-0.467%
35歳	0.662%	80歳	-0.465%
36歳	0.406%	81歳	-0.474%
37歳	0.595%	82歳	-0.835%
38歳	0.344%	83歳	-0.449%
39歳	0.486%	84歳	-0.713%
40歳	0.405%	85歳	-1.100%
41歳	0.342%	86歳	-1.022%
42歳	0.323%	87歳	-1.159%
43歳	0.407%	88歳	-0.956%
44歳	0.462%	89歳	-0.652%
		90歳以上	0.000%

パターン2・3・4・男			
年齢	移動率	年齢	移動率
0歳	2.744%	45歳	0.609%
1歳	0.308%	46歳	0.610%
2歳	-0.042%	47歳	0.512%
3歳	0.673%	48歳	0.558%
4歳	0.009%	49歳	0.508%
5歳	-0.205%	50歳	0.332%
6歳	-0.310%	51歳	0.514%
7歳	-0.039%	52歳	0.372%
8歳	0.234%	53歳	0.452%
9歳	0.288%	54歳	0.473%
10歳	0.105%	55歳	0.233%
11歳	0.101%	56歳	0.298%
12歳	1.002%	57歳	0.129%
13歳	0.710%	58歳	0.407%
14歳	1.128%	59歳	0.068%
15歳	0.937%	60歳	0.005%
16歳	0.827%	61歳	-0.005%
17歳	2.436%	62歳	-0.293%
18歳	5.600%	63歳	-0.157%
19歳	3.332%	64歳	-0.085%
20歳	4.556%	65歳	-0.094%
21歳	4.411%	66歳	-0.041%
22歳	6.802%	67歳	-0.274%
23歳	4.656%	68歳	-0.049%
24歳	2.852%	69歳	-0.009%
25歳	2.620%	70歳	-0.220%
26歳	2.023%	71歳	-0.310%
27歳	2.015%	72歳	-0.130%
28歳	1.651%	73歳	-0.374%
29歳	1.918%	74歳	-0.097%
30歳	1.663%	75歳	-0.706%
31歳	1.518%	76歳	-0.868%
32歳	1.384%	77歳	-0.569%
33歳	0.773%	78歳	-0.733%
34歳	0.924%	79歳	-0.560%
35歳	1.130%	80歳	-0.498%
36歳	0.757%	81歳	-0.599%
37歳	0.793%	82歳	-0.061%
38歳	0.359%	83歳	-0.169%
39歳	0.690%	84歳	0.095%
40歳	0.899%	85歳	-1.075%
41歳	0.197%	86歳	-0.793%
42歳	0.412%	87歳	-0.559%
43歳	0.716%	88歳	-0.038%
44歳	0.510%	89歳	1.468%
		90歳以上	0.000%

パターン2・3・4・女			
年齢	移動率	年齢	移動率
0歳	3.335%	45歳	0.773%
1歳	-0.110%	46歳	0.443%
2歳	0.433%	47歳	0.748%
3歳	0.244%	48歳	0.560%
4歳	-0.549%	49歳	0.302%
5歳	0.278%	50歳	0.374%
6歳	-0.193%	51歳	0.429%
7歳	0.210%	52歳	0.380%
8歳	0.281%	53歳	0.265%
9歳	0.254%	54歳	0.453%
10歳	0.631%	55歳	0.049%
11歳	0.161%	56歳	0.108%
12歳	0.746%	57歳	-0.037%
13歳	0.556%	58歳	0.045%
14歳	0.880%	59歳	0.069%
15歳	1.075%	60歳	-0.082%
16歳	0.704%	61歳	0.067%
17歳	2.651%	62歳	-0.031%
18歳	6.685%	63歳	-0.074%
19歳	2.799%	64歳	-0.019%
20歳	4.364%	65歳	-0.077%
21歳	4.223%	66歳	-0.104%
22歳	6.328%	67歳	0.010%
23歳	3.318%	68歳	-0.096%
24歳	2.250%	69歳	-0.138%
25歳	1.681%	70歳	-0.039%
26歳	2.170%	71歳	-0.105%
27歳	1.585%	72歳	-0.289%
28歳	1.584%	73歳	-0.232%
29歳	1.750%	74歳	-0.207%
30歳	1.504%	75歳	-0.515%
31歳	1.377%	76歳	-0.443%
32歳	1.053%	77歳	-0.697%
33歳	0.667%	78歳	-0.729%
34歳	0.614%	79歳	-0.654%
35歳	0.926%	80歳	-0.651%
36歳	0.568%	81歳	-0.664%
37歳	0.832%	82歳	-1.169%
38歳	0.482%	83歳	-0.629%
39歳	0.680%	84歳	-0.998%
40歳	0.567%	85歳	-1.540%
41歳	0.479%	86歳	-1.430%
42歳	0.452%	87歳	-1.623%
43歳	0.570%	88歳	-1.338%
44歳	0.646%	89歳	-0.913%
		90歳以上	0.000%

2 東京都の将来人口推計方法

(1) 予測期間

2010 年（平成 22 年）から 2035 年（平成 47 年）までの 5 年ごとの 25 年間

(2) 予測区分

東京都の男女別総人口及び区市町村ごとの男女別総人口

(3) 予測方法

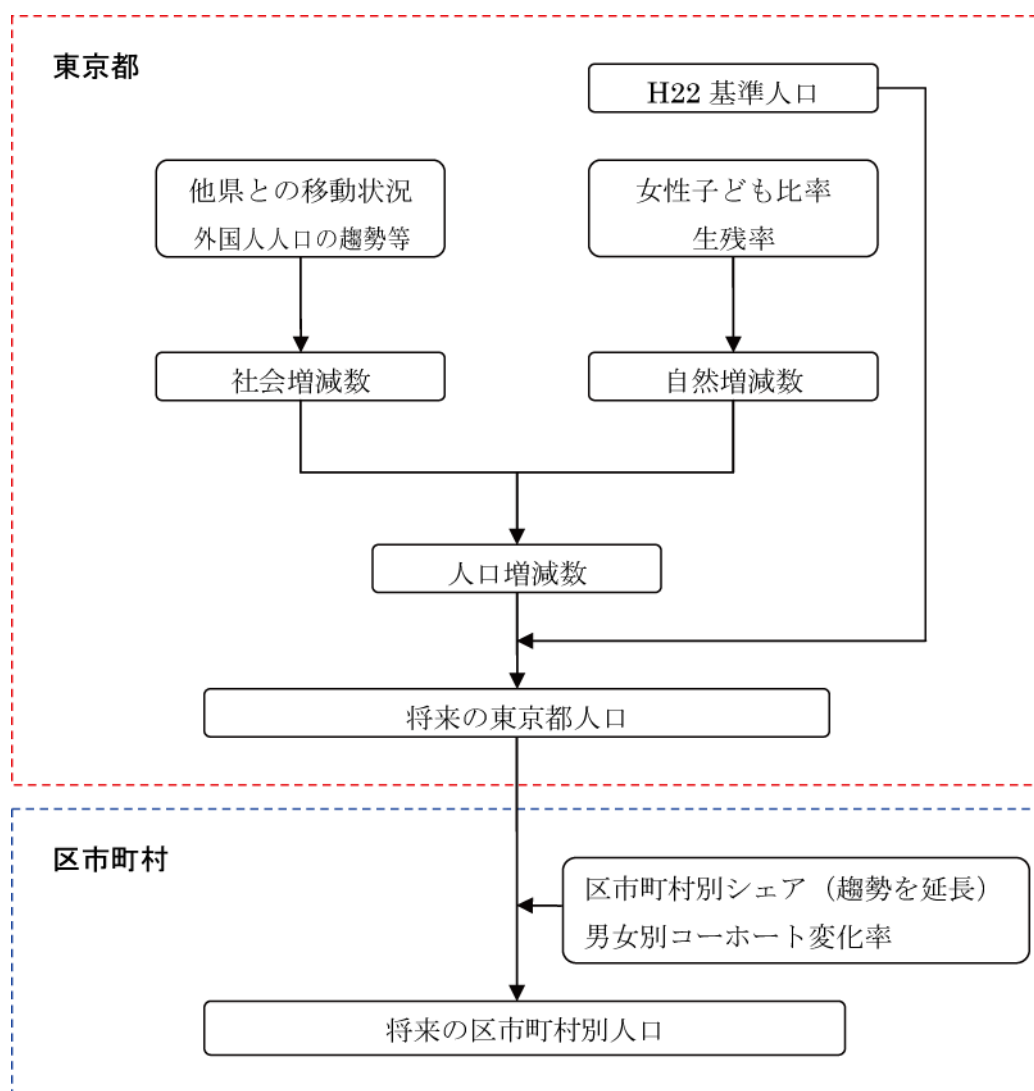
2010 年（平成 22 年）の国勢調査結果に基づく人口を基準人口とし、5 年ごとに 5 時点の人口を前期の人口から次期の人口を求める方法で予測した。

まず、将来の東京都の総人口を予測し、次に将来の区市町村別の総人口を予測した。

- ① 将来の東京都の総人口は、他県との人口移動状況や外国人人口の趨勢などから社会増減数を予測し、女性こども比率や生残率から自然増減数を予測して、基準人口（男女年齢別）に加えて予測した。
- ② 将来の区市町村別の総人口は、東京都に占める区市町村別シェア（人口構成比）の趨勢を延長し、将来の東京都の総人口に乗じて求めた人口をベースとし、区市町村別の年齢階級別構成と性比の推移をコーホート変化率により求めたものを考慮して予測した。

なお、2011 年（平成 23 年）12 月に公表された「2020 年の東京」（東京都知事本局）における将来人口とも整合している。

【予測方法のフロー図】



※（資料）東京都「東京都区市町村別人口の予測」平成 24 年 3 月公表

（参考表）東京都総人口予測における社会増減数及び自然増減数（仮定値）

（単位 万人）

年 次	人口増減数	社会増減数		自然増減数
		社会増減数	自然増減数	
H22→H27 の 5 年間	15.2	22.7	△ 7.5	
H27→H32 の 5 年間	3.5	19.5	△16.0	
H32→H37 の 5 年間	△ 8.6	16.7	△25.3	
H37→H42 の 5 年間	△19.2	13.3	△32.5	
H42→H47 の 5 年間	△28.4	10.2	△38.6	

注）自然増減数は 0～4 歳人口から 5 歳以上の死亡数を差引いたもの

社会増減数は 5 歳以上の転入超過数（転入者数－転出者数）等

※（資料）東京都「東京都区市町村別人口の予測」2012 年（平成 24 年）3 月公表

3 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計方法

(1) 推計概要

①推計資料

「日本の地域別将来推計人口」（2013 年（平成 25 年）3 月推計）

②基準人口

2010 年（平成 22 年）の国勢調査

③推計期間

2010 年（平成 22 年）10 月 1 日から 2040 年（平成 52 年）10 月 1 日までの 30 年間（5 年ごと）

なお、自治体別の推計値の合計は、「日本の将来推計人口（2012 年（平成 24 年）1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）による推計値に合致するようにしている。

(2) 各指標を利用した推計計算の手順

t 年の男女 5 歳階級別人口から t+5 年の男女 5 歳階級別人口を推計する際には、まず t 年の段階で 0 歳以上、すなわち t+5 年において 5 歳以上となる人口の推計からスタートする。t 年の男女 s、年齢 x~x+4 歳の人口を $P(t, s, x \sim x+4)$ とすると、 $P(t+5, s, x+5 \sim x+9)$ の算出式は下記のとおりである。

$$P(t+5, s, x+5 \sim x+9) = P(t, s, x \sim x+4) \times \{ S(t \rightarrow t+5, s, x \sim x+4 \rightarrow x+5 \sim x+9) + NM(t \rightarrow t+5, s, x \sim x+4 \rightarrow x+5 \sim x+9) \}$$

ただし、 $t=2010, 2015, \dots, 2035$ 、 $x=0, 5, 10, \dots, 80$

t+5 年において最高年齢階級である 90 歳以上の人口は、t 年において 85 歳以上の人口を基準として算出する。すなわち、

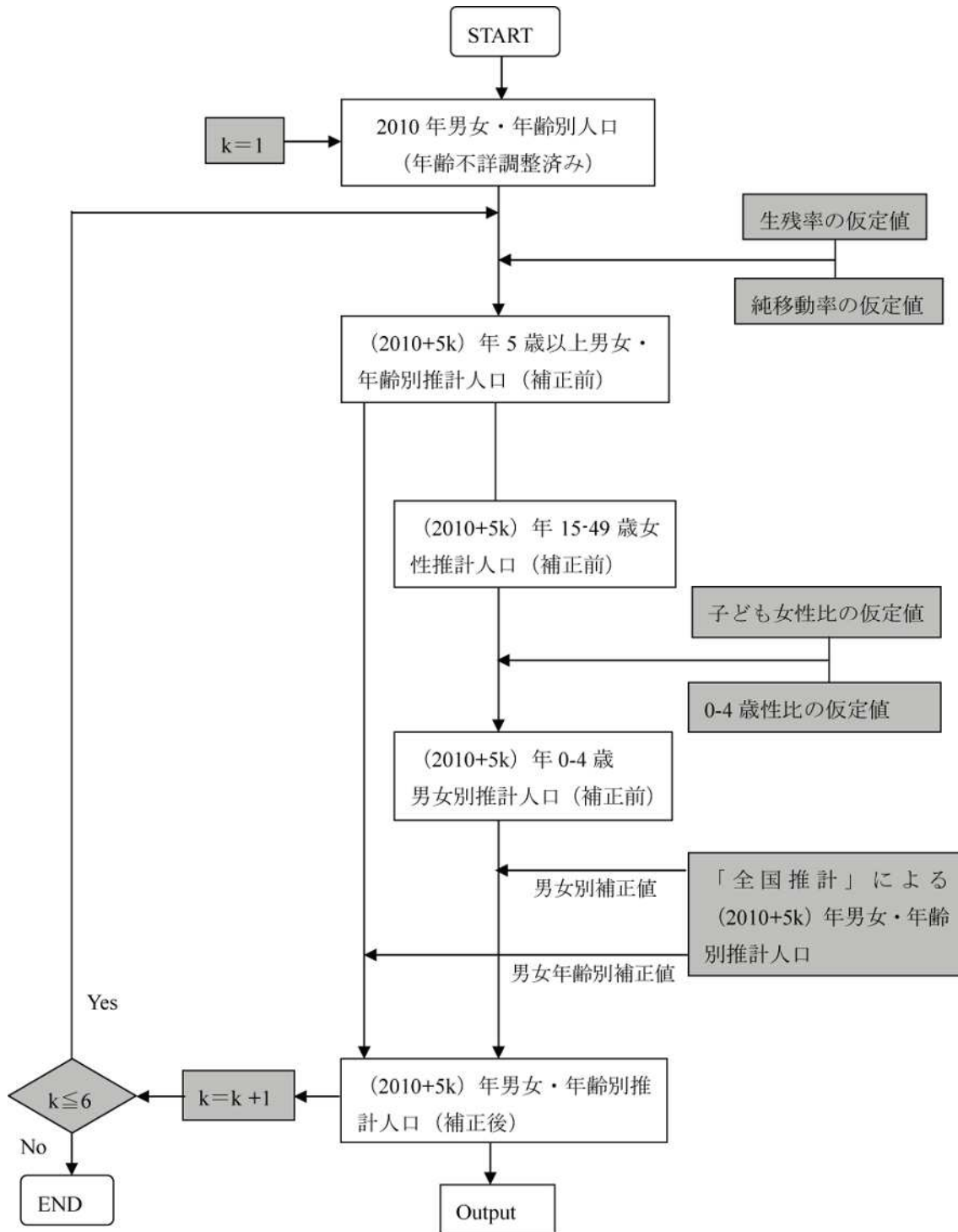
$$P(t+5, s, 90+) = P(t, s, 85+) \times \{ S(t \rightarrow t+5, s, 85+ \rightarrow 90+) + NM(t \rightarrow t+5, s, 85+ \rightarrow 90+) \}$$

続いて、 $t \rightarrow t+5$ 年の期間に出生し、t+5 年に 0-4 歳となる人口の推計を行う。算出式は、男性を m、女性を f とすると、下記のとおりである。

$$\begin{aligned} P(t+5, m, 0-4) &= P(t+5, f, 15-49) \times CWR(t+5) \times \{ SR(t+5) / (100 + SR(t+5)) \} \\ P(t+5, f, 0-4) &= P(t+5, f, 15-49) \times CWR(t+5) \times \{ 100 / (100 + SR(t+5)) \} \end{aligned}$$

以上により、t 年の男女 5 歳階級別人口から t+5 年の男女 5 歳階級別人口の推計が完了する。

【地域別将来人口推計のフローチャート】



推計に使用した仮定値（荒川区）

生残率・男

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.99926	0.99937	0.99944	0.99949	0.99954	0.99958
5～9歳→10～14歳	0.99955	0.99960	0.99965	0.99967	0.99970	0.99972
10～4歳→15～19歳	0.99926	0.99933	0.99938	0.99943	0.99946	0.99949
15～19歳→20～24歳	0.99833	0.99844	0.99851	0.99857	0.99861	0.99864
20～24歳→25～29歳	0.99776	0.99784	0.99788	0.99792	0.99794	0.99795
25～29歳→30～34歳	0.99725	0.99735	0.99741	0.99746	0.99750	0.99753
30～34歳→35～39歳	0.99639	0.99655	0.99666	0.99676	0.99684	0.99690
35～39歳→40～44歳	0.99447	0.99474	0.99495	0.99512	0.99527	0.99539
40～44歳→45～49歳	0.99104	0.99152	0.99189	0.99222	0.99250	0.99274
45～49歳→50～54歳	0.98547	0.98624	0.98686	0.98738	0.98784	0.98824
50～54歳→55～59歳	0.97600	0.97730	0.97834	0.97925	0.98006	0.98078
55～59歳→60～64歳	0.96102	0.96313	0.96483	0.96636	0.96772	0.96895
60～64歳→65～69歳	0.92681	0.92981	0.93223	0.93440	0.93636	0.93814
65～69歳→70～74歳	0.89361	0.89817	0.90177	0.90492	0.90771	0.91020
70～74歳→75～79歳	0.83677	0.84460	0.85070	0.85591	0.86039	0.86426
75～79歳→80～84歳	0.74657	0.75883	0.76835	0.77657	0.78370	0.78989
80～84歳→85～89歳	0.60907	0.62631	0.63968	0.65136	0.66160	0.67059
85歳以上→90歳以上	0.35754	0.37203	0.38375	0.39426	0.40368	0.41214

生残率・女

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.99937	0.99945	0.99951	0.99955	0.99958	0.99962
5～9歳→10～14歳	0.99965	0.99968	0.99971	0.99973	0.99976	0.99977
10～4歳→15～19歳	0.99946	0.99950	0.99953	0.99956	0.99958	0.99960
15～19歳→20～24歳	0.99894	0.99900	0.99904	0.99908	0.99911	0.99914
20～24歳→25～29歳	0.99865	0.99871	0.99876	0.99881	0.99885	0.99888
25～29歳→30～34歳	0.99839	0.99847	0.99854	0.99860	0.99866	0.99870
30～34歳→35～39歳	0.99788	0.99800	0.99809	0.99816	0.99823	0.99829
35～39歳→40～44歳	0.99674	0.99692	0.99706	0.99719	0.99729	0.99739
40～44歳→45～49歳	0.99509	0.99537	0.99559	0.99578	0.99595	0.99609
45～49歳→50～54歳	0.99220	0.99265	0.99300	0.99332	0.99360	0.99385
50～54歳→55～59歳	0.98829	0.98895	0.98948	0.98996	0.99038	0.99076
55～59歳→60～64歳	0.98344	0.98434	0.98507	0.98572	0.98631	0.98683
60～64歳→65～69歳	0.97197	0.97330	0.97434	0.97528	0.97611	0.97685
65～69歳→70～74歳	0.95589	0.95811	0.95987	0.96140	0.96274	0.96394
70～74歳→75～79歳	0.92568	0.92992	0.93326	0.93613	0.93862	0.94080
75～79歳→80～84歳	0.86942	0.87762	0.88399	0.88948	0.89423	0.89838
80～84歳→85～89歳	0.76066	0.77595	0.78794	0.79832	0.80736	0.81528
85歳以上→90歳以上	0.47212	0.48812	0.50120	0.51294	0.52352	0.53308

純移動率・男

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.02603	0.01392	0.01366	0.01279	0.01227	0.01202
5～9歳→10～14歳	0.02493	0.01178	0.01134	0.01089	0.01028	0.00989
10～4歳→15～19歳	0.10168	0.06304	0.05145	0.04721	0.04530	0.04311
15～19歳→20～24歳	0.31919	0.22582	0.21436	0.18493	0.17396	0.16876
20～24歳→25～29歳	0.19837	0.15647	0.16242	0.15627	0.13975	0.13359
25～29歳→30～34歳	0.09564	0.07088	0.07732	0.08030	0.07676	0.06806
30～34歳→35～39歳	0.02960	0.01832	0.01929	0.02073	0.02158	0.02035
35～39歳→40～44歳	0.03664	0.02175	0.01990	0.01981	0.02143	0.02247
40～44歳→45～49歳	0.01599	0.00942	0.00836	0.00727	0.00724	0.00807
45～49歳→50～54歳	0.00976	0.00502	0.00442	0.00351	0.00278	0.00278
50～54歳→55～59歳	-0.01325	-0.01082	-0.01060	-0.01085	-0.01094	-0.01082
55～59歳→60～64歳	-0.00534	-0.00551	-0.00560	-0.00571	-0.00623	-0.00661
60～64歳→65～69歳	-0.03883	-0.02964	-0.02911	-0.02881	-0.02863	-0.02906
65～69歳→70～74歳	-0.04266	-0.02971	-0.03134	-0.03088	-0.03057	-0.03033
70～74歳→75～79歳	-0.03759	-0.02836	-0.02572	-0.02872	-0.02792	-0.02747
75～79歳→80～84歳	-0.02747	-0.02113	-0.02291	-0.01899	-0.02362	-0.02233
80～84歳→85～89歳	-0.03330	-0.02487	-0.02655	-0.02866	-0.02343	-0.02955
85歳以上→90歳以上	0.01788	0.02309	0.01670	0.00940	0.00693	0.01494

純移動率・女

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.03164	0.01850	0.01802	0.01712	0.01656	0.01627
5～9歳→10～14歳	0.04088	0.02148	0.02087	0.02020	0.01928	0.01872
10～4歳→15～19歳	0.10948	0.06528	0.05450	0.05145	0.04960	0.04739
15～19歳→20～24歳	0.31123	0.23192	0.21034	0.18251	0.17418	0.16887
20～24歳→25～29歳	0.15102	0.12425	0.13349	0.12330	0.11011	0.10599
25～29歳→30～34歳	0.09060	0.06596	0.07445	0.07923	0.07249	0.06397
30～34歳→35～39歳	0.04289	0.02549	0.02720	0.02980	0.03185	0.02893
35～39歳→40～44歳	0.03339	0.01876	0.01723	0.01757	0.01941	0.02091
40～44歳→45～49歳	0.02302	0.01344	0.01166	0.01023	0.01038	0.01156
45～49歳→50～54歳	0.01246	0.00656	0.00567	0.00455	0.00373	0.00380
50～54歳→55～59歳	0.01000	0.00466	0.00401	0.00330	0.00241	0.00181
55～59歳→60～64歳	0.00778	0.00414	0.00348	0.00294	0.00232	0.00160
60～64歳→65～69歳	-0.00318	-0.00329	-0.00311	-0.00297	-0.00288	-0.00307
65～69歳→70～74歳	-0.01261	-0.00871	-0.00964	-0.00940	-0.00924	-0.00914
70～74歳→75～79歳	-0.01152	-0.00895	-0.00756	-0.00937	-0.00892	-0.00860
75～79歳→80～84歳	-0.01860	-0.01389	-0.01436	-0.01217	-0.01529	-0.01447
80～84歳→85～89歳	-0.03897	-0.02881	-0.02935	-0.03059	-0.02664	-0.03182
85歳以上→90歳以上	0.01441	0.01839	0.01285	0.00395	0.00167	0.00992

子ども女性比

2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0.16690	0.15563	0.15512	0.15907	0.16282	0.16337

0～4歳性比

2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
105.41	105.40	105.40	105.40	105.40	105.41

※（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2013年（平成25年）3月推計

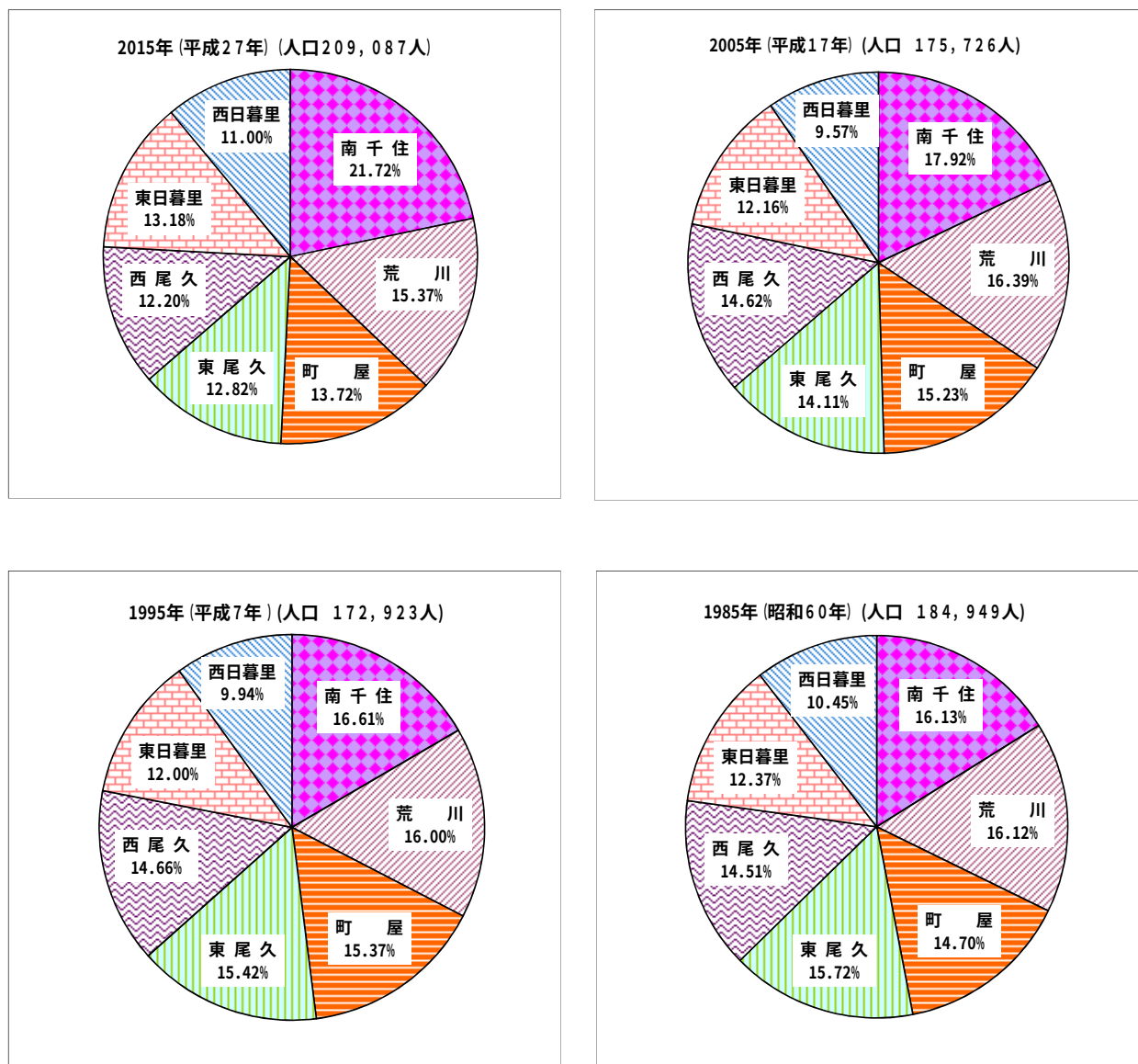
4 その他の人口動向分析資料

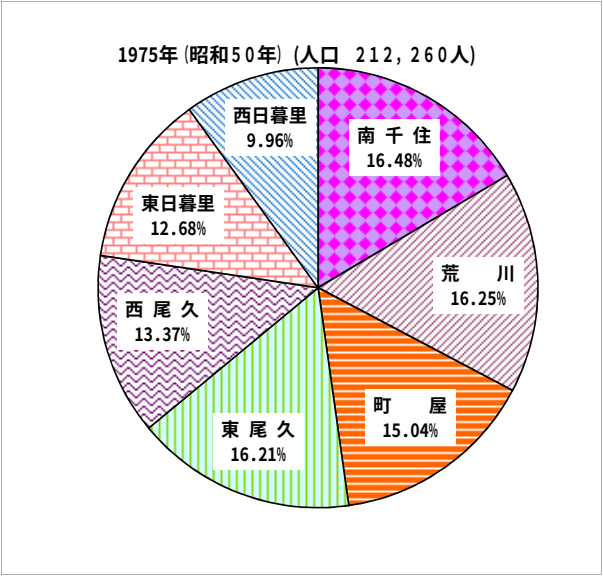
荒川区における人口の地域別構成比を見ると（図表 39）、突出して割合が増加しているのは、南千住地区であり、1975 年（昭和 50 年）には全体の 16.48 %でしたが 2015 年（平成 27 年）には 21.72%と 5.24 %増加しています。これは汐入地域を中心とする南千住地区の大規模開発が影響していると考えられます。

また、東日暮里地区及び西日暮里地区を合わせた日暮里地区についても、1975 年（昭和 50 年）には 22.64%から 2015 年（平成 27 年）には 24.18%へと 1.54%増加しており、この 2 地区についても大規模開発の影響が出ていると考えられます。

その他の 4 地区については、南千住地区、東日暮里地区、西日暮里地区の人口が増加していることに伴い、割合としては減少しています。

図表 39 人口の地域別構成比



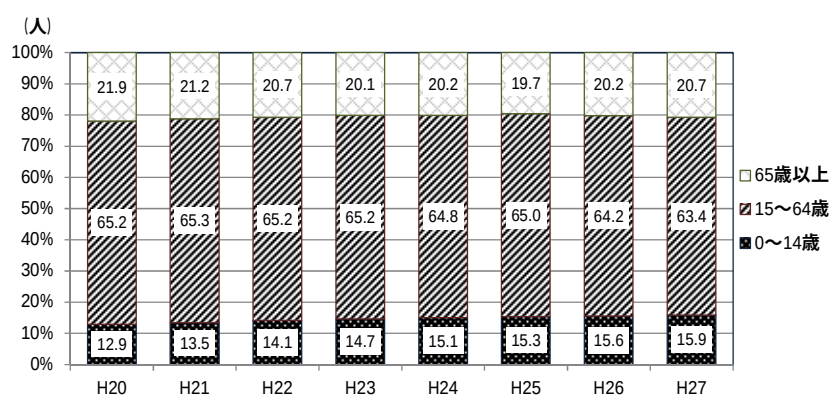


なお、2015 年（平成 27 年）の年齢 3 区分別人口割合を地区別で見ると（図表 40～図表 46）、老年人口割合は、高い順に、西尾久（26.8%）、町屋（25.4%）、荒川（24.6%）、東尾久（24.4%）、東日暮里（21.4%）、南千住（20.7%）、西日暮里（19.7%）となっています。

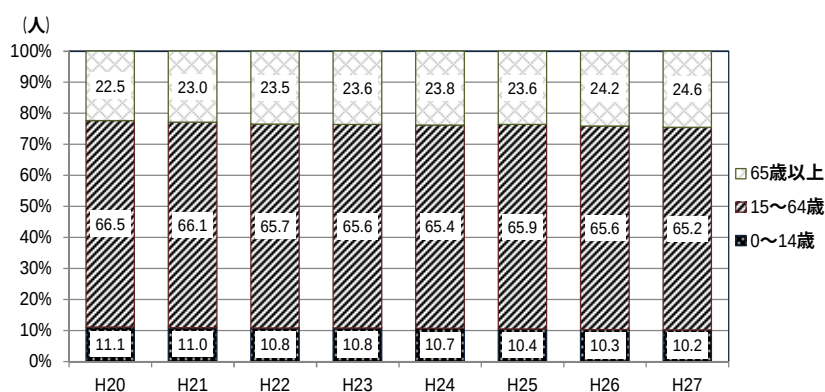
年少人口割合は、低い順に、東日暮里（9.4%）、西日暮里（9.9%）、荒川（10.2%）、東尾久・西尾久（10.6%）、町屋（11.1%）、南千住（15.9%）となっています。南千住地区は大規模開発によりファミリー世帯が流入していることから、年少人口割合も高くなっていると考えられます。

生産年齢人口割合は、高い順に、西日暮里（70.4%）、東日暮里（69.1%）、荒川（65.2%）、東尾久（65.0%）、町屋（63.5%）、南千住（63.4%）、西尾久（62.6%）となっています。

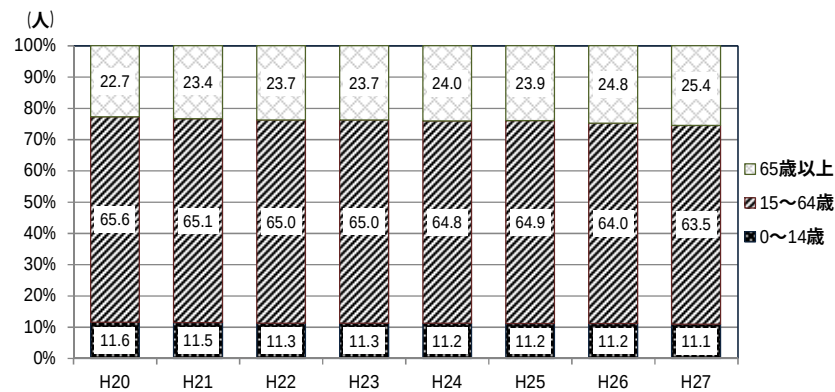
図表 40 年齢 3 区分別人口割合の推移（南千住地区）



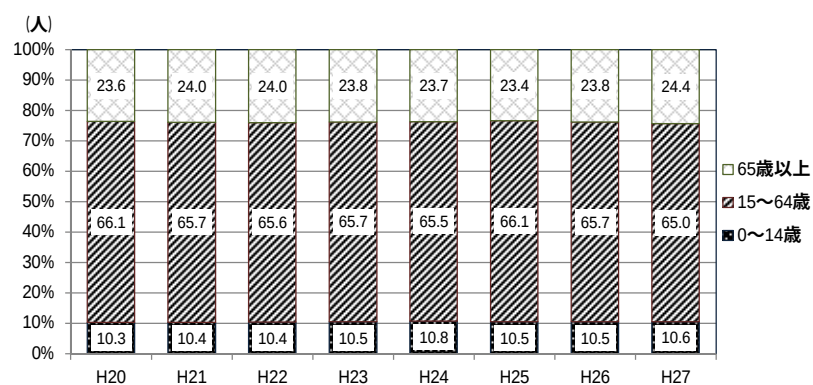
図表 41 年齢 3 区分別人口割合の推移（荒川地区）



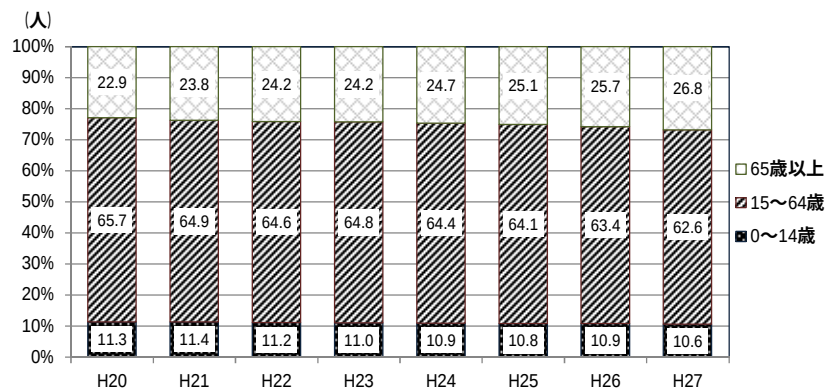
図表 42 年齢 3 区分別人口割合の推移（町屋地区）



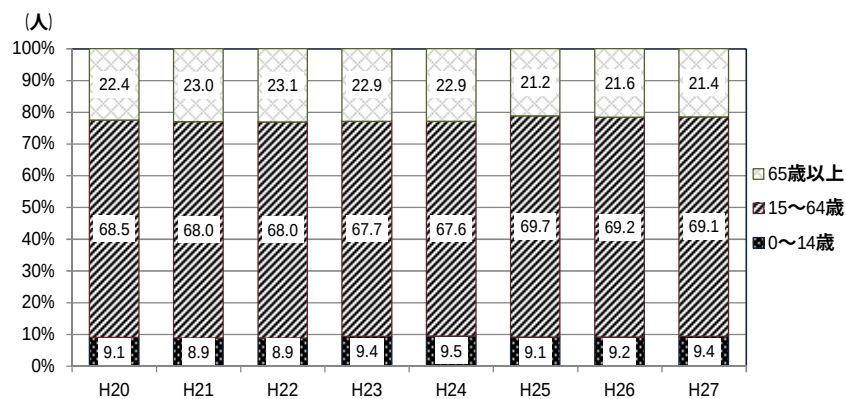
図表 43 年齢 3 区分別人口割合の推移（東尾久地区）



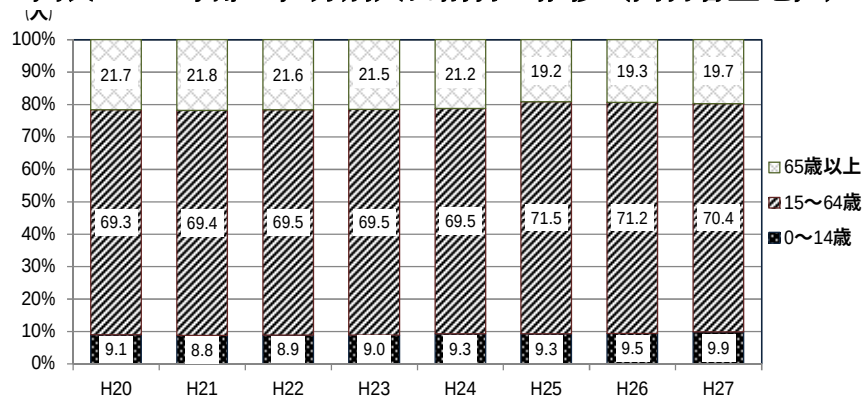
図表 44 年齢 3 区分別人口割合の推移（西尾久地区）



図表 45 年齢 3 区分別人口割合の推移（東日暮里地区）



図表 46 年齢3区分別人口割合の推移（西日暮里地区）



2014 年（平成 26 年）の荒川区への転入者の従前の住所地を見ると（図表 47）、東京都内からの転入者数が 7,160 人と最も多く、埼玉県の 1,211 人、千葉県の 1,104 人、神奈川県 748 人が続いており、関東地域からの転入者が多いことがわかります。

特別区内では、足立区の 1,078 人が最も多く、台東区の 1,060 人、北区の 696 人が続いており、比較的、近隣地域からの転入が多いことがわかります。

図表 47 荒川区への転入者の従前の住所地

平成26年

従前の住所地			転入者数			従前の住所地			転入者数		
			男	女	総数				男	女	総数
北海道	1		85	78	163	京都府	26		34	33	67
青森県	2		39	33	72	大阪府	27		143	105	248
岩手県	3		26	19	45	兵庫県	28		74	53	127
宮城県	4		65	47	112	奈良県	29		15	14	29
秋田県	5		21	26	47	和歌山県	30		5	1	6
山形県	6		14	20	34	鳥取県	31		11	12	23
福島県	7		39	39	78	島根県	32		5	7	12
茨城県	8		144	153	297	岡山県	33		15	10	25
栃木県	9		79	43	122	広島県	34		33	15	48
群馬県	10		57	41	98	山口県	35		9	8	17
埼玉県	11		620	591	1,211	徳島県	36		6	5	11
千葉県	12		571	533	1,104	香川県	37		9	11	20
東京都	13		3,734	3,426	7,160	愛媛県	38		15	9	24
神奈川県	14		419	329	748	高知県	39		5	5	10
新潟県	15		38	60	98	福岡県	40		79	47	126
富山県	16		16	16	32	佐賀県	41		10	3	13
石川県	17		19	14	33	長崎県	42		11	14	25
福井県	18		9	5	14	熊本県	43		20	24	44
山梨県	19		24	12	36	大分県	44		3	5	8
長野県	20		38	42	80	宮崎県	45		6	6	12
岐阜県	21		18	15	33	鹿児島県	46		13	7	20
静岡県	22		78	66	144	沖縄県	47		30	21	51
愛知県	23		119	82	201	国 外	48		1,184	983	2,167
三重県	24		27	20	47	従前の住所なし	49		129	27	156
滋賀県	25		16	7	23	計			8,179	7,142	15,321

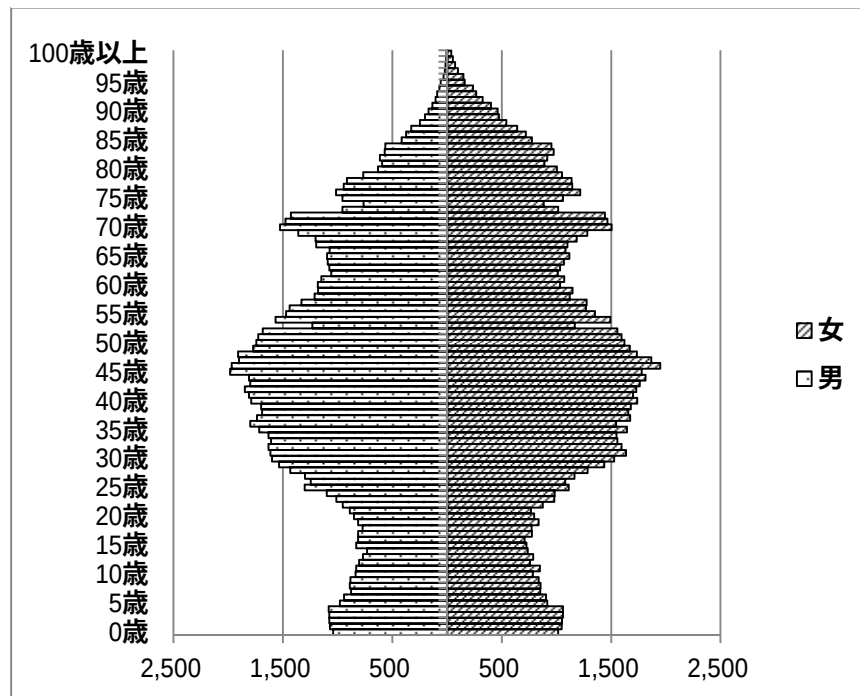
再掲	千代田区	72	大田区	215	葛飾区	410
	中央区	129	世田谷区	228	江戸川区	219
	港区	136	渋谷区	94	区部計	6,995
	新宿区	383	中野区	144		
	文京区	344	杉並区	207	府中市	67
	台東区	1,060	豊島区	449	町田市	63
	墨田区	220	北区	696	八王子市	52
	江東区	219	板橋区	293	調布市	49
	品川区	140	練馬区	180	西東京市	45
	目黒区	79	足立区	1,078	市町村部計	623
					合計	7,618

※再掲載の内訳は、上部の表と算出基準日が異なるため、東京都総数とは必ずしも一致しない。

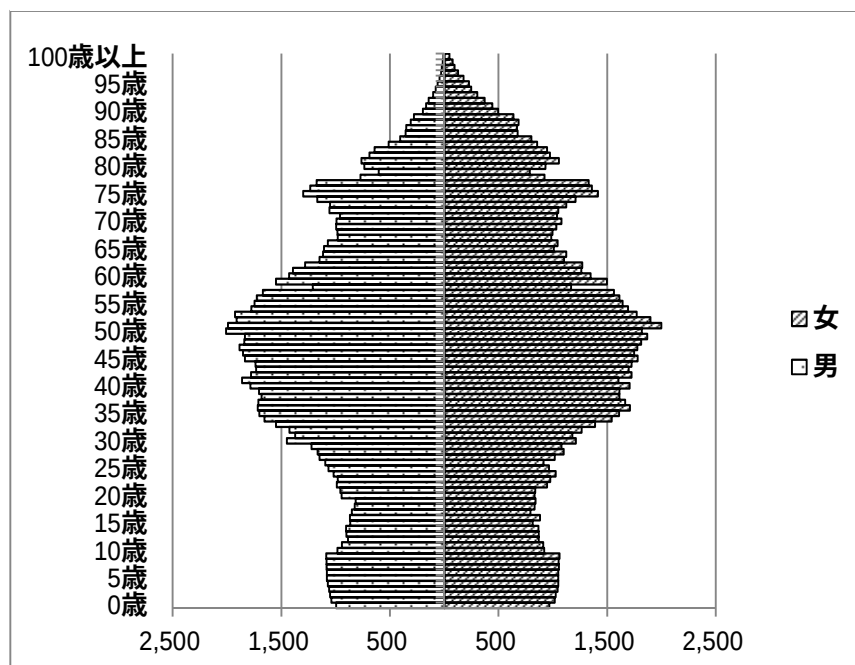
※市町村部については、転入者の多い市町村を 5 市記載。

将来人口推計のパターン 2（想定人口）をもとに、2015 年から 2060 年まで（2015 年と 2060 年については本文中に掲載）の人口ピラミッド（各歳別）を 5 年ごとに示します。

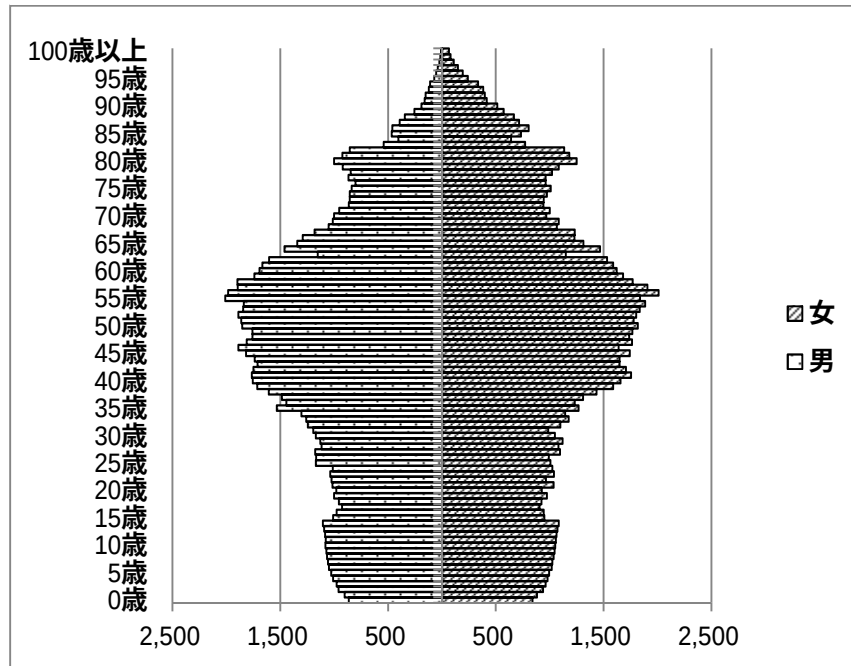
図表 48 2020 年の人口ピラミッド



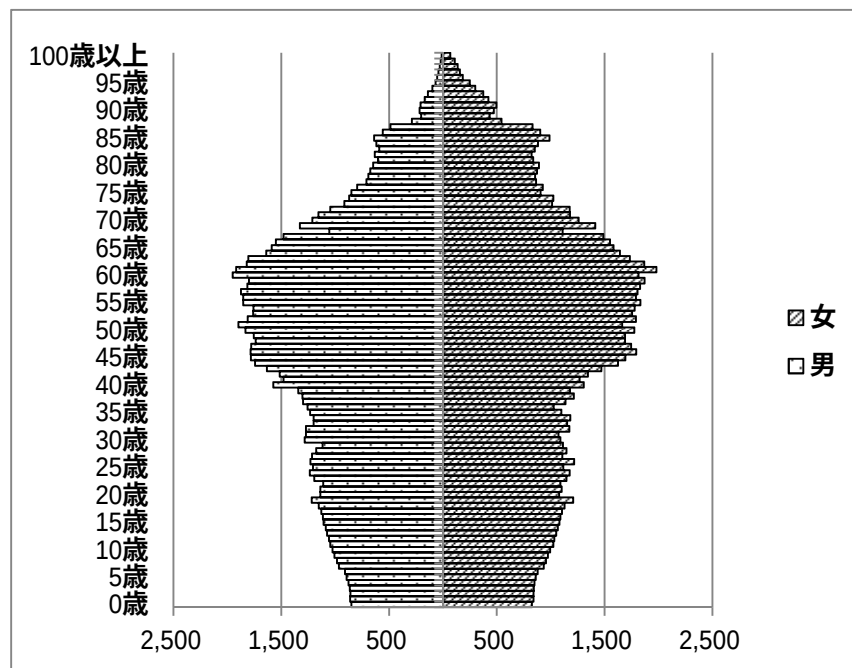
図表 49 2025 年の人口ピラミッド



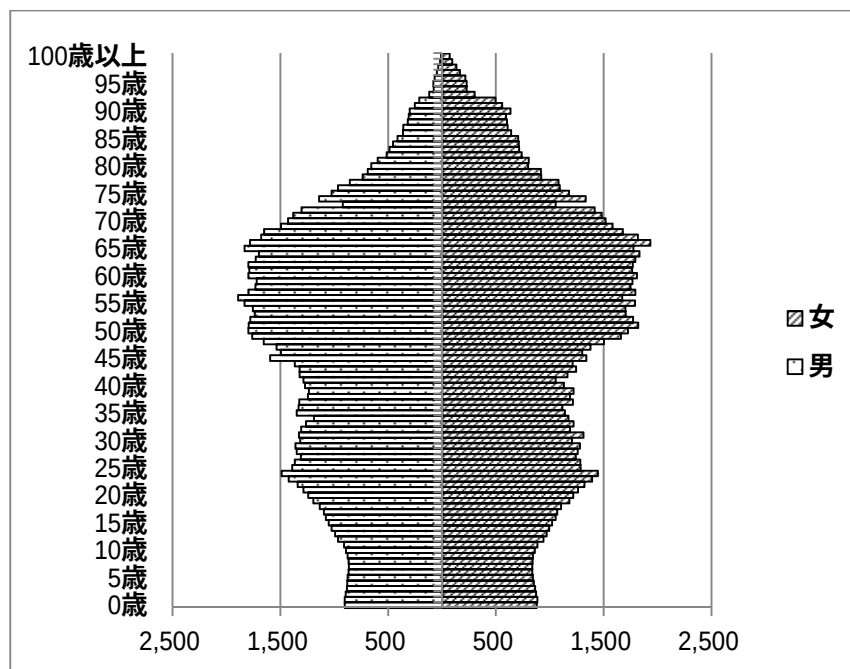
図表 50 2030 年の人口ピラミッド



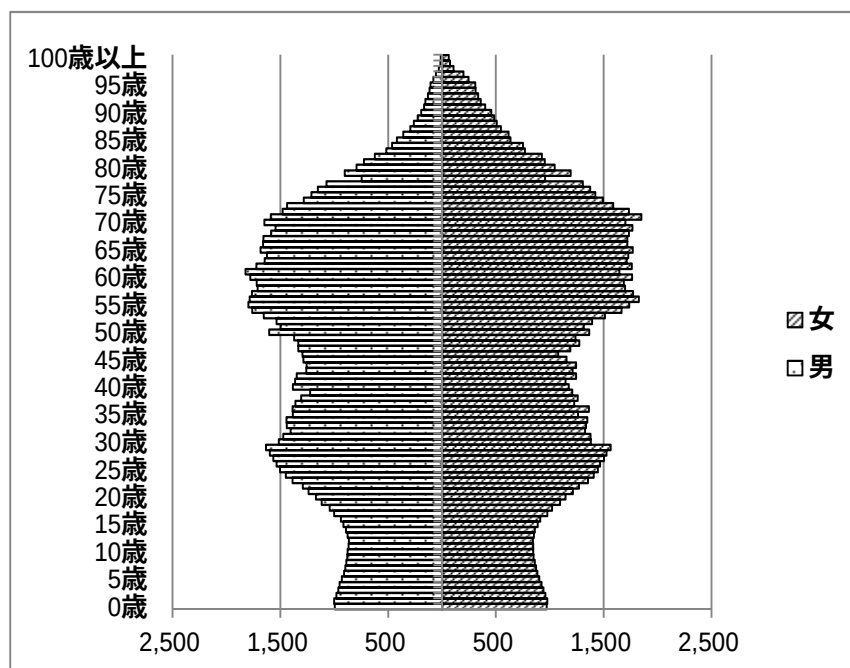
図表 51 2035 年の人口ピラミッド



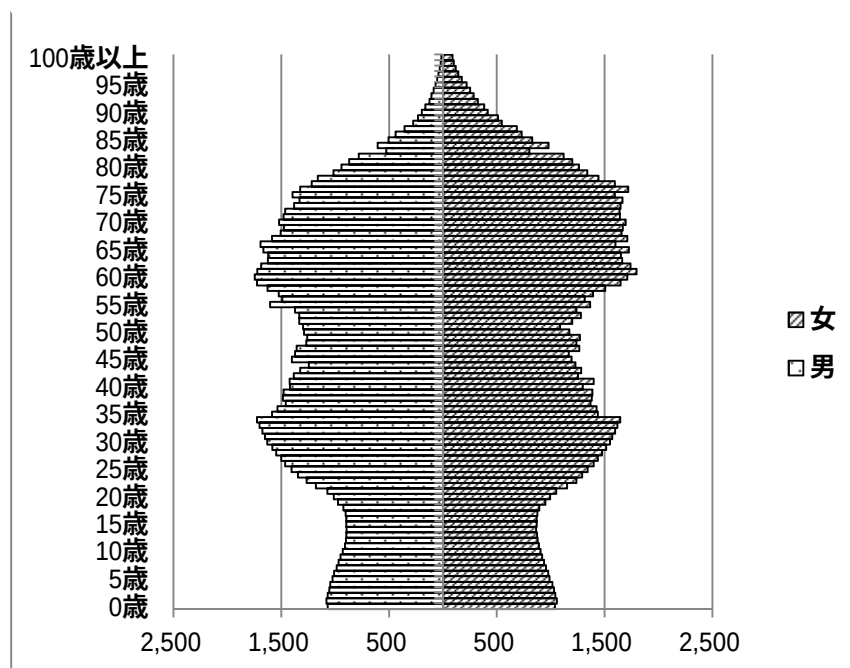
図表 52 2040 年の人口ピラミッド



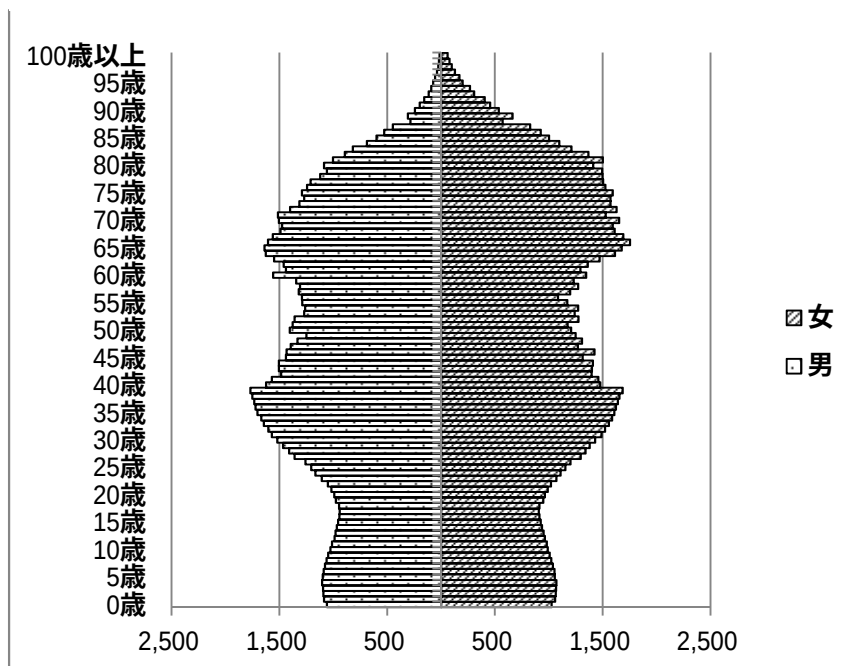
図表 53 2045 年の人口ピラミッド



図表 54 2050 年の人口ピラミッド



図表 55 2055 年の人口ピラミッド



平成 28 年 3 月発行

登録番号 (27) 0114 号

荒川区人口ビジョン

発 行 荒川区総務企画部総務企画課
〒116 - 8501 荒川区荒川 2 - 2 - 3
TEL 03-3802-3111 (代表)